



阪神郷土地理

特 227

475

神地理研究會編

富士原書店發行

別格官幣社湊川神社



始





武庫村

武庫山地

武庫山

至京都

至うめだ 至おほさか

至大阪 至うめだ

濱甲子園

打出

江深

田中

在吉

山田

御

市

市

西蔵人

鹿嶋

甲山

新田

吉楽園

中畑

山天

湯桶山

八形山

野

唐

山

山

特227
475

由良要塞司令部檢閱濟・大阪憲兵隊檢閱濟



阪神郷土地理

阪神地理研究會編



富士原書店發行



由良要塞司令部檢閱濟・大阪憲兵隊檢閱濟

阪神郷土地理

阪神地理研究會編



富士原書店發行



圖書室藏書



富士原書店發行

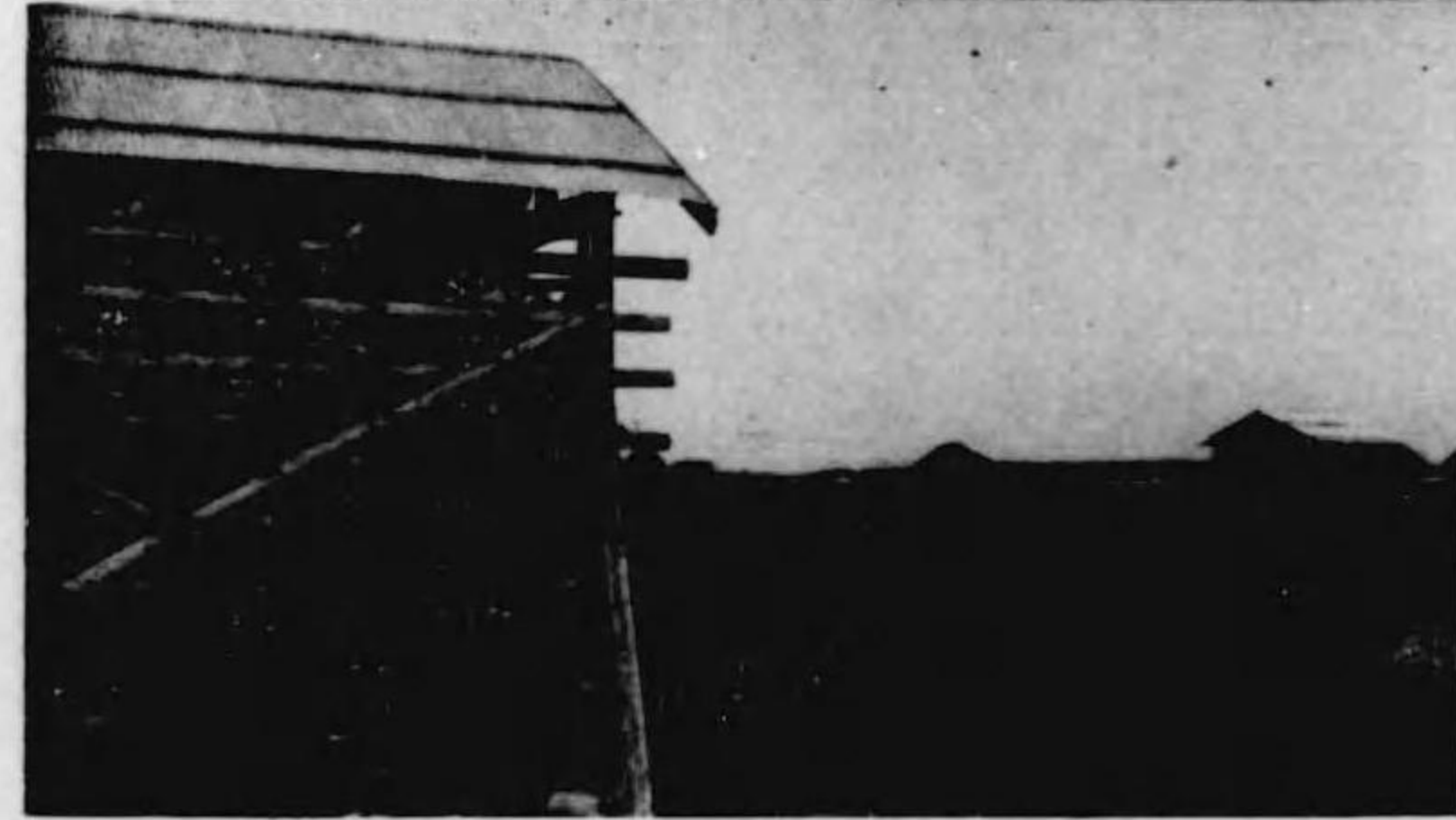




大
坂
城



堅
下
村
葡
萄
園



泉
南
郡
の
農
業

聖 皇 土 誠 輝 照

皇 皇 聖 皇 聖 皇 聖 皇



皇 皇 聖 皇 聖 皇 聖 皇

安治川(大阪市)



宮水の井戸場(西宮市)

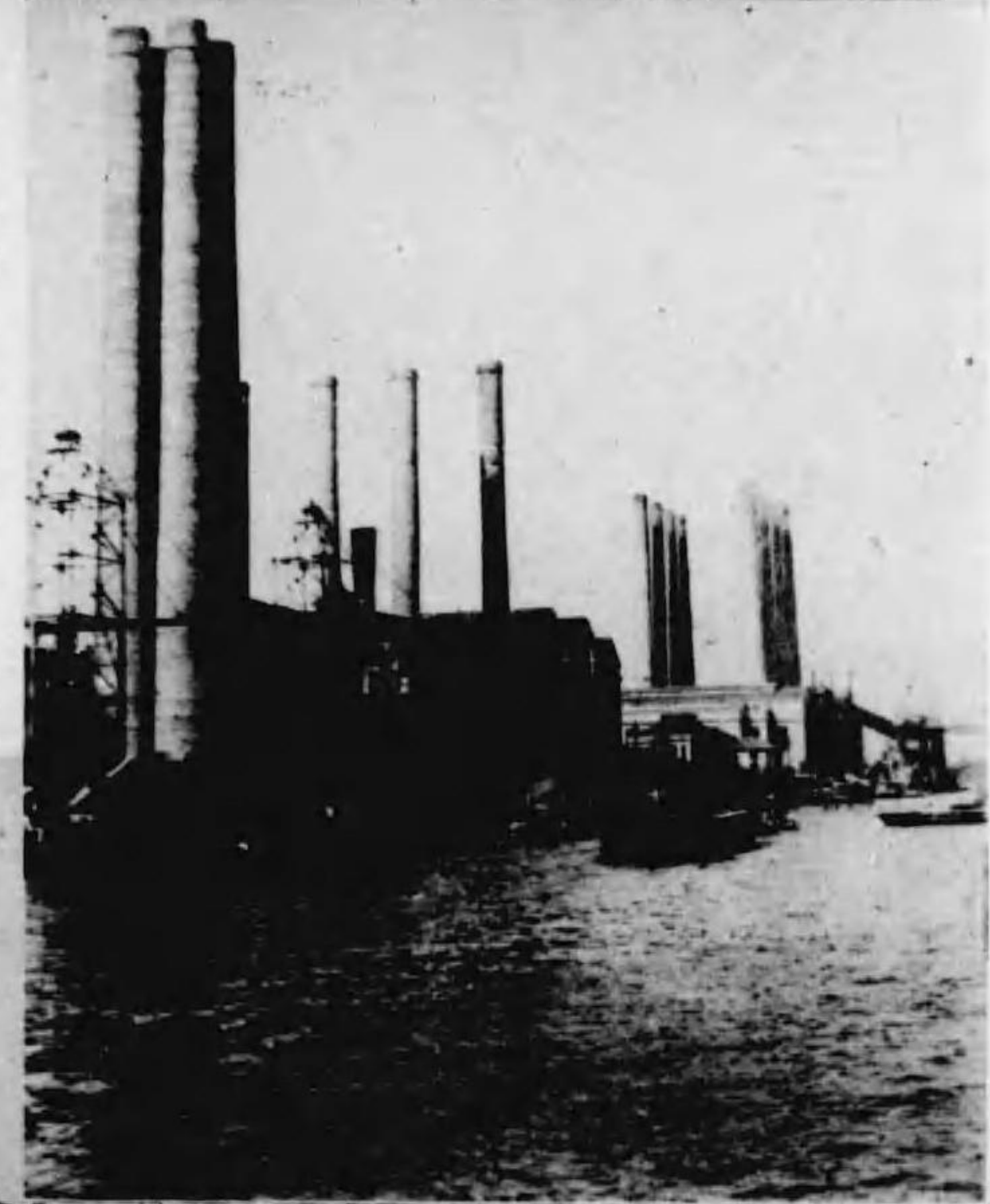


西宮市の酒倉

川邊郡の園藝



大阪市工業地帯



倉屋敷(江戸堀)





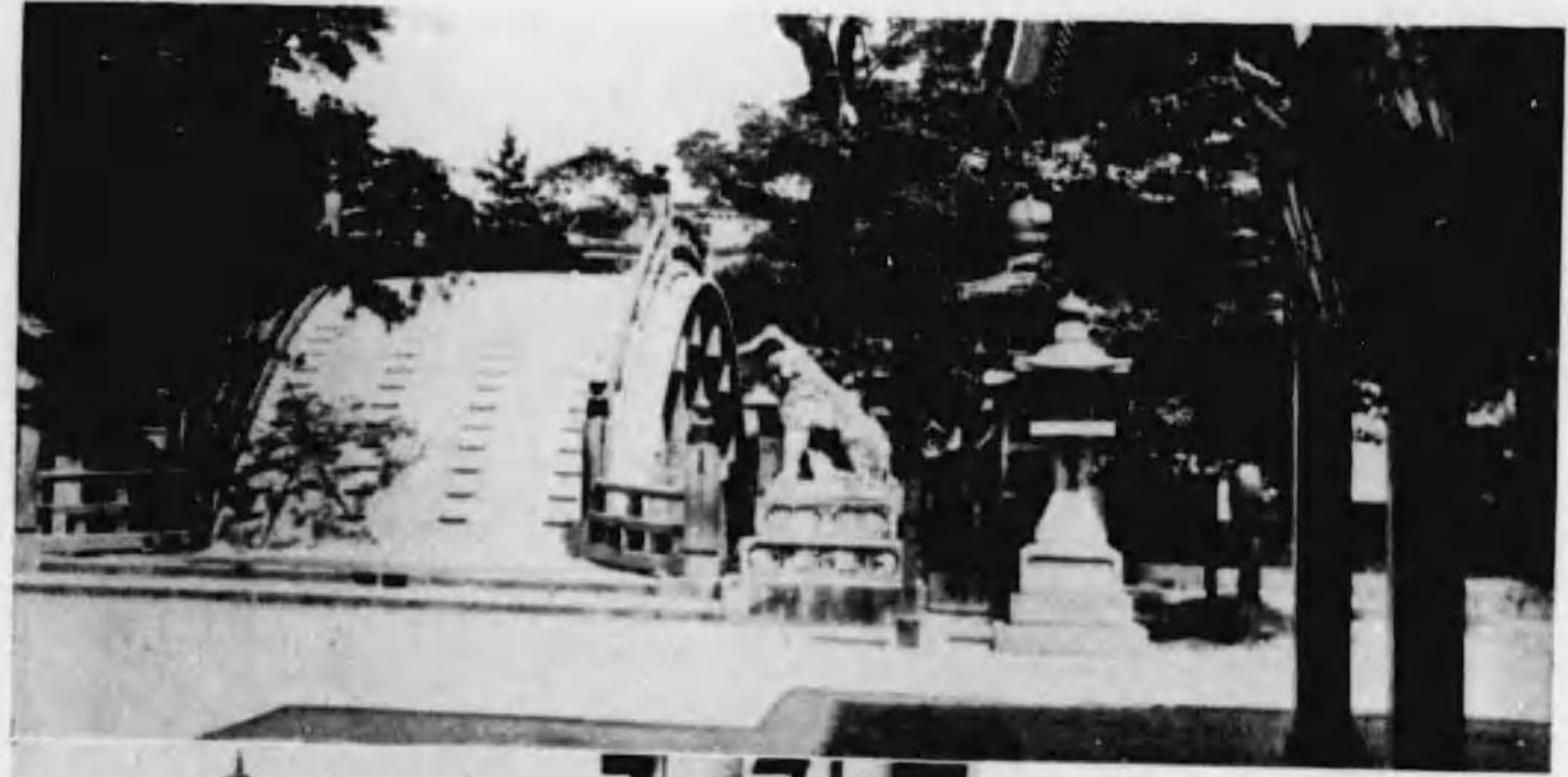
別格官幣社湊川神社



神戸市元町



神戸港埠頭



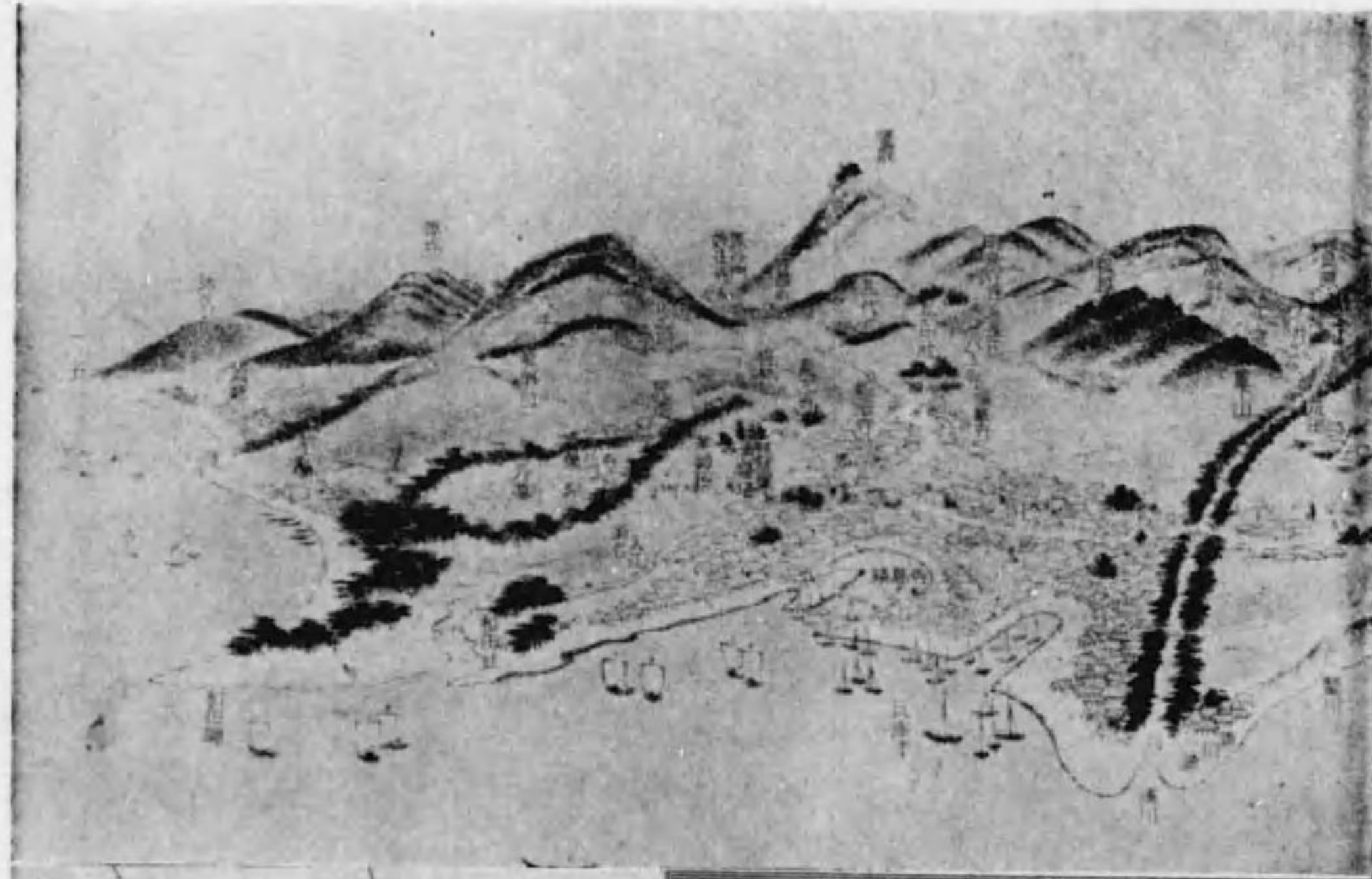
官幣大社住吉神社御橋



大阪市商業地域



大阪市問屋町



文久年間の兵庫及神戸



六甲山ロープウェイ

六甲山頂



文久年間の
兵庫及神戸

神戸市の水害(宇治川)



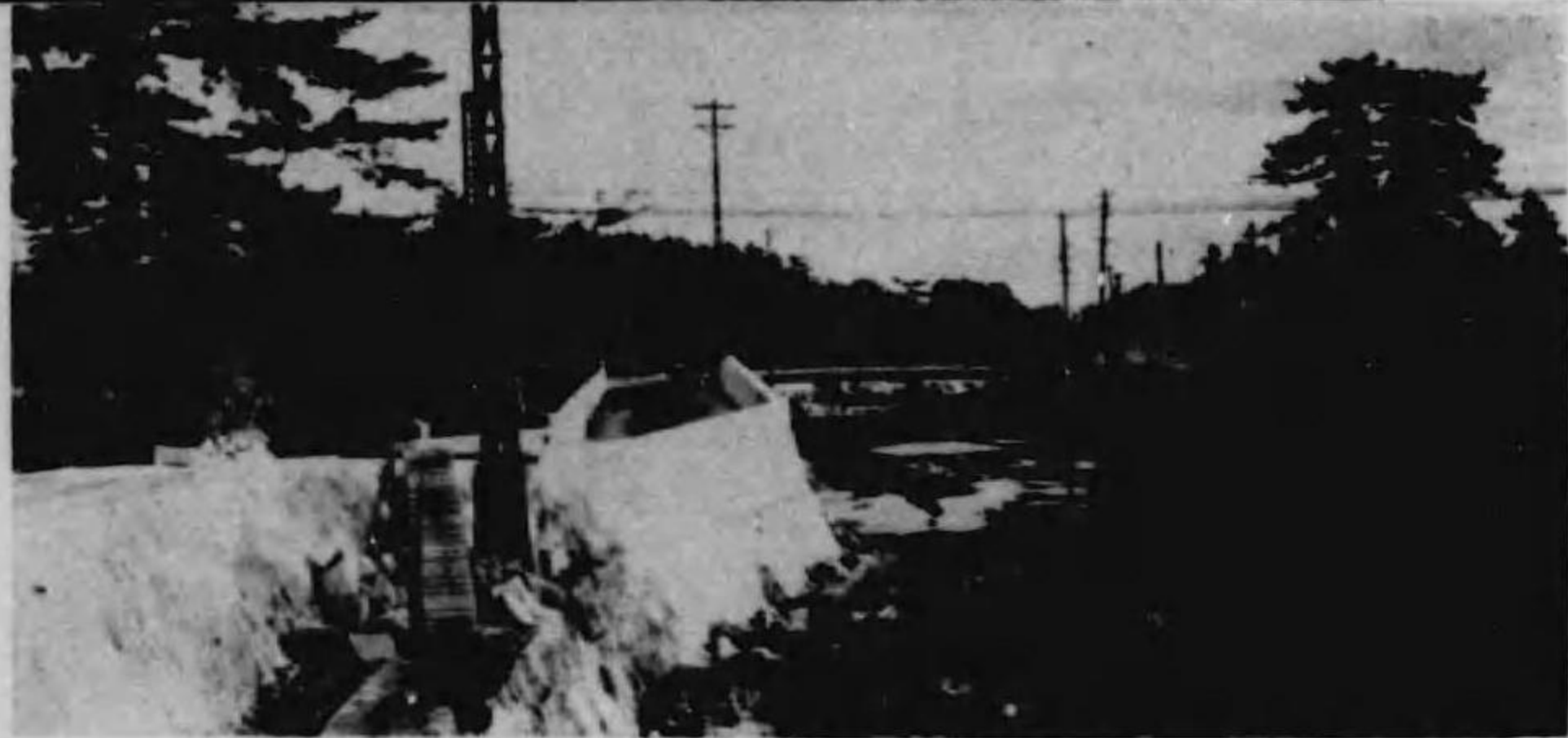
復興した宇治川



有馬町



住吉川の水害



復興した住吉川

例言

地理科に於ける郷土地理の位置 中等學校の教授要目に依れば、

「日本地理ノ教授ニ於テハ我が國土ノ情勢及國勢發展ノ由來ヲ詳ニシ、愛國心ノ涵養ニ資スルト共ニ、學校所在地及之ト關係ノ密接ナル地方ニ就キテ特ニ詳細ニ教授シ、愛郷心ノ養成ニカムベシ」

とあり。地理科教授の目的を達成する爲には、郷土地理の教授は必須の事項となつてゐる。

地理科と直觀教授 直觀教授が教育的價值大なることは、今更叙説を要しないことであるが、特に地理科に於ては百聞は一見に如かざる場合が多いのであつて、旅行並びに見學に依らなければ、絶対に理解出來ぬ事柄が少くない。地形・氣候・産業・交通等悉くそれである。而して生徒の最も觀察し易い地域は郷土であるから、地理教授は必ず郷土より開始されるべきである。



有馬町



住吉川の水害



復興した住吉川

例言

地理科に於ける郷土地理の位置 中等学校の教授要目に依れば、

「日本地理ノ教授ニ於テハ我ガ國土ノ情勢及國勢發展ノ由來ヲ詳ニシ、愛國心ノ涵養ニ資スルト共ニ、學校所在地及之ト關係ノ密接ナル地方ニ就キテ特ニ詳細ニ教授シ、愛郷心ノ養成ニカムベシ」

とあり。地理科教授の目的を達成する爲には、郷土地理の教授は必須の事項となつてゐる。

地理科と直観教授 直観教授が教育的價值大なることは、今更叙説を要しないことであるが、特に地理科に於ては百聞は一見に如かざる場合が多いのであつて、旅行並びに見學に依らなければ、絶対に理解出來ぬ事柄が少くない。地形・氣候・産業・交通等悉くそれである。而して生徒の最も觀察し易い地域は郷土であるから、地理教授は必ず郷土より開始されるべきである。

例言

阪神地方と日本地理 阪神地方は我が國の經濟上の中心であつて、關東地方と共に我が國の最も重要な部分であるから、日本地理の教授に當つては最も重きを置くべきである。従つて此の部分の教授を詳細になすことは、日本地理教授の目的から考へても然るべきことで、特に近畿地方所在の學校に於ては、日本地理教科書記載の事項以外に、更に本書の如き教科書を要するのは勿論のことである。

本書編纂に當つて特に留意した諸點を左に述べる。

一、本書記述の範圍 神戸市を中心として大阪平野、播磨平野及び淡路島を含む地域で、殊に阪神地域を樞軸として詳細に述べ、それより外郭に及ぶに従ひ漸次簡略に記述するも、特に關係深き地方にあつては右の區域外と雖も詳説するのは勿論である。

一、使用學年 郷土地理の精神に従ひ、本書は第一學年の最初に教授する方針であるために、極めて平易なる記述をなしたるも、その地域が我が國で經濟的文化的に最も發達した地方であるから、初學年に難解な部分も少くない。故に最初は學校所在地の行政區のみを教授し、他は第二學年に於て近畿地方を教授する際に教えるか、或は日本

地理の最後の總括に入る際に教授するも一方と考へる。更に或る部分に於ては（主として五號活字の所）第五學年の教材となすべきものも含まれてゐる。

一、準據した統計書 農林省、商工省統計書、大阪府兵庫縣統計書、大藏省並に各關係港の貿易月表、又各關係市町村の要覽等、最新發行に拘るものに準據したるも、防諜の關係上その年度を記載することを避けたるものがある。地圖に於ても亦同様防諜の關係上眞實を掲げ得られないものもあるが、賢明なる教官各位は此の點を充分諒察されたい。

一、寫眞 産業、交通等眞に地理的價值あるものの撮影が、概ね禁止されてゐるのを遺憾とするが、可成有意義なるものを精選して掲げた。

一、附録地圖 卷末に附圖阪神地圖を附したから充分利用されることを望む。

本書の編纂には數人の執筆者が是れに當り、其居住地を中心に調査研究したるものであるから、其の間何等かの統一を缺く點があるのは止を得ないことである。併しそれがために却つてその地方の記述に最も適切なる方法を採用することになり、各々特

色を發揮するを得たこと、及び執筆者が何れもそれぞれ各校に於て數年間實地に教授し、體驗を積みたるものを上梓したるものであることを誇り得ると信ずる。

以上

目次

緒言

第一章 大阪灣周邊の地形……………二

第二章 處誌……………三

一、大阪平野……………三

二、武庫平野……………八

三、商工業の大阪市……………一〇

四、古い歴史の堺市……………一八

五、小大阪といはれる尼崎市……………二〇

六、銘酒の西宮市……………二三

七、自然に恵まれた神戸市……………二五

八、自動車で登れる六甲山……………三七

目次

目次

九、六甲山麓の住宅地	四二
十、海峽に臨む明石市	四四
十一、農工産豊かな播磨平野	四八
十二、日本の縮圖淡路島	五三
第三章 阪神地方の工業	五四
一、軽工業	五五
二、重工業	六〇
三、化学工業及び其他の工業	六二
第四章 交通	六三
第五章 住民	六四
結論	六六

阪神郷土地理

阪神地理研究会編

緒言

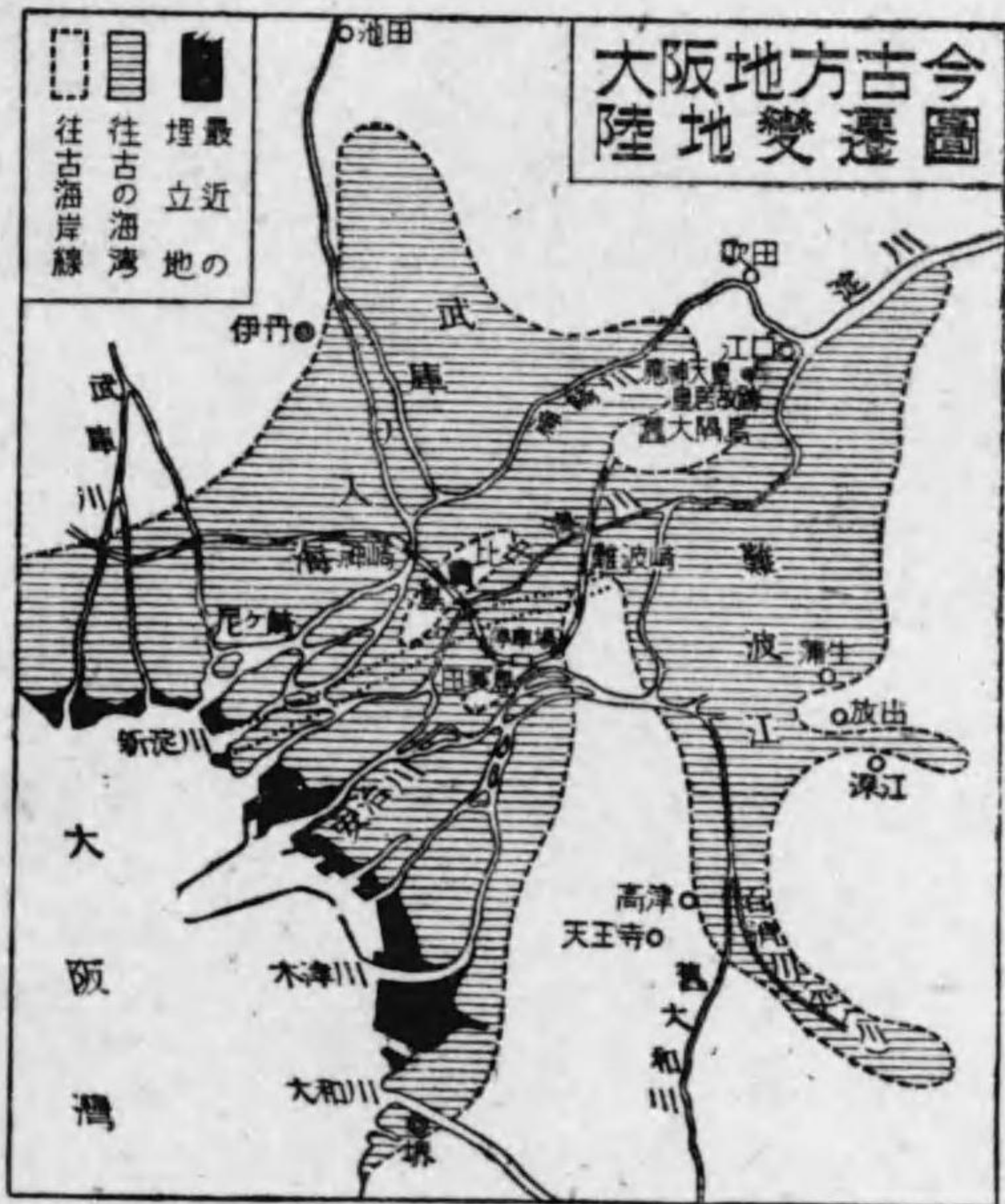
伊弉諾伊弉册二神の生み成し給ひし、淤能碁呂島は我が大阪灣の附近にあり、神武天皇東幸の舟師も、亦茅渟の海の東岸に着け給ひしと傳ふ。爾來二千六百年、國史中の大事件は大阪灣に關係を有つものが多い。即ち仁徳天皇は御宮居を難波の高津に奠めさせられ、續いて三韓の調貢船、隋唐の使節も頻りに難波の地に來往した。須磨の浦は源平の戦に、湊川は大楠公の誠忠にて著はれ、また平清盛の築いた務古の水門は灣の西岸に、戰國時代の貿易港堺港は東岸に榮えた。しかして今日の大阪灣には、東洋第一の大貿易港神戸港と、世界第八位の大都會大阪市とが興り、我國第一の工業地帯を

造るに至つた。その後背地を含む總人口六百五十萬、我が國の中央部に位置し、瀬戸内海の好水路を有するを以て、東亞の諸國に對して通商上實に有利な位置にある。故に帝國の經濟上の中樞となり、その商圏はアジ亞洲は勿

論殆ど世界全土に擴大されるに至つた。殊に今次の聖戰の結果將に結成されるべき、東亞協同體の經營に當りては、頗る重要な位置にある。

第一章 大阪灣周辺の地形

近畿地方には地塊の陥没によつて生じた盆地群の存在するところが一の特色で、中でも近江盆地



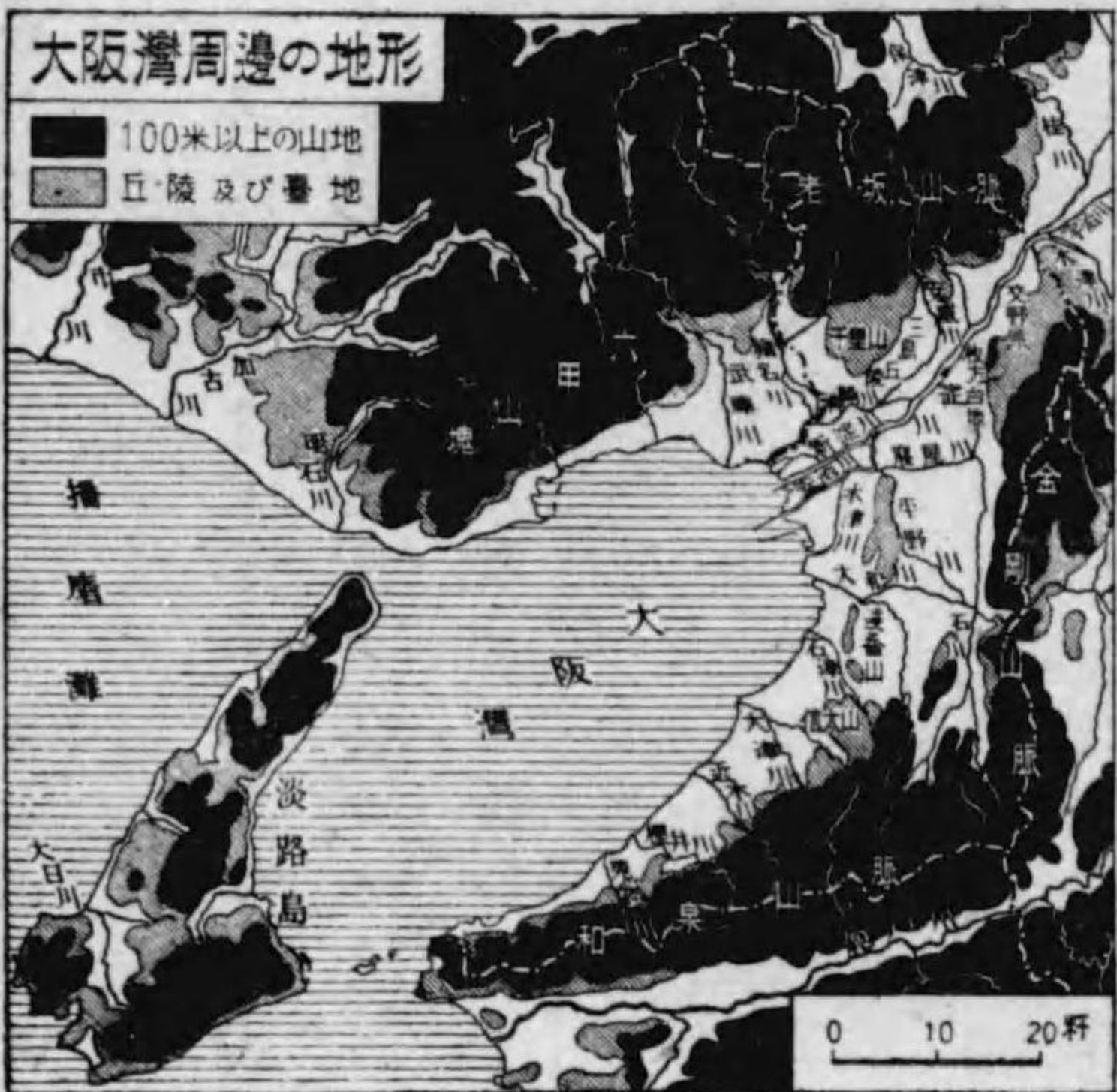
山城盆地、大和盆地、伊賀盆地等は著しいものである。大阪灣もまた陥没によつて生成し、播磨灘と共に瀬戸内海地溝帯の一部を成してゐる。陥没地の東北部は淀川・大和川等の沈積作用で埋没して大阪平野を造り、南西部に

楕圓形の大坂灣を残す。大阪平野の外郭は金剛山脈、和泉山脈、丹波高地の南縁（北攝山地、六甲山塊）等を以て圍まれるので、他地方との交通は山崎の隘路、明石海峡等が要路となつてゐる。

第二章 處誌

一、大阪平野

特色 北半は低平で南半には廣い臺地がある。人口甚だ稠密で農業は多角



的に經營されるから各種の農産を産する。縦横に發達した交通機關を有するので交通は便利を極め文化の高い富裕な農村が散在し、海岸地方には工業都市、山麓地方には郊外住宅地が發達する。

淀川・大和川流域 淀川は琵琶湖から發源し、近江盆地・伊賀盆地・龜岡盆地等の諸水を集め、京都市伏見以下には小汽船を浮べ、山崎の狹隘に至つて淀川といふ。流域は豊富な河水を利用するので早魃の憂もなく、整備した水田が多い。菜種は麥と同様米作の裏作として栽培され、淀川以南が主産地であつたが、近年は大阪市へ供給する野菜の栽培地となり、花の名所が廢れて來た。福井村(三島郡)は粟の大産地で、五月中旬の開花期には東海道線の北側一帯が眞白に見える。



阿片採取

吹田市(日本ビール會社工場あり) **富田町・高槻町**(京大農園・高等醫專等あり)等は大阪市との交通が便利なので同市への通勤者が多い。下流の新淀川は治水の爲に造つた放水路で、本流淀川との分流點毛馬及び琵琶湖口、南郷に洗堰を造り河水を調節し、舟運のためには閘門を設けた。なほ下流は安治川・神崎川・尻無川・木津川等に分れ大三角洲を造る。大阪市の大部分はこの低地にある。

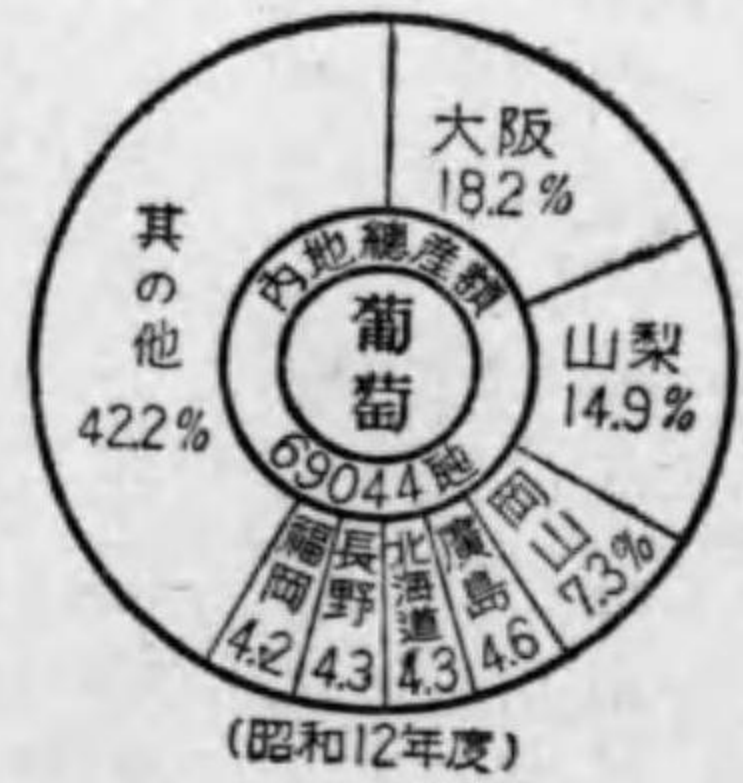
大和川は大和高原に發して奈良盆地を灌漑し、生駒山脈を横斷して大阪平野に出る。葡萄の大産地**堅下村**は右岸にある。同村大字大平寺が中心で、生駒山脈南部の緩傾斜地は一面の葡萄棚で被はれ、昔水田であつた低地も今は葡萄畑となり、家屋の周圍より道路の上、或は屋根の上まで利用されて村内殆ど空地を残さず、村の理髮屋もお寺のお坊さんも副業に葡萄作りをなし、全村擧つて葡萄の單一耕作が行はれ、農家でありながら一本の稻をも栽培しないのである。

大和川は元大阪城の東北で淀川に合流してゐたが、治水工事で現在の地に放水するに至つた。堺港の埋没の甚しいのはこのためである。下流沿岸には工場が多く堺市の工場地区となつてゐる。昭和九年九月二十一日の高潮に激甚な災害を受けた所である。

堺市の上水道はこの河水を水源とするので、夏季河水が濁れるため大阪市から補給されてゐる。



和泉海岸平野 和泉山脈の北麓、大阪灣の東南岸に當る部分で米麥の産が多い。台地上に散在する溜池は、水田灌漑のために設けたもので、瀬戸内海共通の景觀である。米作の裏作に栽培する葱頭は、山麓地方の蜜柑と共に名高い。平野の交通機關

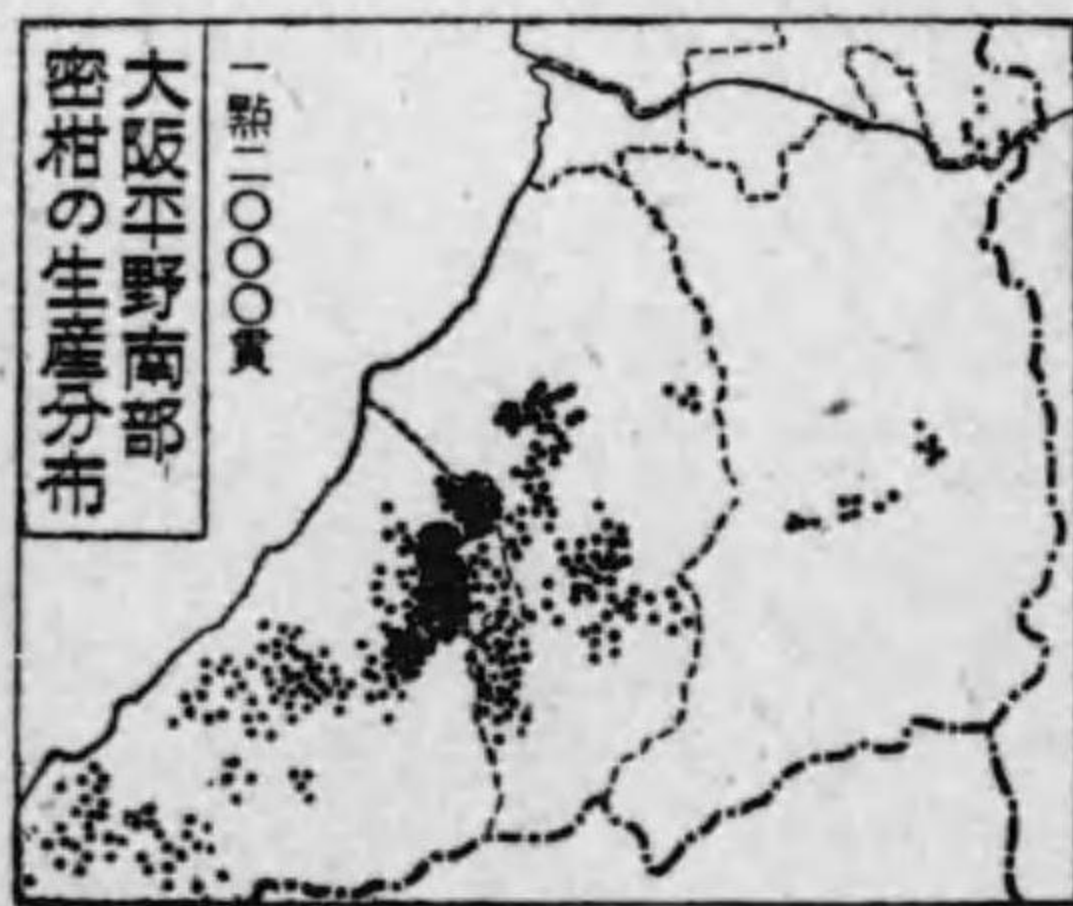
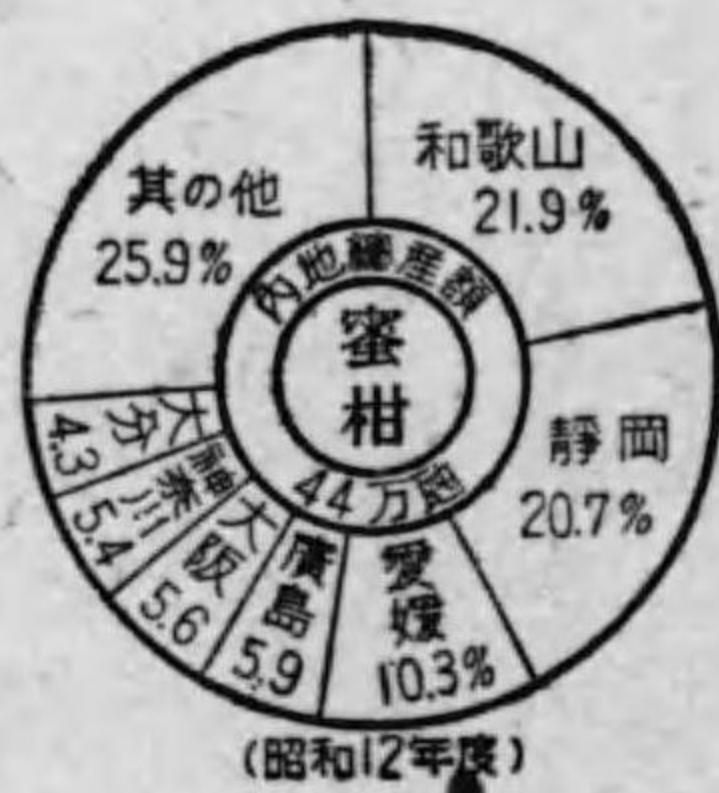


六



大濱濱寺・高師濱・諏訪の森等は、最近開けた住宅地で夏季は海水浴で賑ふ。

は南海電車、阪和電車があり、海運と共に泉南綿工業發達の原因となつてゐる。工場の多くは河流の沿岸或は海岸にあり、岸和田市・大津町等の工業地がある。

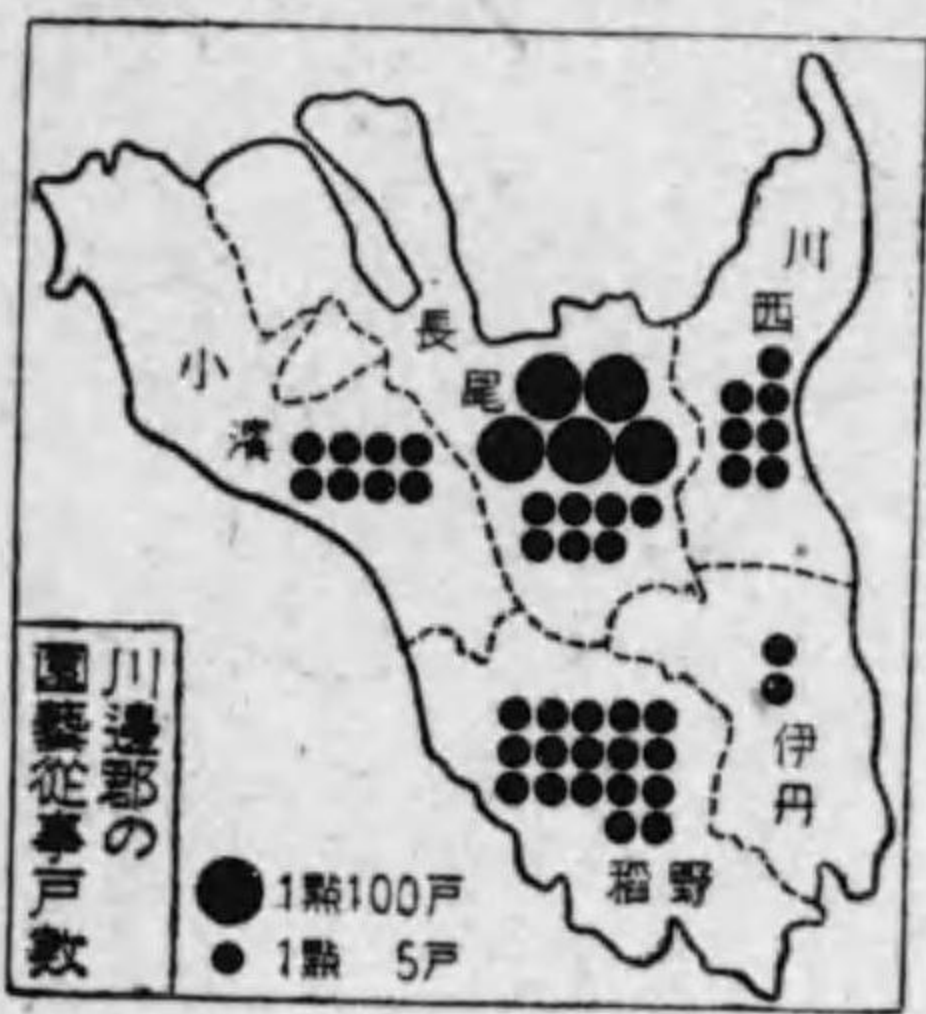


七

一、武庫平野

特色 南部は阪神工業地帯に屬し他は概ね農業地である。農業地には果樹園藝と野菜園藝が榮え、近年は更に郊外住宅地として盛に開拓される。市域接續地には各種の工業が興り、殊に支那事變以來工場の新設が著しい。

園藝業の盛大 平野の農産物は米産が首位を占めてゐるが最も特色あるものは園藝である。果樹・花卉ともに栽培の歴史遠く育苗法など世に勝



れ、長尾村を首位として川邊郡及び武庫郡に榮え、販路は阪神を始め全國に及び上記の外、野菜造園に至るまで、特別の技術を持つてゐる。

昔から清酒で名を得た池田市も、今は更に園藝都市として知られるに至つた。武庫川下流地方の砂質土壤地は苺栽培の好適地で、鳴尾村を中心と

して春季は苺狩で賑ふ。また農家の副業として菓製品がある。

市域接續地の工業

神戸・尼崎・西宮・三市の接續地よ

り伊丹・川西兩町に及び年産額數億圓に達し、化學工業・紡績・金屬工業を主とする。主なる工場に日本油脂(舊稱ベルベット)・東洋リノリウム・森永製菓・攝津フェルト・伊丹製絨・大倉紡機(郡是製絲)・東洋ベアリング・川西飛行機製作所・大阪機工猪名川工場・堀抜帽子工場等がある。中にも東洋リノリ



ウム工場は吾國唯一の存在で、その製品は今や海軍々需品として重要なものとなつてゐる。

釀酒業は灘五郷に次ぎ、白雪・老松・富貴長・大手柄はその代表的のものであり、丹波杜氏・石川縣の能美杜氏など來りて釀造に當る。其他の工業では川西町の皮革製品が、



海外まで販路を持つてゐるのは特に注意すべきである。

郊外住宅地

田園地は郊外住宅地として整備され、伊丹町附近を始め塚口・園田・池田市・豊中市等より大阪市への通勤者が多く、殊に豊中市(大阪府)は純然たる住宅都市で、市内に工場の存在しないことを誇りとし、健康都市と謳はれてゐる。

伊丹町猪名野神社は延喜四年宇多法皇の勅命にて建立せられた社で、長尾村の中山寺は聖徳太子の御建立で本邦最初の観音靈場である。

三、商工業の大阪市

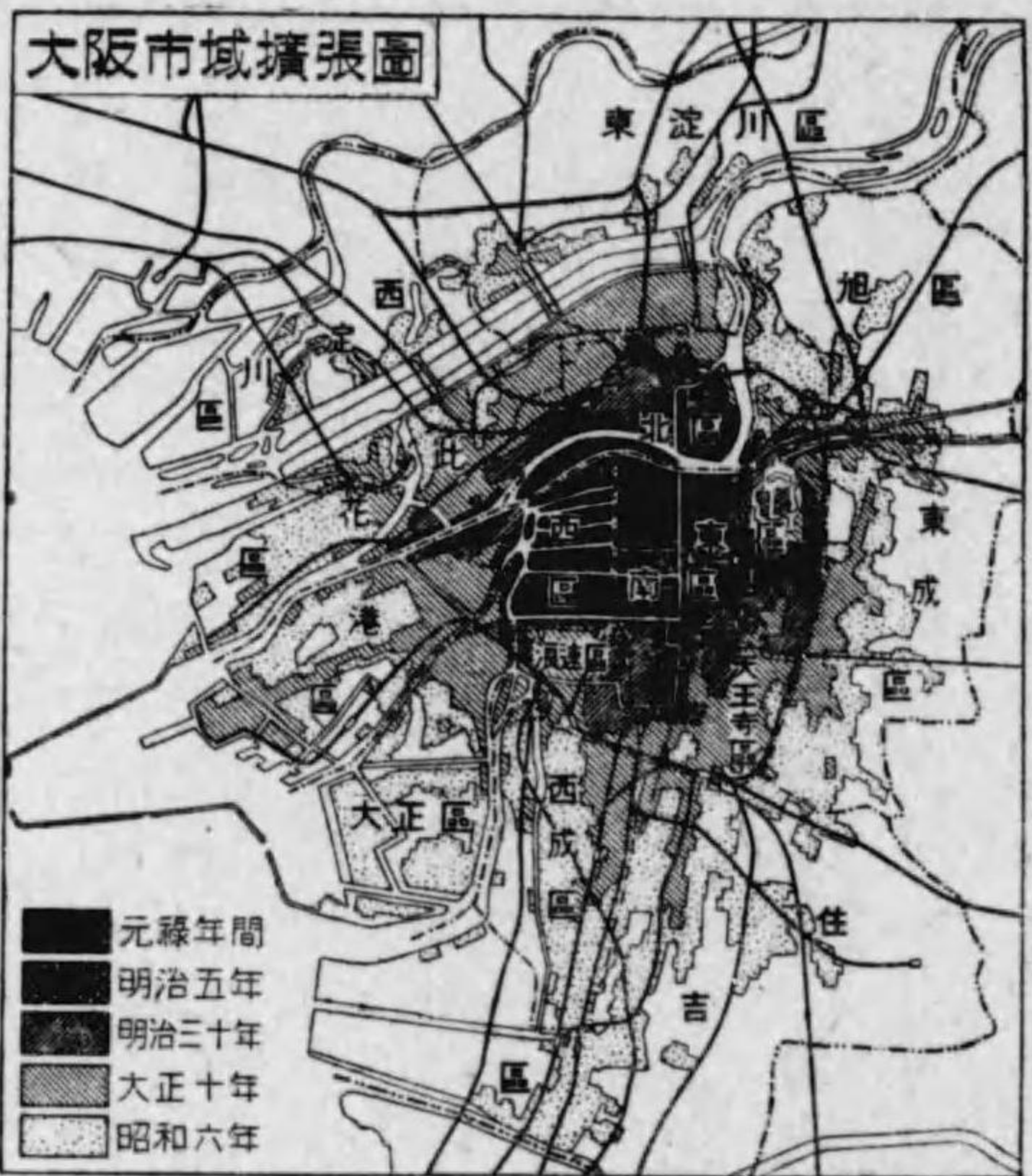
特色 水の都といはれる大阪市は淀川の三角洲にたち、東國への陸路西國への水路の接續するところで、交通上の一大中心となつてゐる。貨物の集散の盛なことはその比がなく、我が國商工業の一大中心地である。河川や運河を利用する織維工場や機械工場が多く、煙の都を現出してゐる。米相場の定つた堂島と、株式の北濱を知らぬものはなく、帝國の貨幣を造る造

幣局は大阪にあり、中之島の日本銀行支店と共にその使命が大きい。その

他船場・島の内心齋橋・道頓堀等大阪の特色を表はすものである。

沿革

大阪の地は昔難波といつて上古既に韓土と交通が開けて我國の門戸であつた。應神天皇は大隅宮仁徳天皇は高津宮を奠めさせられ、推古天皇の朝には聖徳太子が四天王寺を建立されたのである。豊臣氏が亡びてからは徳川幕府はこの地を極めて重要視して、特に城代を置いて町民に

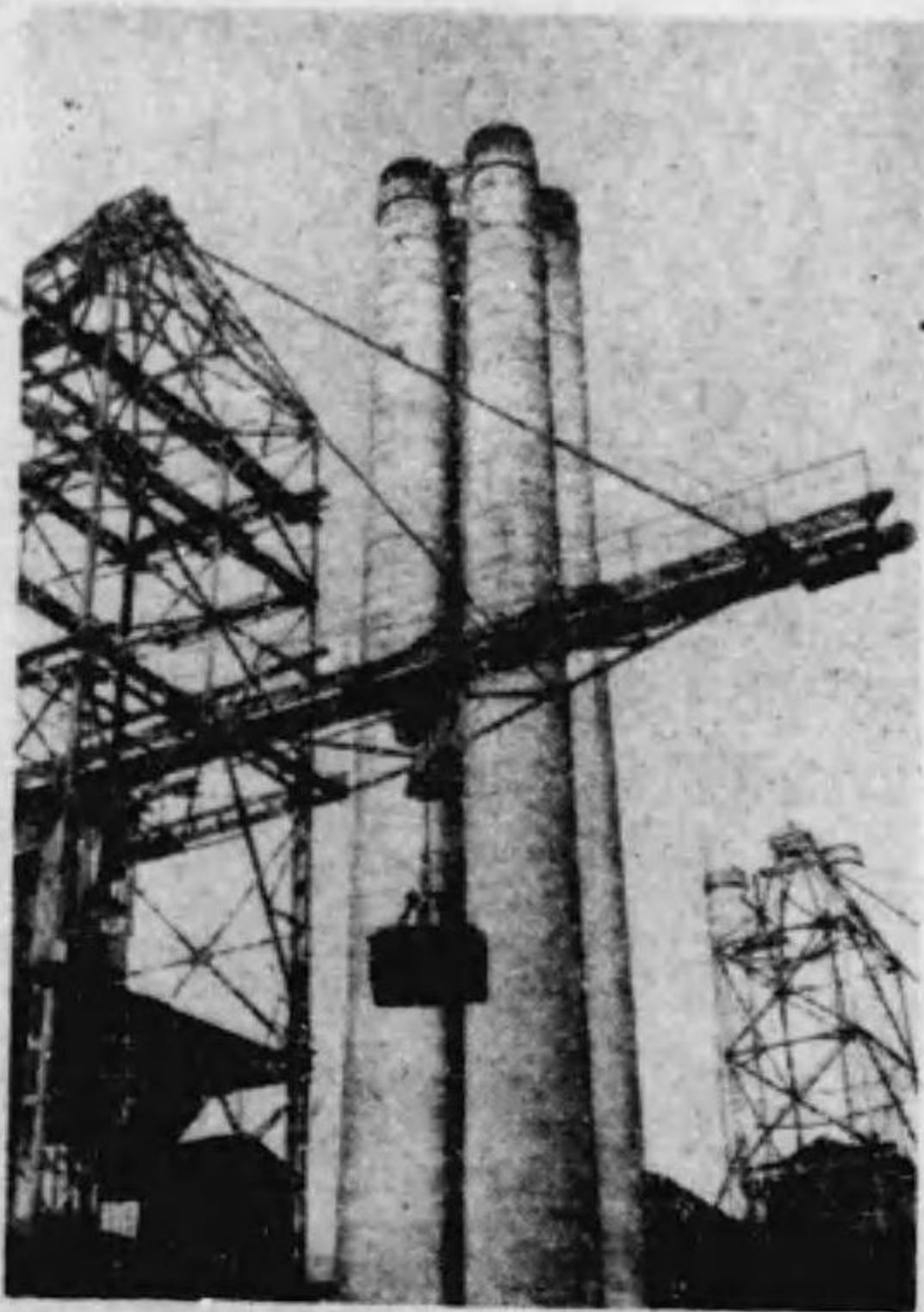


或る程度の自治を許した。當時各藩の大名は大阪に藏屋敷を置いて年貢米の貯藏と賣捌きをなしてゐた。故に當時既に全國の經濟上の一中心地であつた。

明治維新以後の發展は實に著しく、河港から海港に進み一大築港を完成して一躍大貿易港となつた。また水運の便は工業の發達を促し、商業と共に國內に冠絶するに至つた。これがために人口の集中が甚しく度々地域を擴張して、今や十五區となつた。

工業地域 主として淀川の三角洲

方面で、北は神崎川から南は大和川の河口に達する濱海地方及び河川の沿岸である。域内は最近の築港埋立地を含み、水運が便利なため工業が盛である。繊維工業や機械工業の工場が並び、煙突の煙は空を蔽ひ煙の都を現出してゐる。市の工産の大部は此の地域に産するのである。中でも三十%を占める機械器具工業を初め、綿糸、綿織、染色、化學、飲食物、印刷等の工業が殊に盛であつて、工場数は大小合計數



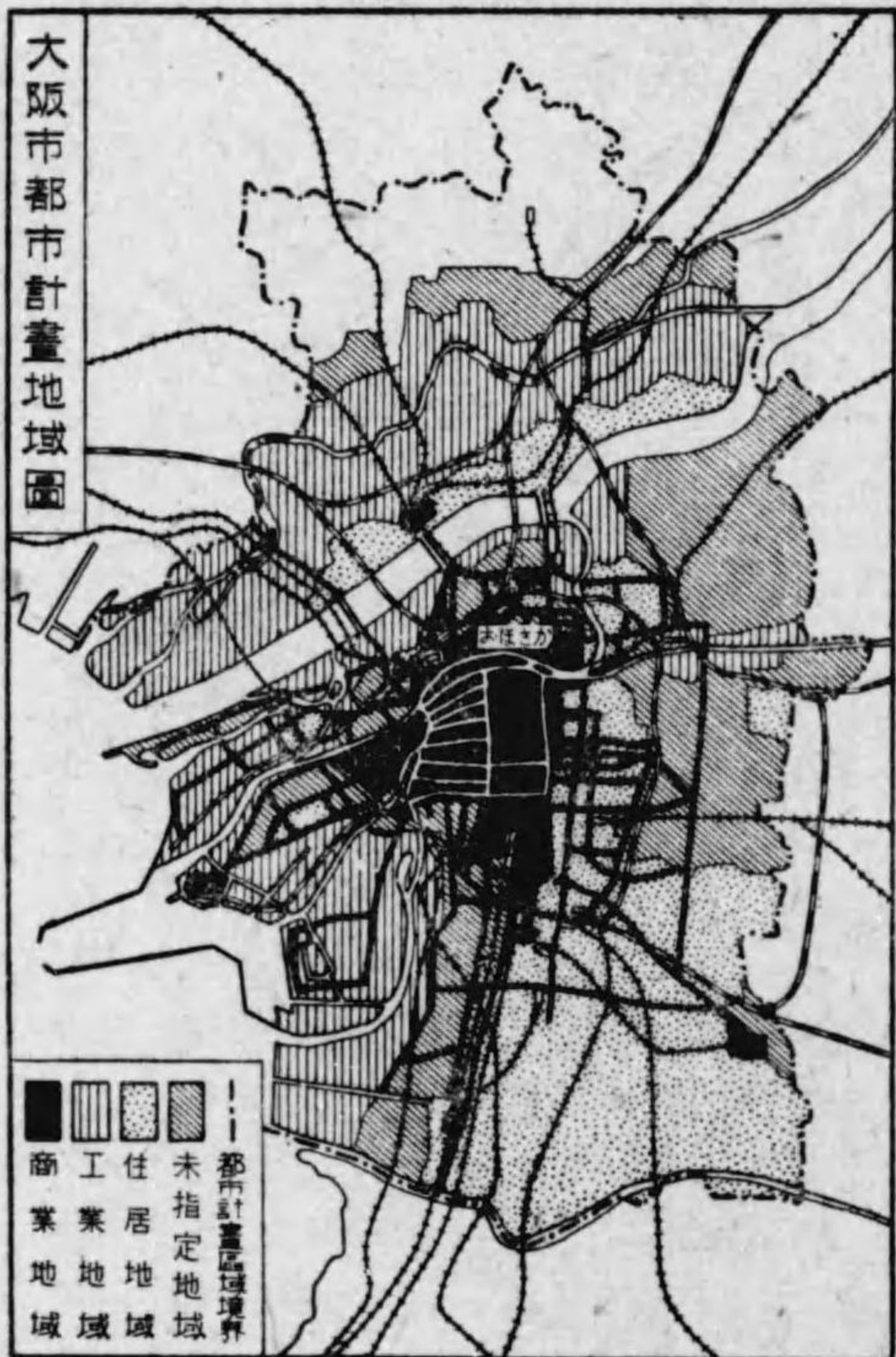
大阪市の工場

萬の多きに達する。

昭和九年九月の高潮で浸水の厄にあつたのは此の地域であつた。また安政元年の大津浪には死者五千に達し、當時の慘狀は現に大正橋畔にある津浪の記念碑が是を物語つてゐる。

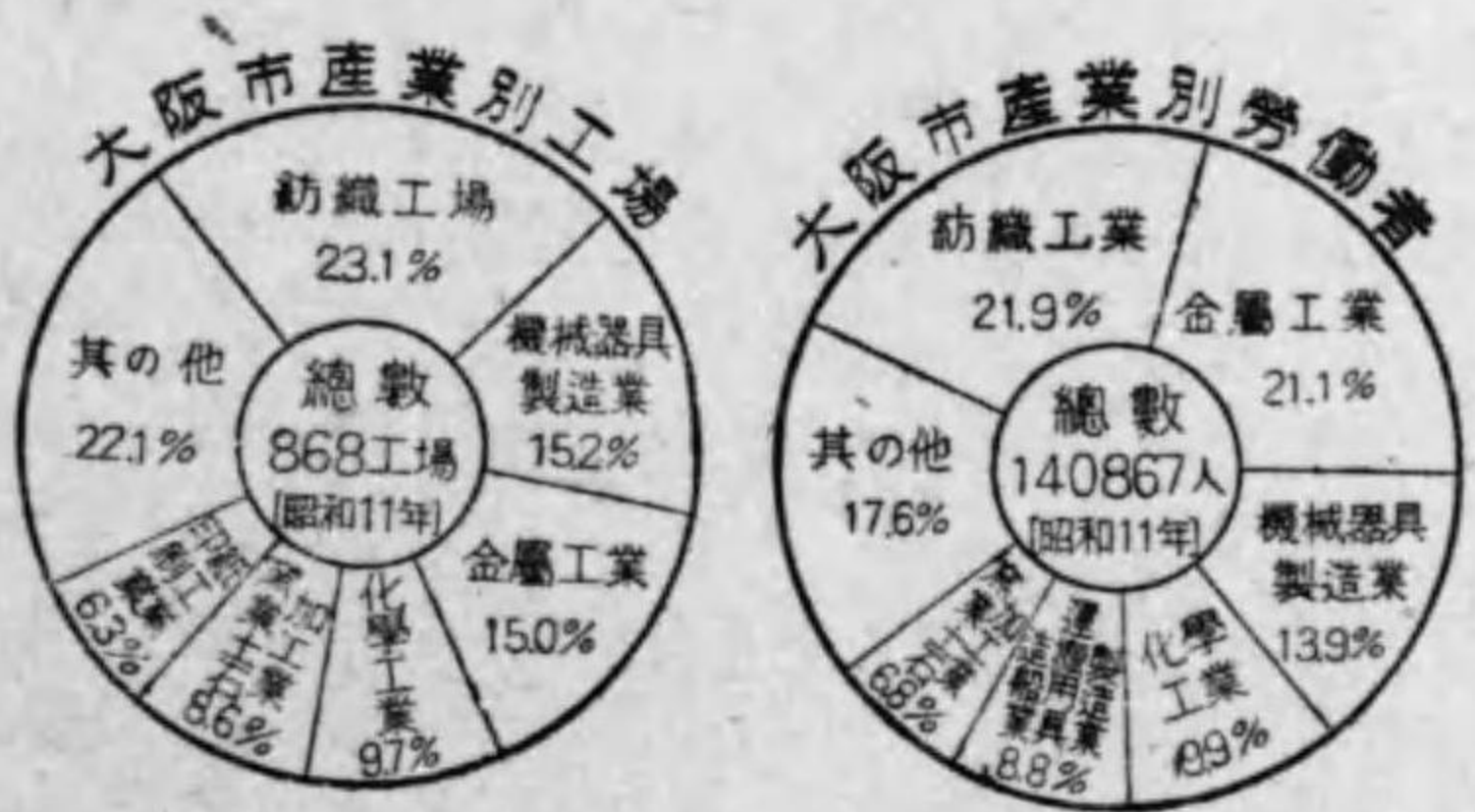
商業地域 市の中央

部、豊太閣時代に建設された船場、島の内、天満方面で、北濱の株式取引所、中之島の日本銀行支店を初め住友銀行、三井銀行、三和銀行等の重要な商業機關が備はり、ビルデ



ング等と共に高層建築物が多い。また道頓堀・千日前・新世界等の大歓楽場は不夜城の觀を呈してゐる。大阪市の一特色である問屋町は、本町・南本町の呉服太物店・久寶寺町の小間物商・谷町の洋服商・道修町の藥種商・松屋町の菓子玩具商等の如く同種の商店が數十軒乃至數百軒、軒を並べてゐる。心齋橋筋は最も繁華な商店街で小賣商店が多く、大丸・十合の二大百貨店もここにゐる。

住居地域 大阪城から南方、四天王寺を経て住吉に至る上町臺地を中心として、大和川の右岸地方を含む地域で、土地が高燥で大工場も無いから市内最良の住宅地である。仁徳天皇の高津宮故地・大阪城・四天王寺・生國魂神社・高津神社等があり、また外國語學校大阪高等學校・女子専門學校・大阪商大等各種の學校がある。



未指定地域 工業地域と住宅地域の間を占める地區で、最近に至り小工場が多く出來た。

大阪の商業 歴史的に見ると大阪はその地理的位置の優越するため物資の集散が多く、夙に全國に於ける商業の中心地として榮えた。豊臣氏時代既に諸財貨の集散地であつたが、慶長・元和の二役後は商家は四散した。松平忠明の整理後、徳川家康は自ら大阪城に臨んで市中一般に地子銀を免除し、商業を保護した。そのため諸藩の藏屋敷が建ち、各藩の物産は大阪に運送され、堂島に米相場が立ち、また金融機關たる兩替屋が發達して、商業は年と共に盛になり、我が國の經濟は大阪によつて左右せられる様になり、「天下の臺所」として、我が國の富の七割を集めたときへいはれた。

内地商業 船場・島の内を始め、市内各地の商事會社・問屋は地方商人との取引が多く、その勢力範圍は瀬戸内海を中心として、南は沖繩・臺灣、北は北海道・樺太にわたつてゐる。東京の勢力範圍と大阪のそれとの接觸點は、今以て中部地方系・魚川・松本・濱松の一線に於て劃されてゐるが、概して大阪以西との關係が密である。近時

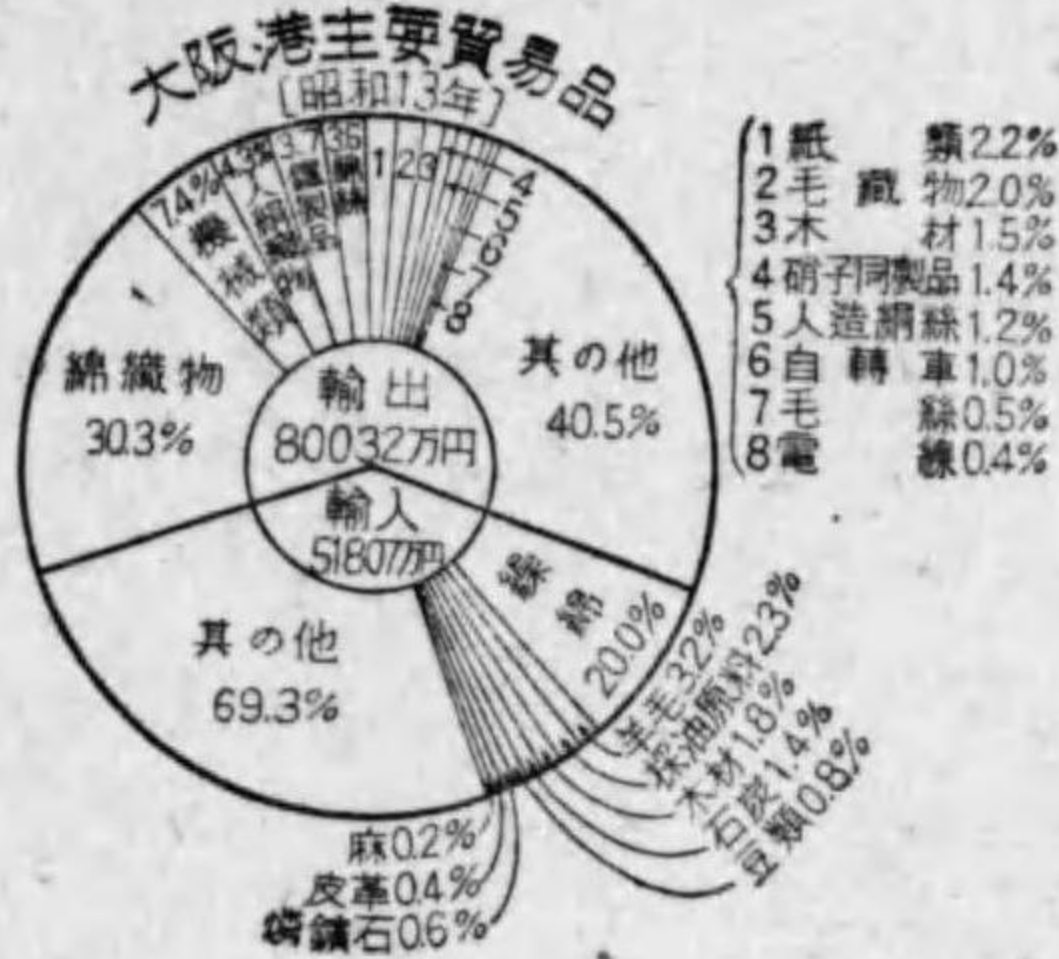
北陸の秋田方面等東京の勢力圏に侵入しつつある。

その出入貨物は貿易品と同じく、出貨は綿絲・綿織物・鐵及び鋼・銅・藥品和洋紙・砂糖等で、入貨は銅・綿花・砂糖・石炭等の工業原料品が大部分を占めてゐる。

大阪の外國貿易 大阪港は横濱・神戸の兩港と共に、本邦の三大貿易港として有名である。貿易の特色は價額に於ては出超噸量に於ては入超を示すのが常であつて、多量の原料品を輸入し、多額の精製品を輸出する。所謂生産都市たる事實を裏書きするものであり、又後背地の工業に基くものである。

大阪港は棉花・羊毛・採油用原料等の原料品を輸入し、綿織物・機械類・人絹織物等の輸出が多く、出超を續けるのを

特色とする。相手國は輸出に於て滿洲國及び關東州を第一とし、支那・香港及びインド等が是に續き、輸入はアメリカ合衆國を第一とし、また滿洲國・關東州・支那及び香港等との取引が盛である。



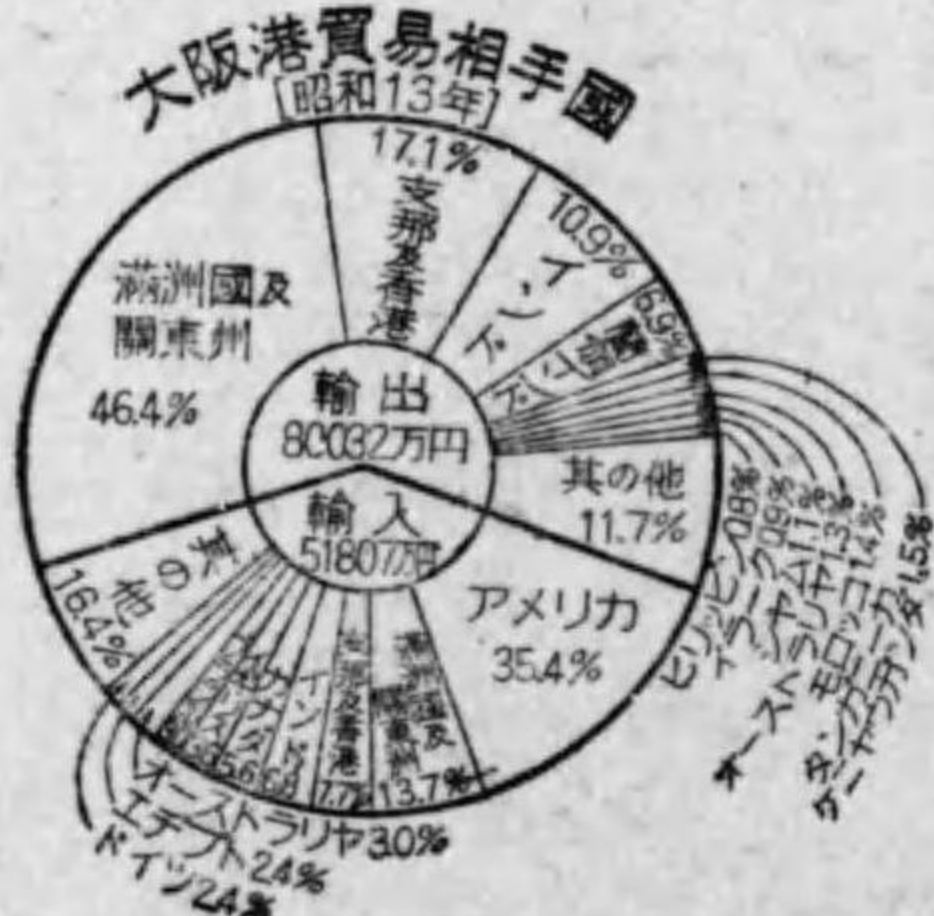
市内の交通 市内には縦横に通る運河や溝があり、小舟で市中を巡るこ

とも出来、市の観光艇は定期に巡航する。なほ大切なのは運河に接する工場に、或は問屋の倉庫に、容易に大貨物を搬入するこ

とて、これ等の水路網が大阪港と連絡してゐる。

陸上の交通は市営電車・市営バス等があり、郊外電車が基點を市内に置き、また市内の交通に利用される。城東線・片町線には省線電車が走り、高速度の地下鐵も一部開通し、市民の交通に利用されるに至つた。更に近年乗用及び貨物の自動車が増し、市内内外に亘り盛に利用される。

大阪市民の特異性と將來の施設經營 大阪市民が東京市民や京都市民に比較して相異なる著しい特性は、第一には總て實際的で實行力に富み、又極めて大衆的な事である。



東京市工業の贅澤品に對して、大阪市の廉價な實用品、東京の毛織物に對

する大阪の綿織物、任期の短い東京の市長と三選を續ける大阪の市長等は面白い對照である。また方面委員や公設市場の創設、タクシーの流れの街路等大阪の持つ特異性である。

將來地下鐵道の完成と共に市の内外交通の調整、市民の體位向上のための綠地公園の増加、下水道の完成、空襲の對策としての地下防護室の建設、市街建築物の防火設備、大阪港内港設備の擴張と濱海低地帯の高潮防禦等の諸問題も、實行力に富む市民によりて早晚解決されるであらう。

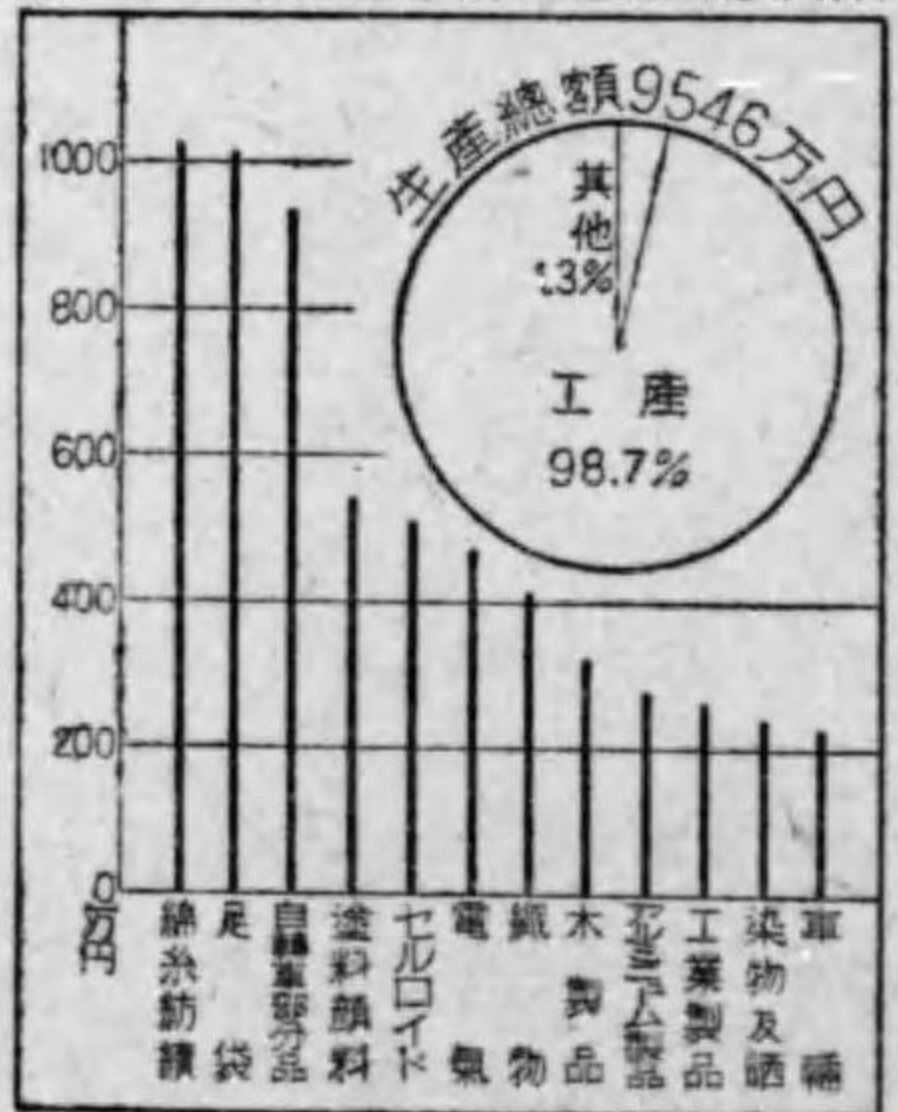


觀光艇水都號

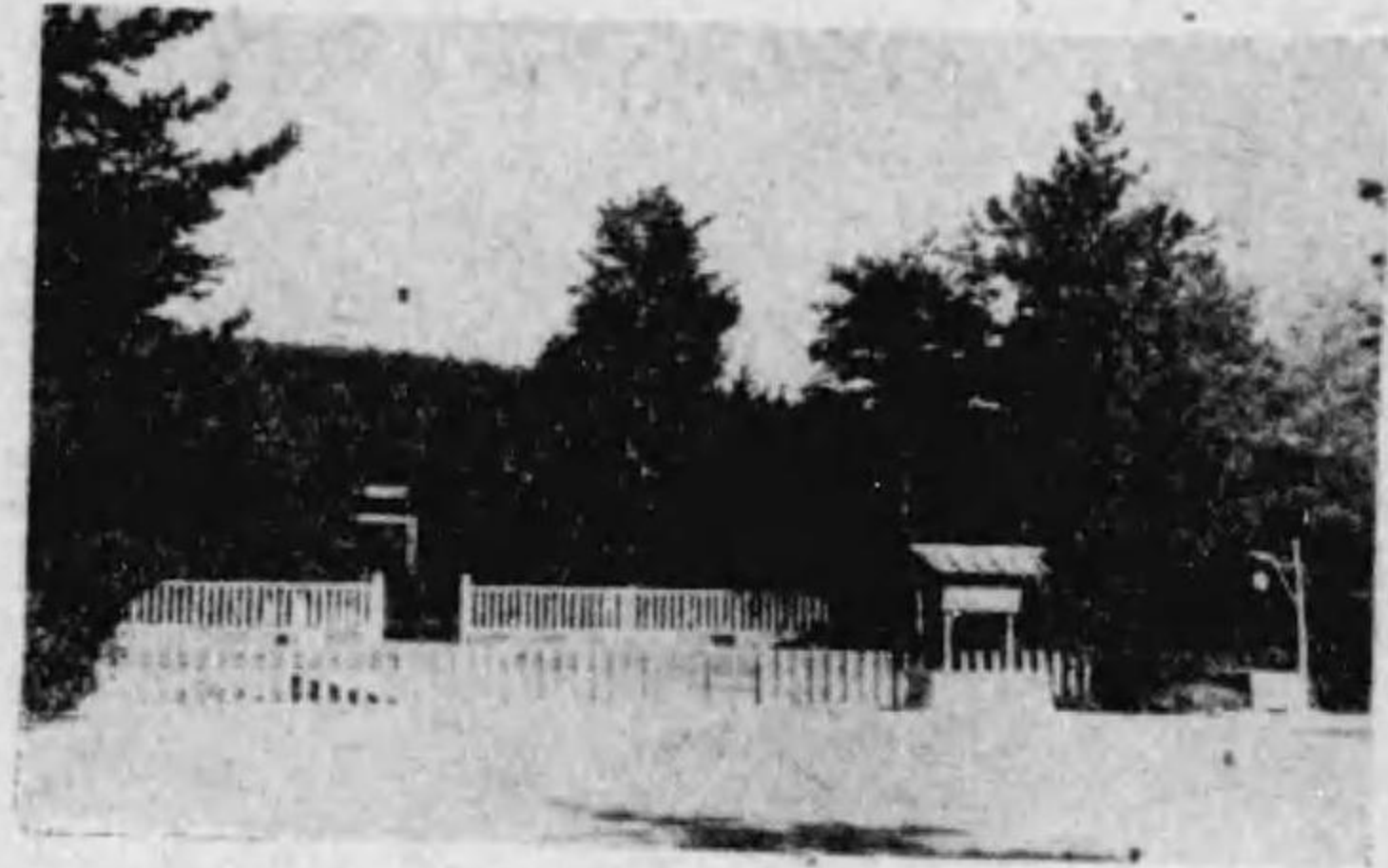
四、古い歴史の堺市

堺の地は古くから水産物の集散地として發達したもので、今も盛な魚市場がある。戰國時代既に民政訴訟等が自治制によつて行はれた純商業市で、その繁榮は一時京都をも凌ぐ状態であつたが豊臣氏の大坂經營と、徳川家光の鎖國政策が著しくこの地を衰運に導いた。明治時代になつて、大阪市の影響を受けて更に工業市として更生するに至つた。大阪市とは大和川を以て境するも經濟的には大阪市の一部をなしてゐる。工場は大和川左岸及南海鐵道の沿線に多い。綿絲布染物、足袋等の織維工業を第一とする。其他車輛、自轉車部分品及び刃物、綴通セルロイド、清酒等の産額が多い。最近は事變の影響で各種の機械工場が新設される。

堺市重要物産價額並生産總價額



堺港は規模小さく水深淺く、現代の港として設備が甚だ不完全であるため最近



仁 徳 天 皇 陵

修築の計畫がある。宿院及び山の口筋は商業區で市中第一の繁華な街衢である。市の東部臺地は仁徳天皇の大仙陵を初め史蹟に富む。現今は良好な住宅地區で南海鐵道高野線及び阪和電車の開通以來大阪市の通勤者が多い。また市の東部金岡に第四師團の騎兵隊輜重隊陸軍衛戍病院等がある。

五、小大阪といはれる尼崎市

特色 尼崎市は神崎川を隔てて大阪市に隣接し、西は蓬川を以て大庄村と界されてゐる。猪名川及神崎川の低濕な三角洲に發達し、地形が大阪市の酷似する。新進の工業都市で小大阪の觀を呈し、行政上は兵庫縣に屬するも經濟的には大阪市の圈内にある。

現勢 市の東部に舊城址がある。櫻井氏の居城であつた。もとの城

を中心として發達した城下町は今は阪神國道に及び、更に漸次北方に發展しつつある。蓋し南方は土地狭く發展の餘地が少ないためである。市の都市計畫では工業地區・商業地區・住居地區の區別はあるが、急激な發展膨脹のため、縣下第二の大都市としての美觀を具へるに至らない。

市の生命は工業にある。所謂阪神工業地帯の一中樞をなし、位置の良好・交通の便・地價の低廉・勞力吸収の便・大阪市の影響等の理由により、目覺ましき發展をなした。各種多様な工業が發達してゐる中に、化學工業に屬する人造肥料製造と、金屬工業に屬する鋼管



及び鐵線等の製造は特色あるものである。其の他硝子セメント等の窯業も榮え、工場の多くは左門殿川の沿岸や尼崎港と連絡する運河に沿ふもの

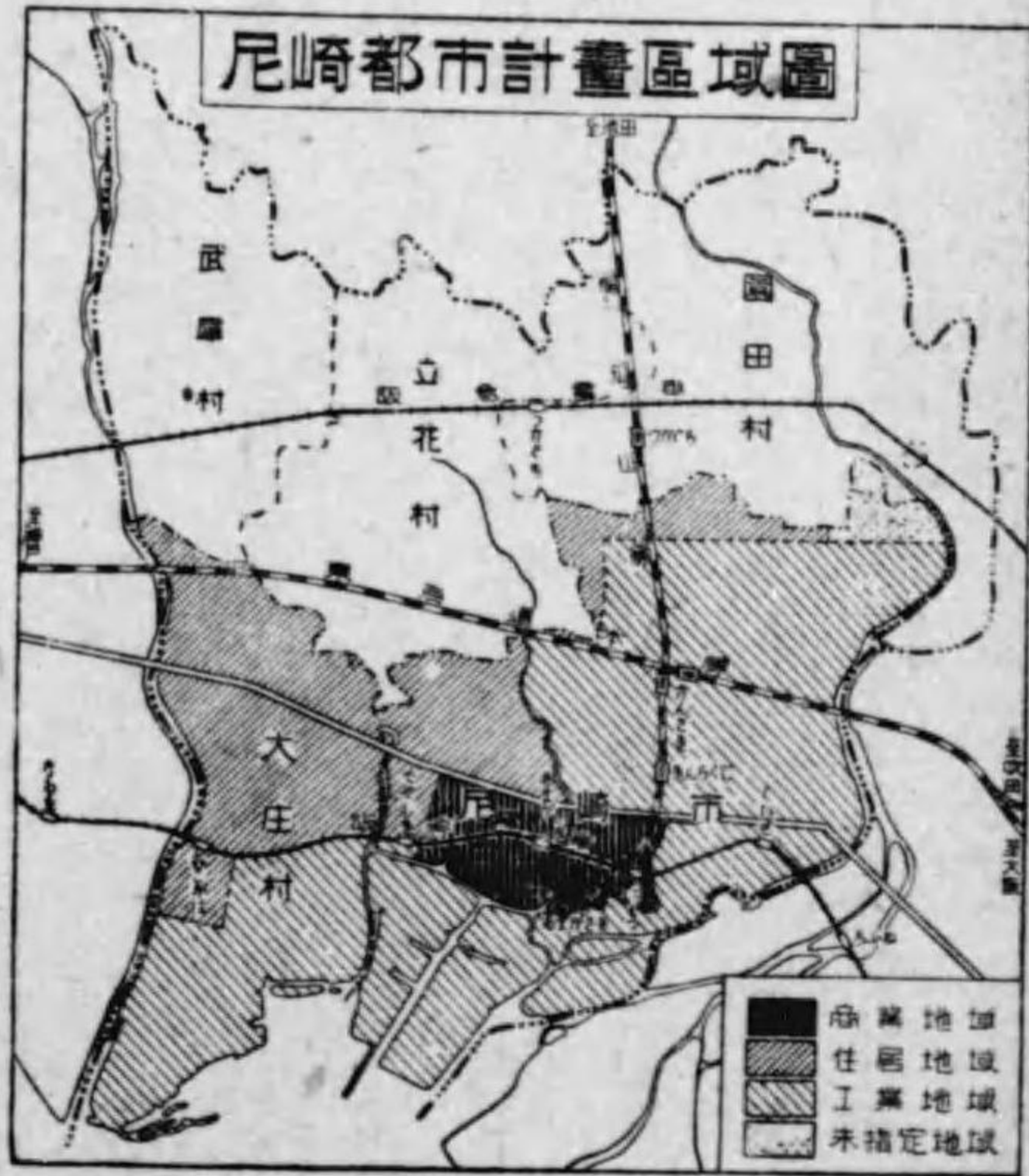
が多い。また最近では時局の影響によつて、各種の機械製作工場が北部省線附近に多く新設される。商業區は古くから市街を形成したところで、西本町東本町、杭瀬等を中心として狭い街衢に小賣商店が軒を並べ、市中最も殷賑な地區をなしてゐる。

市の将来

尼崎市發展の鍵となるものは港灣の修築である。



尼崎築港株式會社の計畫が實施されて防波堤繫船岸護岸等が完成するに至れば、工業港としての面目を改め、運賃の輕減と時間の節約となり、阪神運河の築造と相俟つて市の興隆に大いに貢献するであらう。



更に陸上設備に於ては都市計畫にかゝる街路の改修、下水道の完成等何れも緊急を要する問題である。

六、銘酒の西宮市

特色

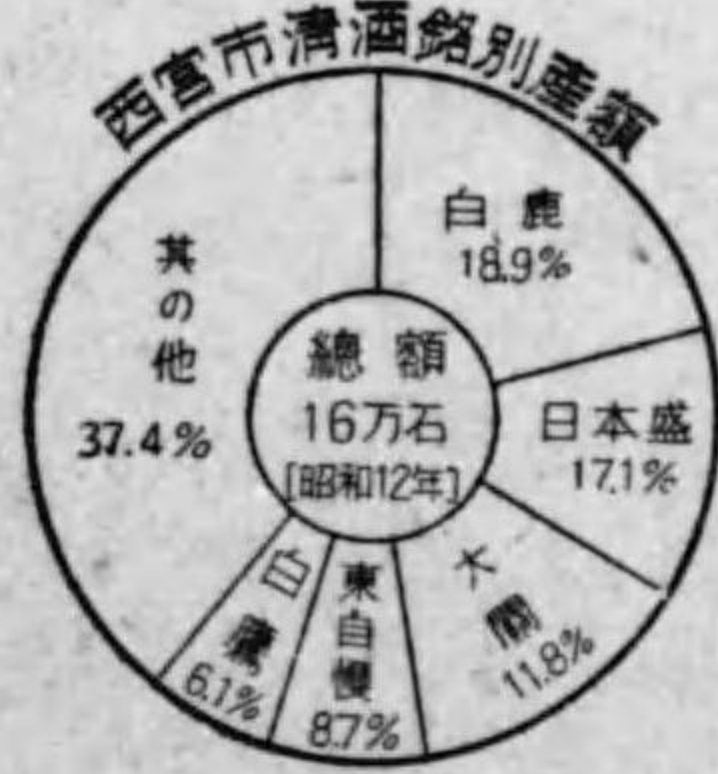
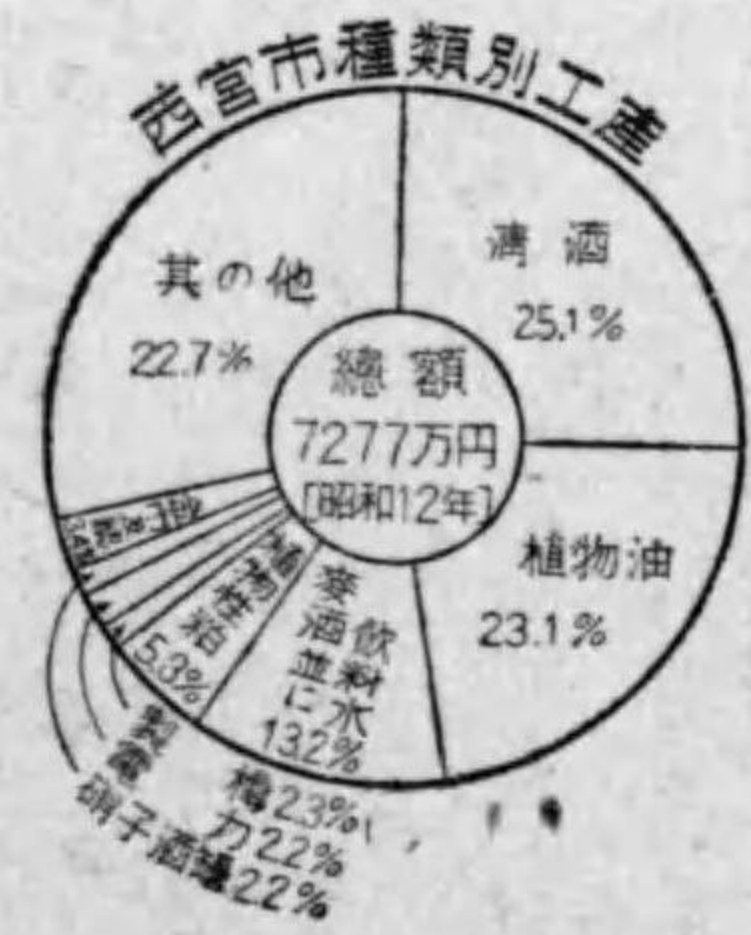
戎神社の存在と銘酒の産地として名高い西宮市は、阪神兩市の間位に立し、交通の至便な所にあり、兩市との關係が深い。



した。然るに近來市の北部の交通が開け、阪神兩市への交通が便利になる

につれて、市街地は更に北方に伸長しつつある。

本市の産業中古來から最も有名なのは清酒醸造で、その生産額は本市全生産総額の四分の一を占め、以て酒の都として灘五郷に君臨する。酒造地域は、本市の東部を流れる東川の下流海岸地方と舊今津地方とである。殊に前者には醸造用水として卓絶せる宮水といふ硬水を産し、特殊の井戸から汲み出してゐる。西宮の清酒の芳醇なのは、この宮水によることが大きいといはれる。宮水は市内にて用ひられるのみならず、かつては伊丹堺、奈良及び遠く廣島にも移出せられた。この他、工産として主なものに、植物油、麥酒及び清涼飲料等があり、工産は市の總生産額の九七%を示し、工業都市なることを如實に示してゐる。



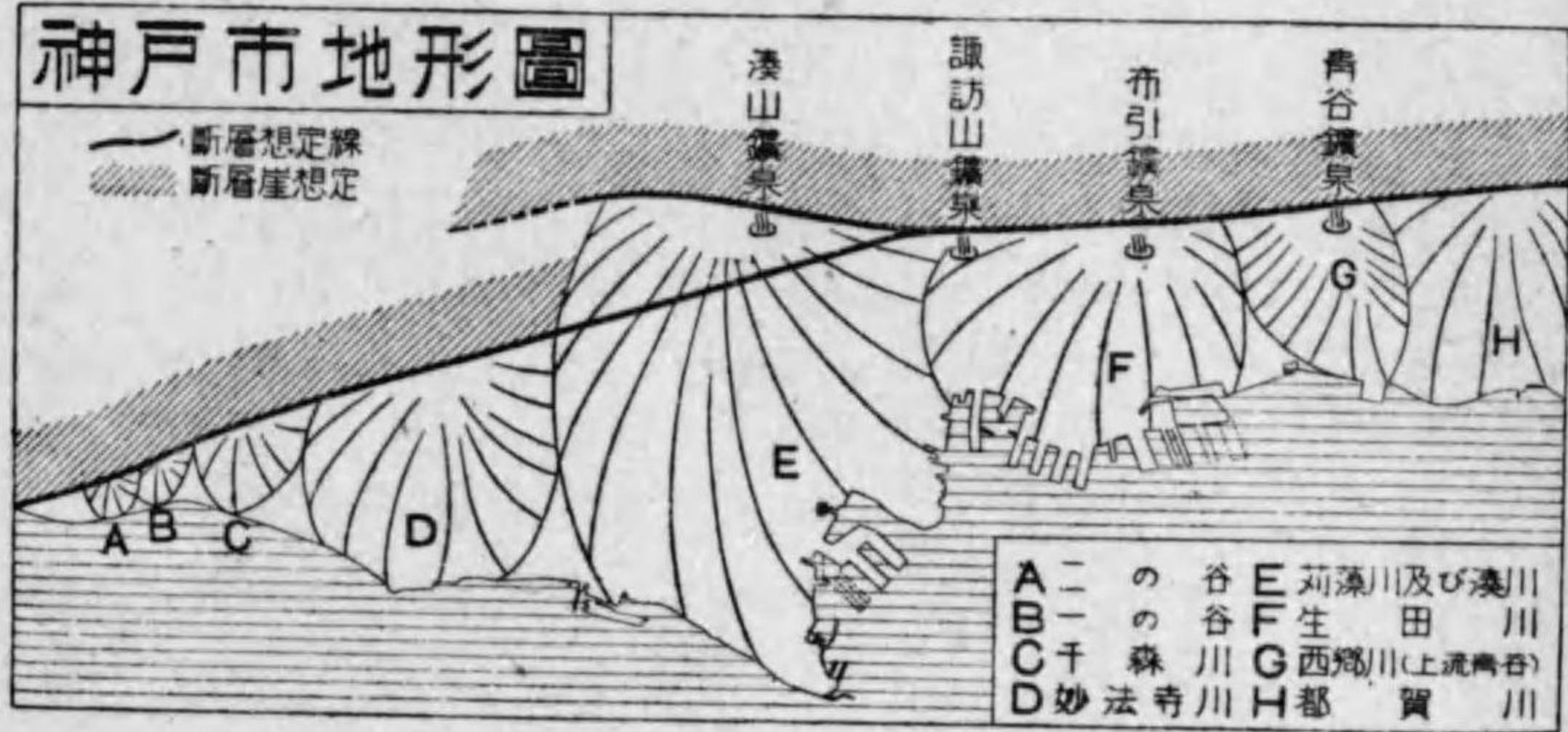
市の南部に西宮港があり、植物種子等の原料品を多く移入し、その製品である油脂を積出す。

市の北部にある官幣大社廣田神社は、天照大神の荒魂を祭り、縣社西宮神社には西宮大神即ち蛭子大神を祀り、本市の名稱の起原をなしてゐる。東郊には甲子園野球場を中心とする綜合運動場がある。

市の北部の苦樂園甲陽園は土地高燥にて眺望よく、阪神間有數の保健住宅地域を形成してゐる。

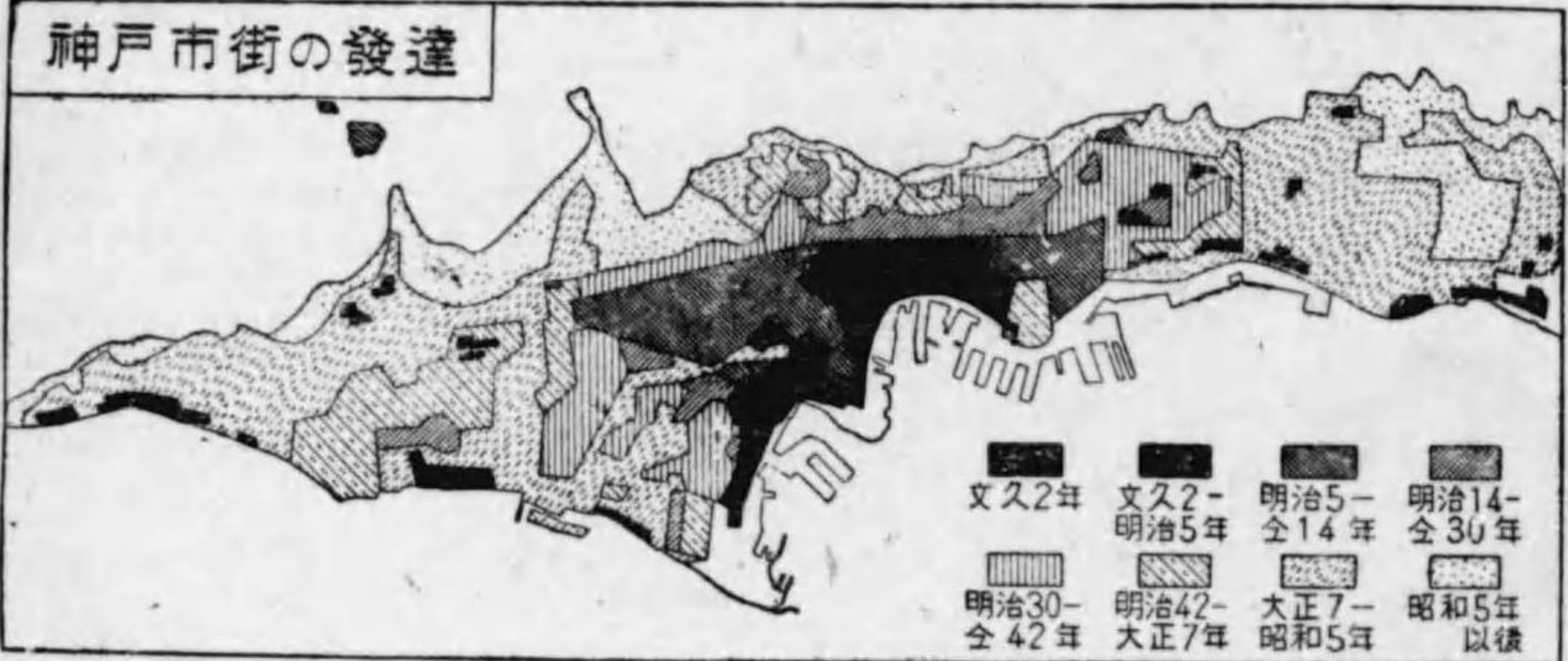
西宮市の將來 北部の廣大な郊外地は、山莊或は田園都市として市民の理想的健康住宅地を造るべく、南部は西宮港を核心として地方中心の商業地として發展すべく、南北が相異なる性能を持つ處にその特色があり、各々その機能を充分に發揮せしめることこそ、本市發展の百年の計であり、他の十萬都市に類例の少い綜合都市としての完成に邁進すべきである。

七、自然に恵まれた神戸市



特色 大阪灣の西北岸、六甲山塊の斷層崖下に興つた細長い美しい都市で、七十年前の一小邑が慶應三年四月兵庫開港以來、港市として急速な發達をなし、今や人口百萬我が國第五位の大商工都市、第一位の開港場となり、その發展の速かなことは他にその例が少い。

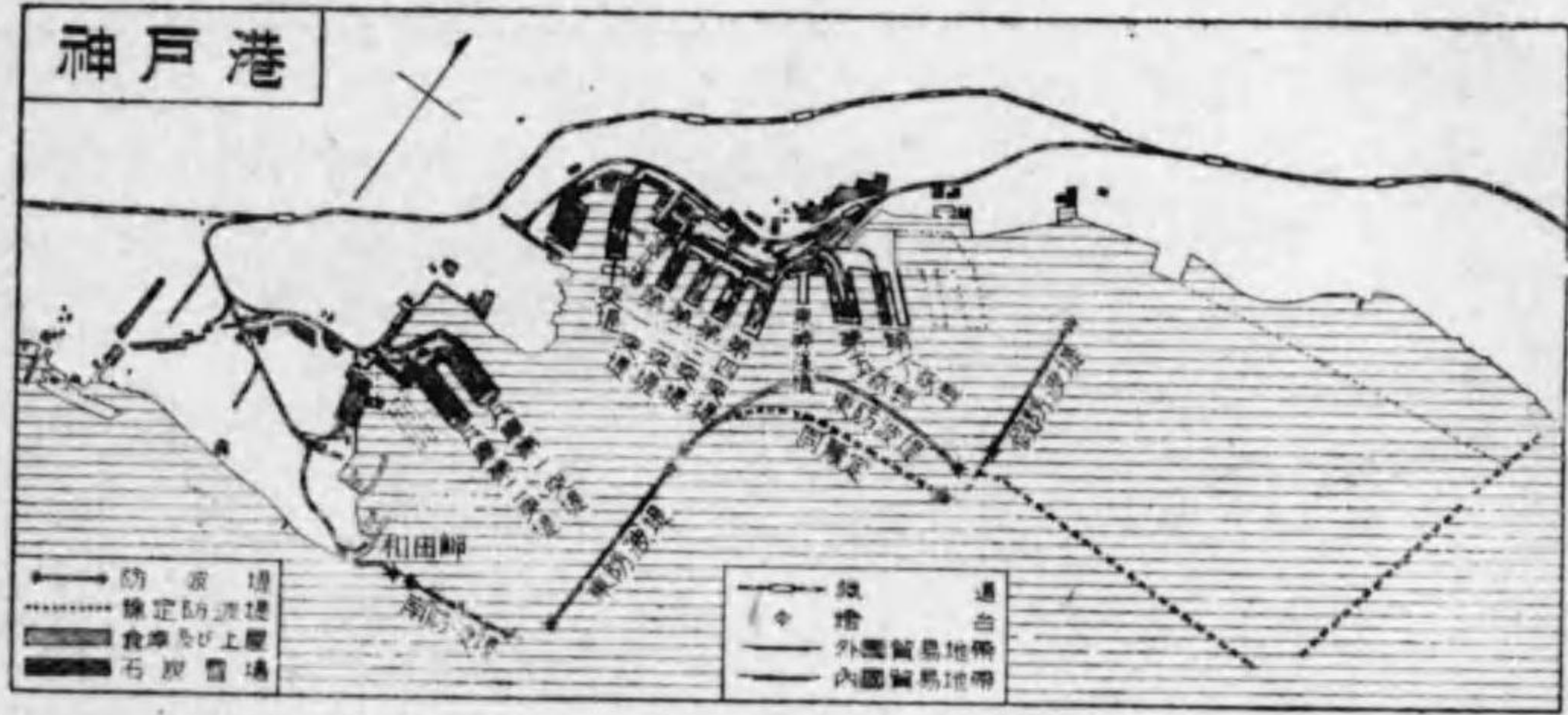
地形 市は昔から近畿に於ける西方の關門であつたため史蹟に富む。源平の戰の生田の森、鶴越一の谷の古戰場、福原の都址等の舊蹟は人のよく知る所である。大逆尊氏兄弟の大軍は駒ヶ林に上陸し、楠木正成はこれを湊川の天井川附近で防戦したのであるが、その湊川は現今は廢川とし遊園地を造り、新湊川は會下山をトンネルで通過して海に注ぐ、これは神戸港を埋める土砂を港外に流出する様にしたものである。河口附近にある刈藻



島は、兵庫運河開鑿で得た土砂で造つた埋立地で、廻轉式の鐵橋が架けられてある。和岬は昔ここを流れた河川の三角洲であるが、これには明石海峽から來る潮流の作用が加はつてゐるので、一の砂嘴とも考へられる。

生田川も元港内に注いでゐたのであるが、是は市の東部に於て港外に流出し、下流市街地を流れる部分は全部暗渠となし、上を遊歩道として利用したが、昭和十三年の水害の際は、大慘禍の原因となつた。舊河床の一部は東遊園地として残され、天井川であつた面影を僅かに残してゐるが、他は大方切り下げられて立派な道路となつてゐる瀧道がこれである。





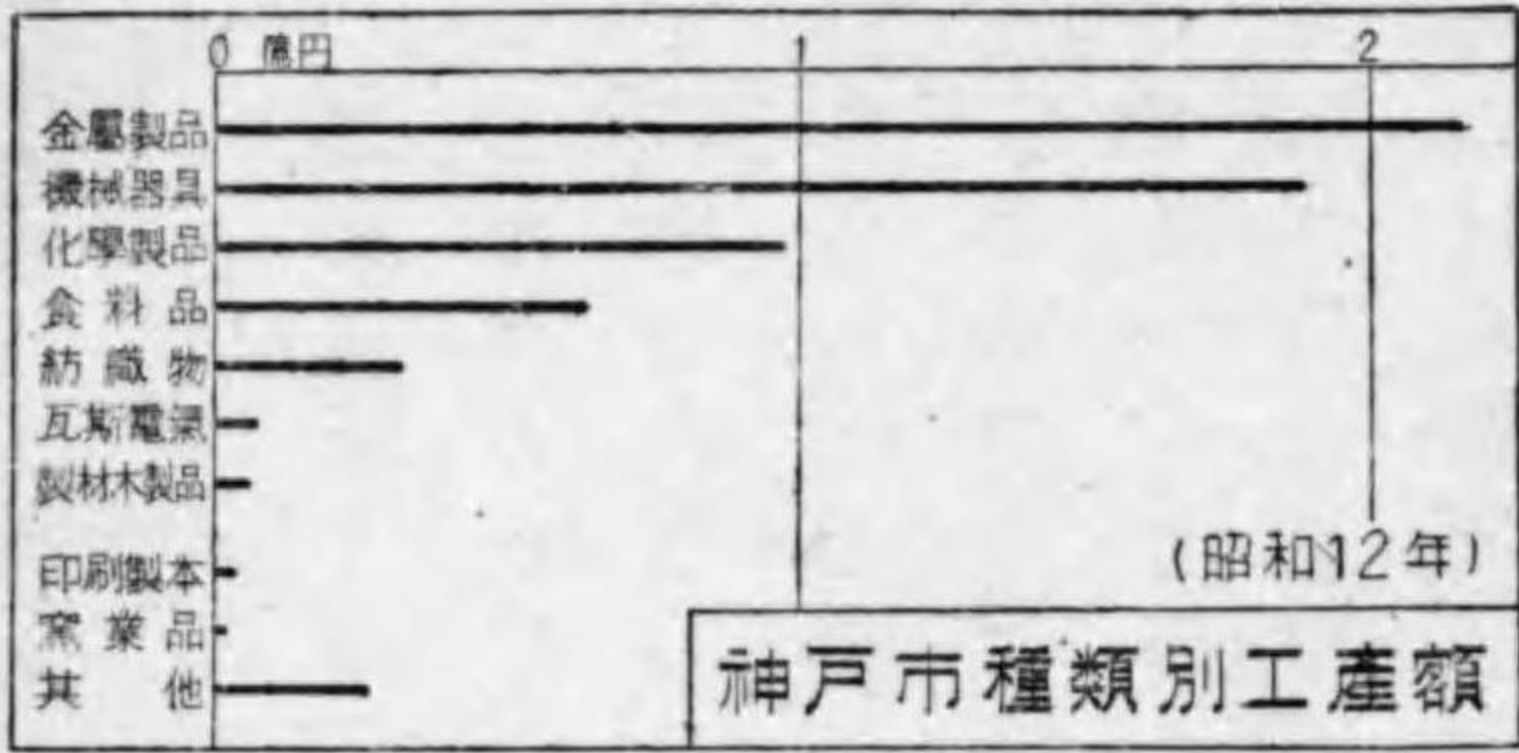
市電山手線が一上一下波状の地形を過ぎるのは、天井川の河床や扇状地を横断する爲で、舊湊川の所では電車は河底トンネルで通過し、神有電車の湊川驛も元の河床下の地下に設けられてある。須磨の關のあつた處は、鐵拐山の麓で昔から要害の地とされてゐた。今この山麓を省線山陽線山陽電車、神明國道等我が國交通の幹線が通過し、東の山崎(京都府)の隘路に對して是は西の關門になつてゐる。

神戸港 大阪灣の東岸は遠淺の砂濱で、且つ冬季の季節風に曝露されるので天然の良港が無い。これに反して灣の西岸は海深く、六甲山塊が海に迫つて天然の防波堤となる。神戸港の良港なるはこのためである。東南風を防ぐために延長六軒の大防波堤が築造された。港内に舊湊川、舊生田川等の三

角洲が突出して港内を二小灣に分つ、その形から扇港の名がある。開港神戸港とは兵庫港税關新港及び葦合港を總稱するものである。明治以來我が國の門戶として、文化輸入に貢献したメリケン波止場は鯉川の三角洲にあつた。その西に續く國産波止場は、國産の農産及び

雑貨等の陸揚が盛である。新たに築造された神戸港は、舊生田川三角洲の小野濱地先に設けられた六個の大突堤で税關新港といひ、上屋等の設備が整ひ、歐米航路の巨船が發着し、引き込まれた臨港線によつて旅客列車が入り來り、船車の連絡が完備してゐる。また新に出來た中棧橋は近海航路の發着地で、臺灣や九州行の汽船はここから出るのである。

兵庫港は主として國內貿易のために築造されたもので、四國山陽淡路通ひ等の汽船が發着してゐる。港



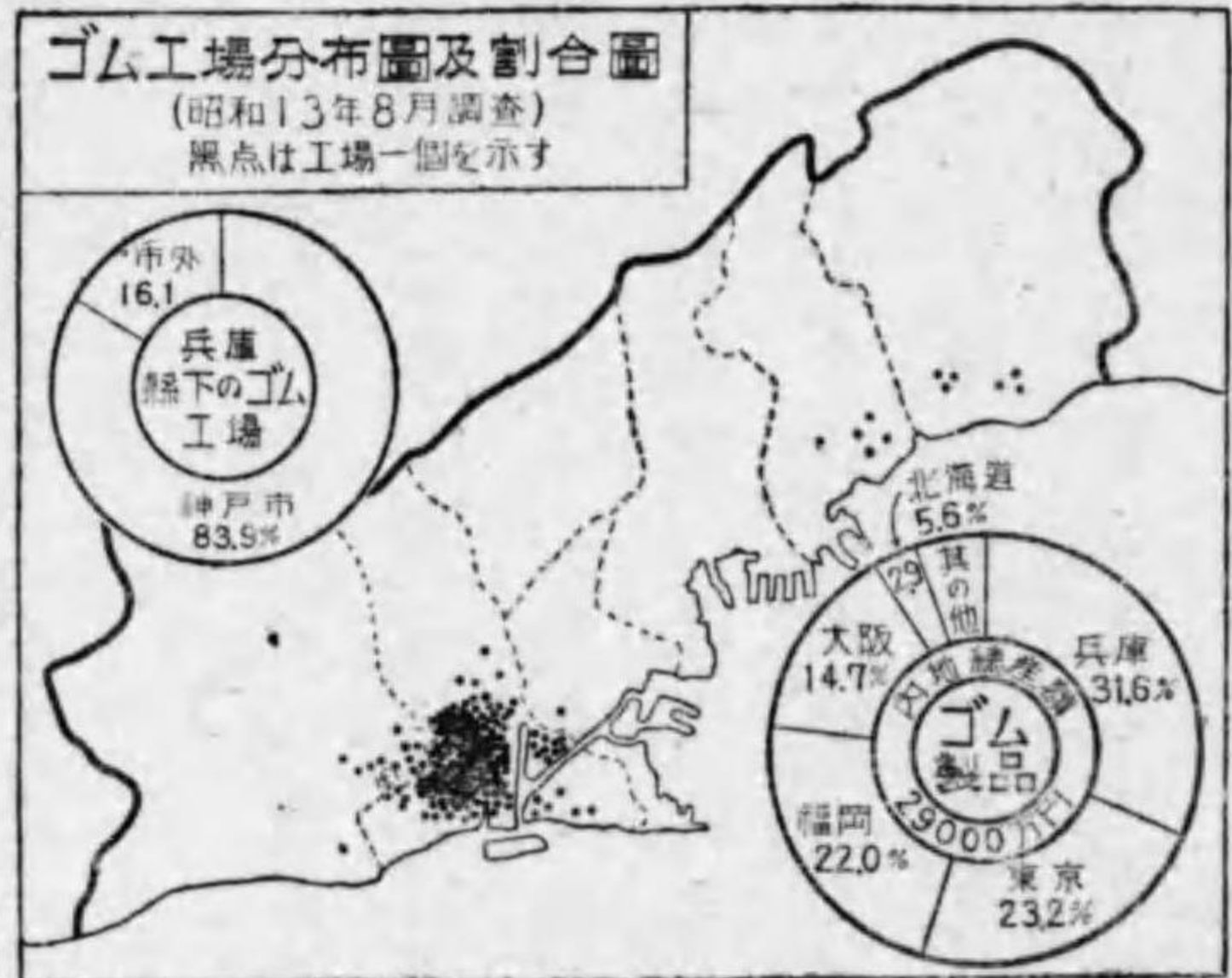
の位置は往昔の武庫の泊とまりに近く、清盛の築造した經ヶ島きんがしまもまたこの附近にある。

工業地區 神戸市工業の中樞は和田岬及び川崎の三角洲方面で、大部は川崎及び三菱の二大造船所で占められてゐる。出入船舶に於て東洋一を誇る神戸港に、大造船所が出来たのは當然で、實に神戸市工業界の誇りである。この工場で製造されるものは船艦だけではなく、車輛や種々の機械も製作される。省線高架線で神戸市を通過するものの、先づ驚くのは川崎造船所のガンドリークレーンであり、三菱造船所の巨大な浮ドックと共に海港神戸の偉觀ゐくわんである。

新川運河や兵庫運河の沿岸には、材木置場・マッチ工場・製粉工場・製糖工場



等がある。また鐘淵紡績會社の工場は、鐵道和田岬線に沿ふて廣大な敷地



を占めてゐる。新湊川より妙法寺川に至る地域は、比較的新しく發達した工業區で、鐵道鷹取工場を始め二三工場の他は小工場が多い。兵庫縣が全國生産の三〇%を占めるゴム工場は、この地方に群集してゐる。東部工業地區は、葺合區を中心とし、小野濱以東にあり、川崎製鐵せいてつ工場・神戸製鋼所の二大工場を始め、ゴム工場・再製樟腦工場・造酒工場等があり、大抵鐵道東海道線以南に限られ、煙突林立の壯觀を呈してゐる。

商業地區 三宮以南の低地區で、税關神戸商工會議所・生絲検査所・日本銀行支店・横濱正金銀行支店・倉庫・汽船會社・ビルディング等の主なる貿易機關が

備はり、高層建築物が楯比してゐる。金融機關は榮町筋に集り、小賣商は元町通りに軒を並び、三越・大丸の百貨店がその東西兩端を占めてゐる。

南京町は元町の裏町に當り、多數の中國人が自國の慘禍を知らぬ顔に幸福な生活を営み、開港場としての一特色を表してゐる。湊川新開地は省線鐵路の北方にあり、元湊川の河床地であつたが、今は歡樂地として最も股賑を極めてゐる。北端に聳えてゐるのはタワーで、大阪の通天閣と相似たものである。

住居地區 省線以北の山手方面で、所々に地方中心の商業地もあるが、大抵市民の住宅が多

い。以前は山手方面の人が買物に行くに、省線を踏切らねばならぬので危険であつたが、今は高架線となり、上を汽車が走り、下の空間は倉庫商店等に利用され、三宮では歡樂街をなしてゐる。また阪神電車の神戸乗入の所では地下線に改められ、地下街が出來、市街が次第に立體的に膨脹するに至つた。神戸市の如き平地の乏しい都會に於ては當然のことである。

縣廳・裁判所・市役所等の政治機關・中等諸學校等も亦この地區にある。山麓または臺地は神社の境内となり、公園や墓地となり、或は彩色鮮な文化住宅が並び市の美觀を添へてゐる。また海洋氣象臺や測候所・圖書館・上水道淨水池等が同じ地形の所を選ばれ、何れも眺望絶佳である。北野町及び山本通附近には外人の住宅が多く、神戸港内を俯瞰する景勝の位置にあるが、現今の如く國際關係の激化した際には好ましくない存在である。

市内の交通 東西の延長十七軒に達する神戸市の交通は東西の交通系統が重視されるのは當然で、市内電車・阪急・阪國・山陽等の郊外電車を始め、省





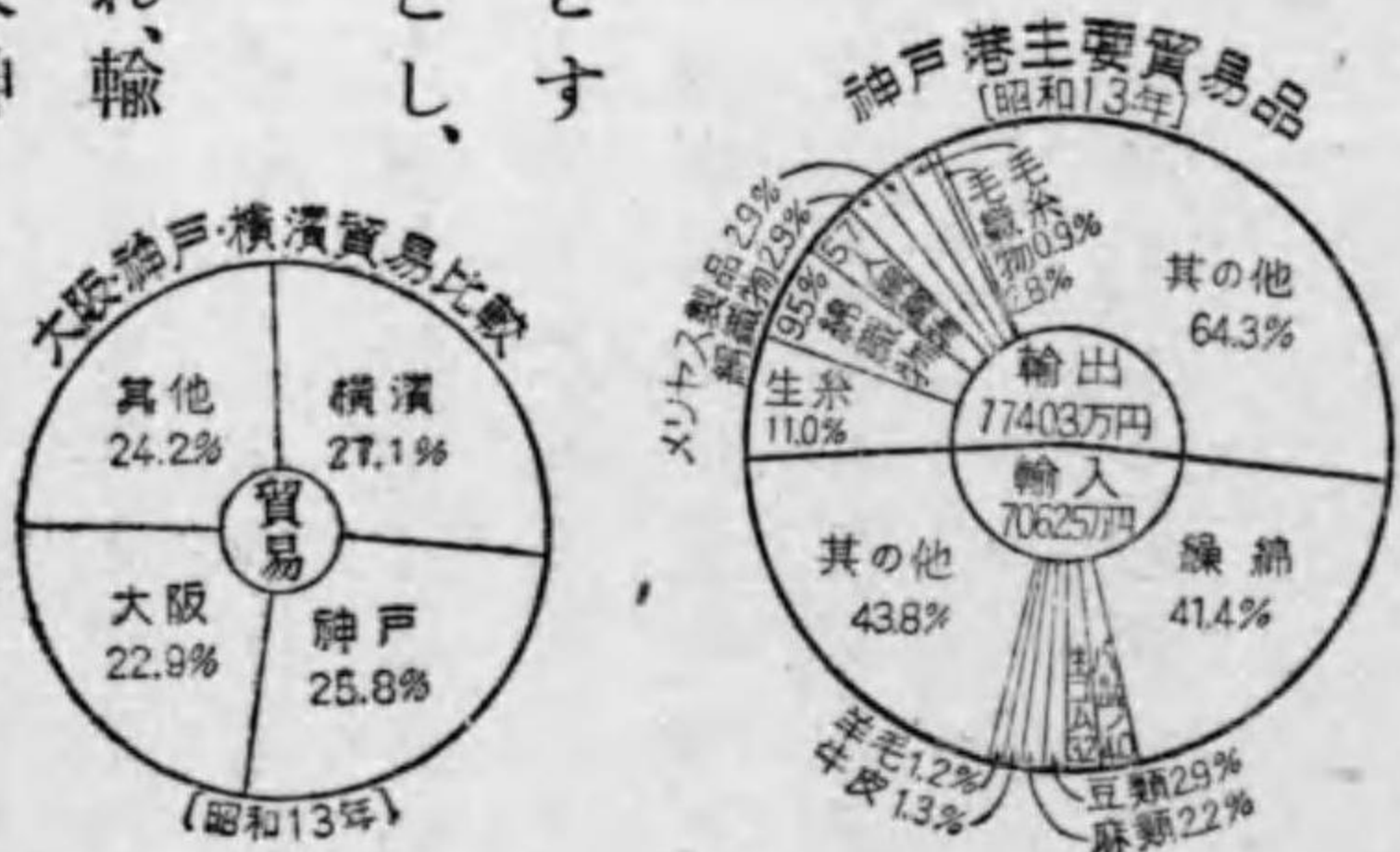
線も幹線の部はまた東西に走つてゐる。乗合自動車も市バス・神戸・神明・阪國等、又東西の交通に便し、南北の交通は市電の一小部と郊外電車の神有電車の一部がある。省線幹線中六甲道を始め須磨に至るまで、市内に多數八驛の驛を有つのは、神戸市の特色を語るもので、朝夕に多數の乗客が殺到して混雑するから、今一線東西の高速交通機關の敷設が要望されてゐる。

神戸港の貿易

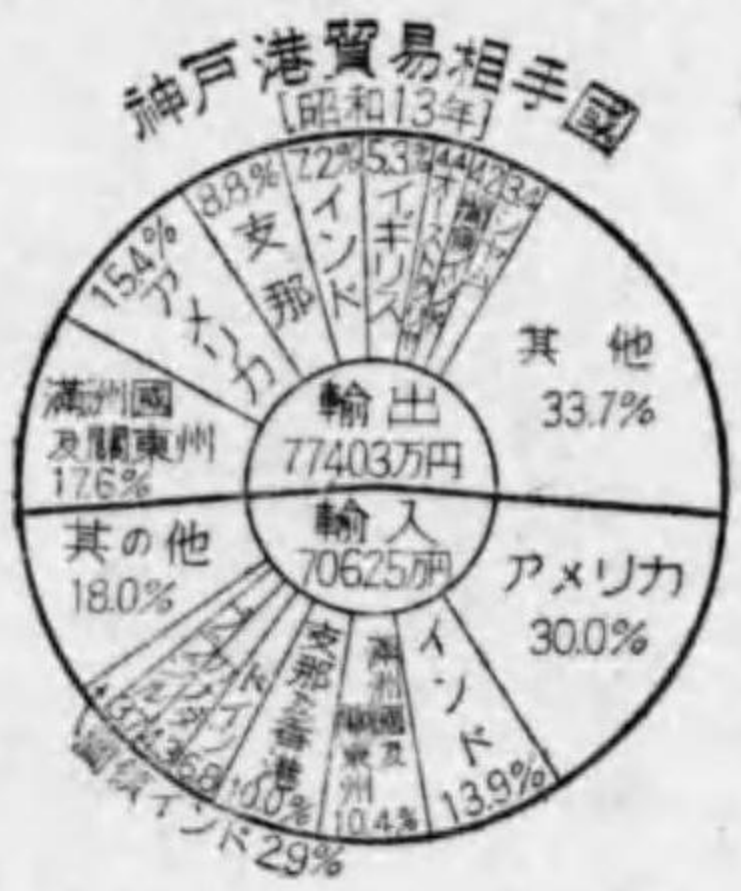
神戸市の生命は港灣にある。關東震災以來横濱港を凌ぎ、我が國の第一位に上つた神戸港の貿易額は、其後益々躍進して貿易額に於て横濱港と數億圓の差(昭和十一年に於て五億六千萬圓)を生ずるに至つた。併し最近國策によ

る貿易統制の結果は本港の貿易額に大影響を與へ、昭和十三年以來一時その首位を横濱港に譲るに至つた。元來横濱港は生絲の輸出を主とし、神戸は綿布の輸出を第一として、各々特色を有つてゐたのであるが、今日は神戸港も亦生絲が重要輸出品となつた。是は震災以來神戸港から生絲の輸出が認められ、生絲検査所が設けられたことと、西日本に養蠶業が發達したこと等が主な理由である。神戸港の貿易は、棉花・バルブ・生ゴム等の原料品を多く輸入し、綿織物・生絲・絹織物等の半製品や、全製品を輸出するが、概ね入超を常態とする。取引國は輸出・輸入共にアメリカ合衆國を第一とし、インド・滿洲國及び關東州が是れに次ぐ。

元神戸港は主として大阪市の外港として利用され、輸入された原料品は、船によつて大阪港に運ばれ、又は阪神



国道をトラックによつて運ばれ、工場或は倉庫に入れられるのである。然るに今や大阪港にも大船を入れるに至つたから、大阪港を寄港地とする汽船が年々増加した。殊に貨物船に於てはその傾向が著しい。これは大阪



市の工場地が大阪港と連絡した運河の沿岸に多いため、港内から舳で運搬する方が便利なためである。然し旅客の乗降には神戸港の方が遙かに便利で、この點に於て神戸港は永く京阪の外港として利用される。

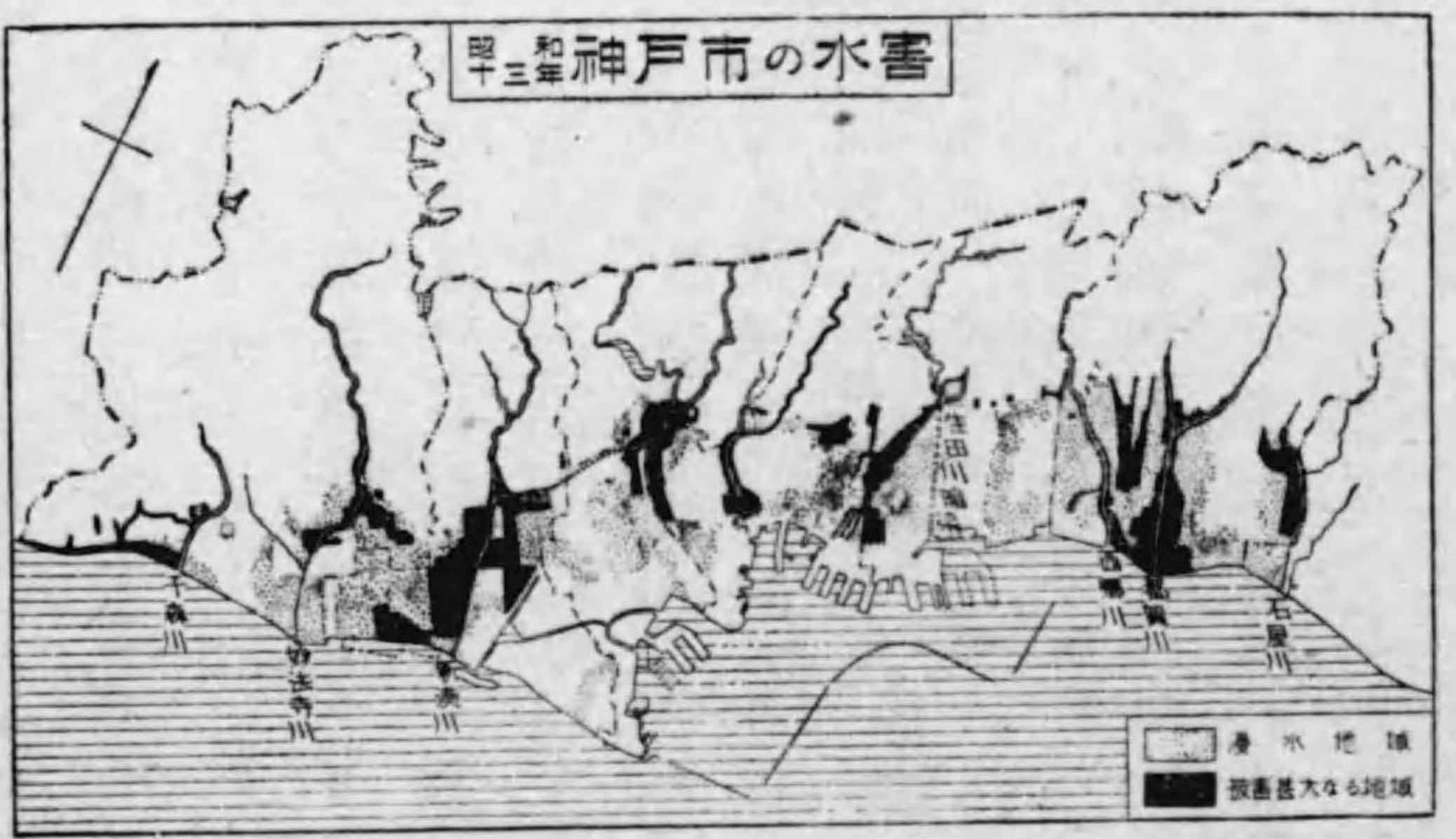
殊に將來東亞協同體の結成につれて、その經營の基地となるべき好位置にあり、その使命は大きい。

神戸市の將來 昭和十三年七月の水禍は、實に未曾有の慘害を興へたが、官民一致の努力の結果は復興事業も大いに進捗した。しかし根本的の治水・治山の方策・水道の擴張・下水道の構築・防火防空設備・神戸港の擴張・阪神運

河・自動車専用道路の建設等將來の問題は實に多端である。

八、自動車で登れる六甲山

六甲山塊は大阪灣に近く聳立するため阪神地方第一の展望地で、東六甲石の寶殿・摩耶山・鉢伏山等が特に景勝の地である。標高九百餘米の山上は盛夏には都市の熱塵を避け、一日の清遊を試みるによく、冬季はスケート場・スキー場にも利用されることがあり、附近には寒天の製造も行はれる。この山は元外人が避暑地として開いたの



であるが自動車登山路が開拓され、横断縦走ケーブルカー(二ヶ所)ロープウェイの敷設されるにつれて登山者が激増し、文化的設備が完備し、近畿第一の文化的山上聚落となつた。

明石海峡の北岸鉢伏山(おぼたさん)より北

東に延び再度山(またたけ)摩耶山(まのやま)西六甲山(にしむつ甲山)東六甲山(ひがしむつ甲山)を起し、武庫川の溪谷に至るまでを六甲山塊と稱する。北側は断層で丹波高原南部の丘陵と分離され、南側は数段の断層崖で大阪湾に急斜してゐる。頂上には浸蝕平坦面を存し、ゴルフ場として利用される。二段三段の階段断層の上にも亦是に類する平頂部を存し、前者の

接続部が大阪湾側の陥没によつて引下げられたことを示してゐる。近年この山塊の所々に逆断層が発見された。



有馬寶塚等の温泉は是等の断層線に湧出するもので、有馬はその歴史最も古く推古天皇の朝の発見といはれる。主として炭酸泉の湧出するもので、鳥の地獄虫の地獄といふ噴氣孔もある。町は純然たる温泉町をなし、筆及び竹細工の産がある。寶塚は炭酸及アルカリ塩分を含有する鑛泉で、阪急電鐵會社が少女歌劇團を創め、大阪神戸兩市の遊樂地として企てた計畫が成功し、二十數年の間に今日の盛

況になつた。 阪神郷土地理

四〇

其の他の鑛泉は山塊の南麓に住吉・蘆屋・青谷・布引・奥平野・北麓には武田尾・名塩・唐櫃等に湧出し、その配列は山塊の裂罅を示すものである。近年湊山温泉では地下三百餘米の鑿井で攝氏三十八度の温泉を得ることに成功し、最近有馬温泉でも同じ方法で新温泉の湧出を見るに至つた。



一と稱せられる。

花崗岩は崩壊性に富むから、濫伐或は山火事で荒廢した山地は岩石が風化してロックガーデンをなす所が多い。蘆屋の裏山及び六甲山の北側座頭谷の如きは好例である。六甲山では是等の崩壊する土砂を防ぐために至るところに砂防工

事が施行されてハゲシバリ等を植えてある。

東部山腹の甲山は花崗岩中の裂罅に沿ふて噴出した塊状火山で、輝石安山岩から成る。周囲の花崗岩が風化して赤白色の禿地をなしてゐる中に、満山鬱蒼とした麗はしい山容は、東海道線の車窓からはつきり眺められる。

六甲山麓の天井川

六甲山塊を南流する河川に、夙川・蘆屋川・住吉川・大石川・布引川・湊川・天王川等があり、急坂に懸つては瀬となり、或は瀑布となり、発電水車等にも利用される。水車は住吉川沿岸のものが最も多く、元灘酒造米の精白のため設けられたのであるが、現在は木屑製造・キルク粉・アルミニウム粉製造等の工場に変更された。是等



の河川は扇狀地に於て屢々氾濫し、天井川となつてゐるから東海道線は河

底をトンネルで通過する。河川の堤防上には松樹が並木状に繁茂し、遠くから河川の位置がはつきり見える。また堤防並びに附近は近年住宅地として利用され、高級住宅が松樹の中に隠見してゐる。

昭和十三年の水禍は此の天井川附近が最も惨憺を極め、中でも住吉川流域は殊に甚だしかつた。これは上流の受水区域が廣く、山地の荒廢も著しく、兩岸の崩壞層も多く、且つ下流の天井川をなすことと、河道の著しく縮少されてゐたこと等が、損害を大ならしめたものと考へられる。

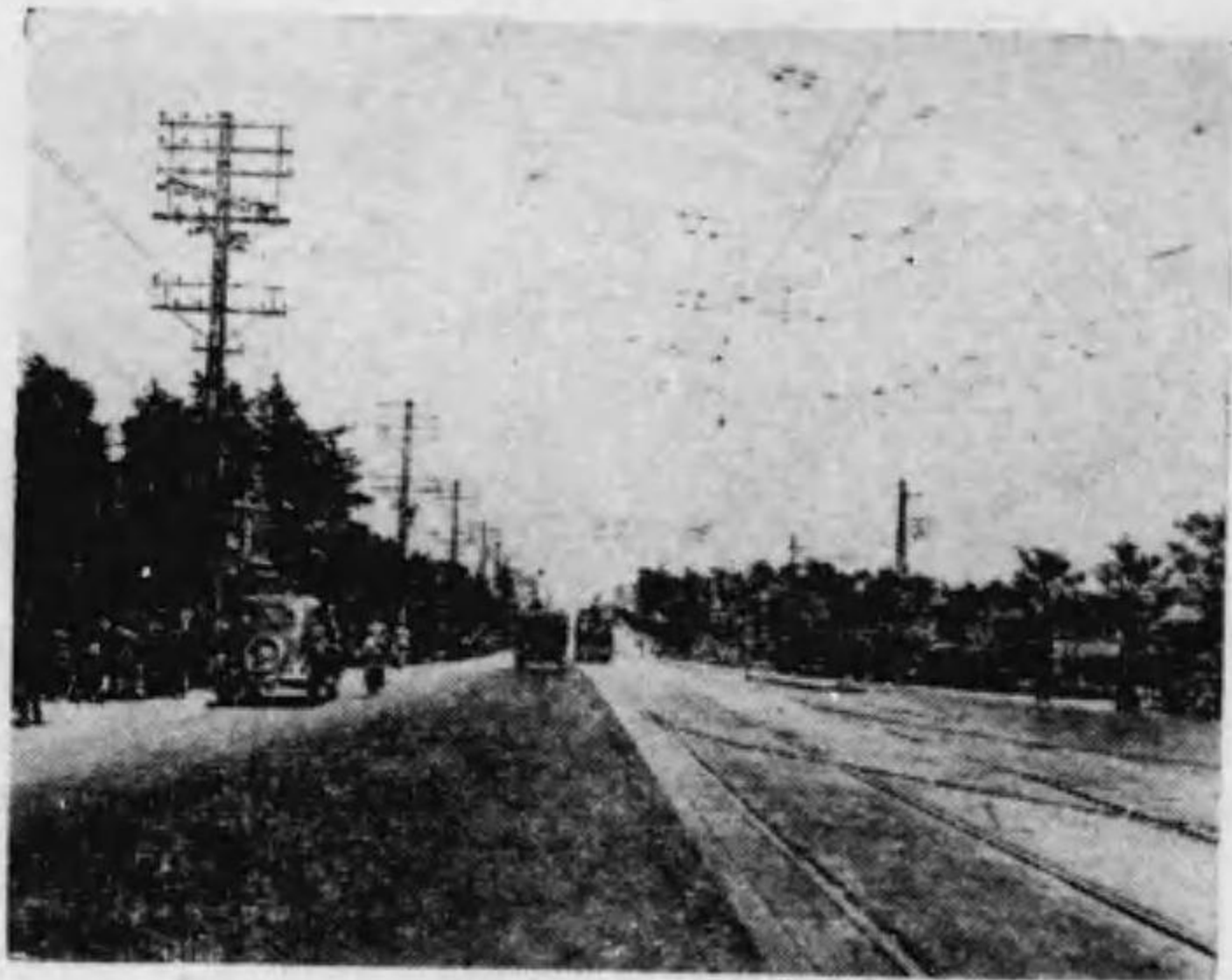
九、六甲山麓の住宅地

西宮市附近から神戸市に至る延長八軒の六甲山麓は大阪灣に南面し、冬暖夏冷なる健康地で、大阪神戸兩市へ最も便利な位置にあるため、鐵道電車の開通以來別荘地として開拓され、殊に歐洲大戰當時の好況以來、阪神兩市民の住宅を構えるものが多く、蘆屋・住吉・夙川・御影・西宮等鐵



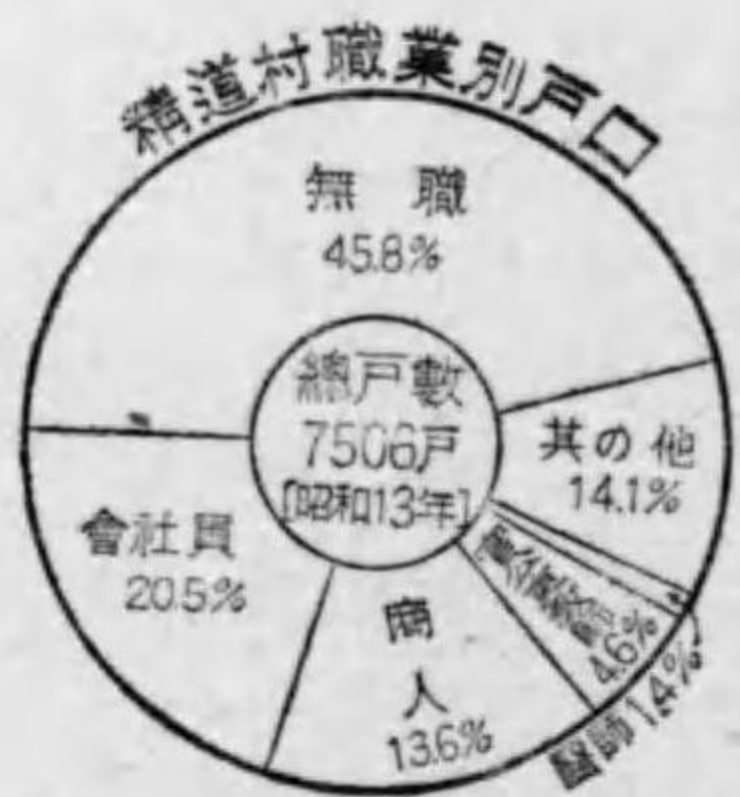
道電車の驛や停留所を中心として文化住宅が建ち並び、特色ある景觀を呈してゐる。海岸にも住宅地があり海水浴場等もあるが、水運の便を有する

ため、近來次第に工場地と化してゐる。本庄村の如きは大神戸市都市計畫區域の工業地區に指定されてゐる。精道村は最近市制を施行する豫定で、東の豊中市と共に純然たる住宅都市をなし、工場のないことを誇りとしてゐる。



阪神國道上甲子園

住宅は多大の損害を受けたものがある。將來この地區に住宅地を開くには、右の災禍を再び被らぬやうな計畫を樹てるべきである。



交通は東海道線・阪神電車・阪急電車・阪神國道電車があり、汽車・電車の往復は國道上の自動車と共に文字通り織るが如く、之等の交通機關を利用して二大市に通勤するものは實に數十萬の多數に上るのである。

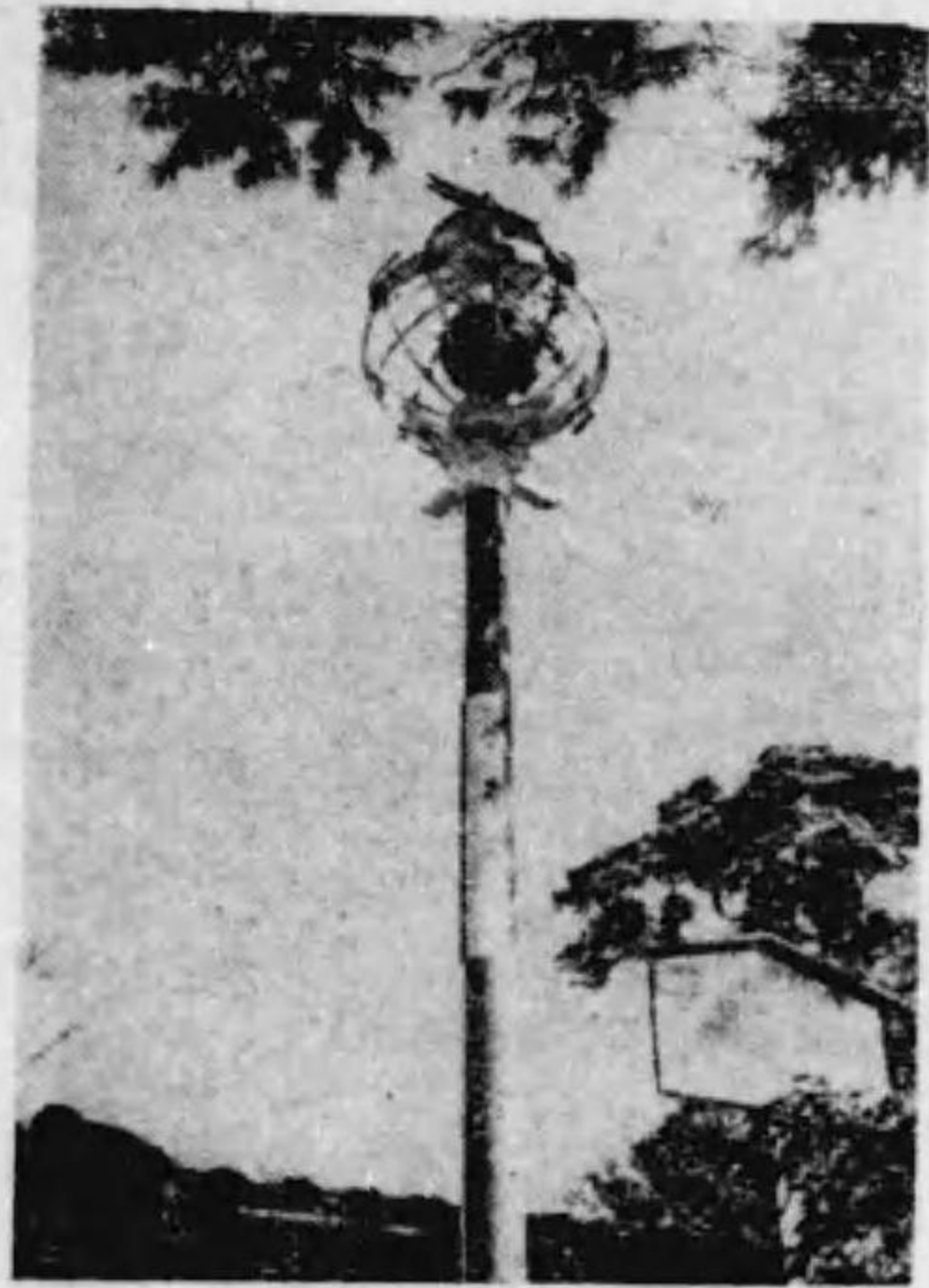
十、海峽に臨む明石市

特色 明石市は大阪灣の咽喉をなす明石海峽に臨み景勝の地にあり、上古から夙に山陽・南海の首驛であつた。今は大開港市神戸に近く、阪神工業

地帯の延長として各種の工業が發達し、また一面阪神地方の遊樂地並びに住宅地として著はれてゐる。

また市は帝國の中央に位し、中央標準時子午線（人丸山に標識柱がある）が通過することにより特に知られてゐる。

沿革と現勢 上古の明石驛家の置かれた



中央標準時子午線標示柱



地は大藏谷で屯倉も亦ここに在つた。しかし今の市街の基は元和年間小笠原忠真が築城した時に始まり、更に數家を経て天和二年松平直明が入部し、松平領八萬石の城下として維新に至つた。その後順調な發達をなし、明治二十二年に町制、大正八年に市制が施行されて今日に至つた。

市は東北から迫る臺地の西南端と海岸及明石川に沿ふ低地とに跨る。高燥なる臺地は概ね野菜畑で、最近住宅地として開拓された所もある。明石城人丸山、明石高女等はこの臺地の末端にある。低地は東西に長く伸び、古くから市街をなした所で城址を要とし、その南側街道の兩側は商業區をなし、東西兩端は工場地となつてゐる。海濱の景勝地には中崎遊園地があり、附近には旅館・住宅等も多く、西部

の新濱町方面には漁家が密集する。

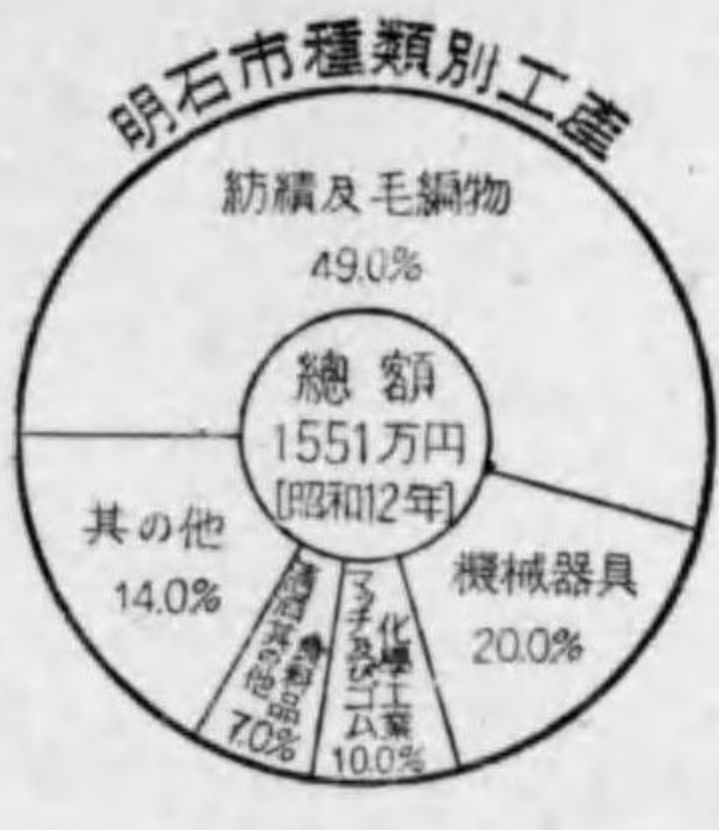
産業

本市生産の大部を占めるのは工業で、生産額に於ては綿絲・毛メリ

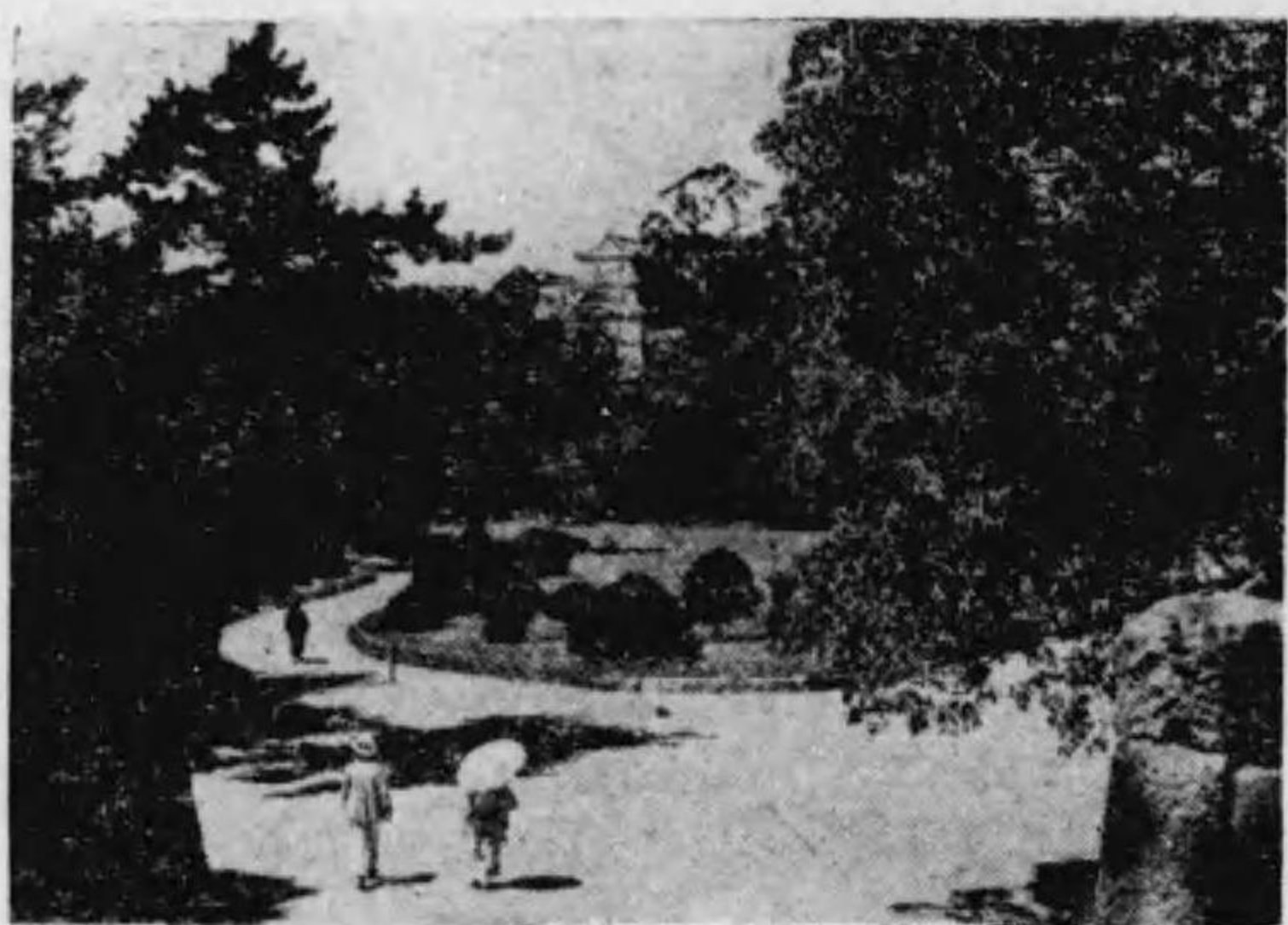
ヤス・靴下等の紡織品を第一とするが、本市工業の特色は機械器具製作で、發動機（明石型と稱せられ海外にまで販路を有する）農具（外地は勿論滿洲國・南洋迄進出する）は最も著はれ電氣器具・ラヂオ部分品等も産額が多い。其他燐寸・窯業（陶器・タイル・黒瓦）醸造（清酒・醬油）等の工業は稍古くから行はれ、また帆布・ゴム製品等をも産する。何れも中小工業による優秀品を生産するは本市工業の誇りとする所である。

農産は人蔘・大根・馬鈴薯・蕪其他の野菜類を台地上に栽培し、トラック其他で阪神に供給し、又西瓜・苺も作り

所在に點綴する苺畑は晩春苺狩客で賑ふ。



明石鯛で知られた明石浦は玉筋魚の産が多く又鱒・鱒・鱒・鱒等を産する。蜻蛉漁や牡蠣養殖は隣接林崎以西へかけて特異の漁業である。次に材料を



明石公園

下關方面から移入して造る蒲鉾・竹輪煮乾其他の水産加工品も多く、その産額は漁獲高を凌ぐ。本市には縣立農事及び水産兩試験場があり、各々研究調査指導に努め、又農林省蠶絲試験場明石支場・縣立自動車検査場・大阪中央電信局明石受信所等特殊の施設が多い。また縣立明石公園を始め、人丸山・中崎遊園地等遊覽・海水浴等の設備が整ひ、來遊者は年々増加する。

明石港は内海航路の避難港、淡路への連絡を主なる使命とし、また藁製品・機械類・燐寸等移出し鮮魚・石炭・鐵・木材等移入する。

明石市の将来 阪神の工業地に西接する本市は将来更に播州大工業地の東端を占めるに至るからその位置は一層重要となる。既に隣接林崎村には大小種々の工場が勃興するに至つたので、これを合併して飛躍的發展を計ることもかねての懸案である。



充實・遊覽施設の完備も進められてゐる。

後背地の發達に伴ひ明石港の重要性が加はつたため、國庫補助の下に擴張工事中である。この發展につれ住宅地としての責任も大いに加はるべく、臺地上の住宅地を擴張充實するは勿論、東部低地の田畑を整理し、廣大な住宅地を得る事業が實施されつつある。尙これに伴ひ教育機關の

十一、農工産豊かな播磨平野

特色 播磨灘に面する播磨平野は、加古川市川・揖保川・千種川等の沖積地と第三紀の台地より成る。降水量の少い瀬戸内海式氣候であるから、昔か

ら灌漑設備が整ひ、砂質の土壤と相俟つて良質な播州米の産地となつてゐる。裏作は麥類殊に小麥が主で、是は大阪平野の菜種と好い對照をなして

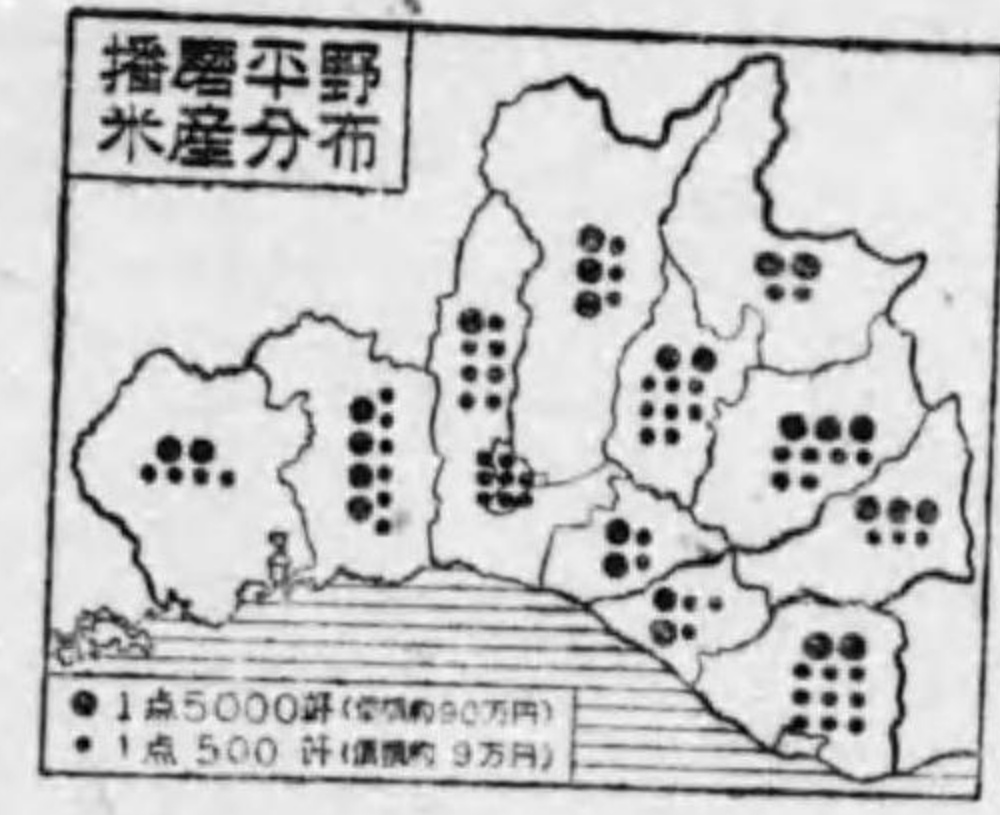
ゐる。その他各所より葉煙草、素麵、醬油、凍豆腐、食物、算盤織物等の特産を出し、養鶏も農家の副業として一般に行はれる等多角的經營をなし、農工産豊かな地方である。近時海岸地方には軍需工場等の建設されるものが多く、阪神工業地帯の延長と見るべく、殊に日鐵廣畑製鐵所の創業は、將來の播州工業を約束するものである。今左に是を三つに分けて述べる。



(一) 東部播磨 加古川の流域を主とし、東には明石市加古川に沿ふて加古川・高砂

三木社町等の中心聚落がある。加古川下流地域は石英粗面岩・流紋岩等の風化による沖積地がよく開け、灌漑用の溜池は稠密に分布し、良質な播州米の大産地とな

五〇
つてゐる。明石市から加古川町までの海岸地帯は、阪神工業地帯の隣接地的刺戟により近時工業地帯となりつつあり、市外林崎村では鑄物機械器具・マツチ・衣服食料品等各種の工業が勃興し、また川崎飛行機製作所及び飛行場の完成も近く、加古川の日本毛織高



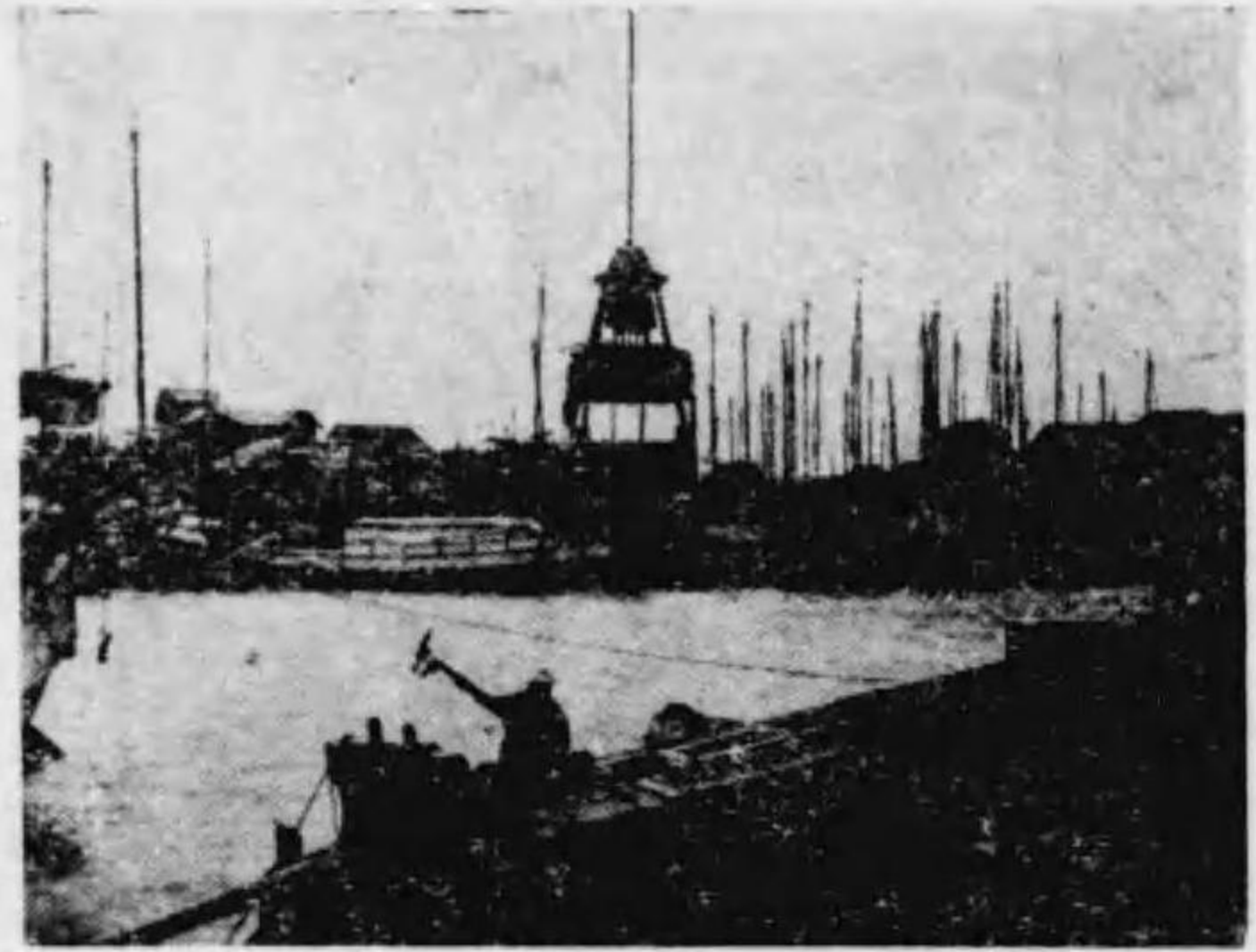
である。

加古川を遡れば洪積層の臺地の上に水田が展開する。算盤双物を産する小野町は加古川の段丘上に存在し、金物を産する三木町は低地に位置する。鮎狩りで



別府製紙工場

名高い鬮龍灘は瀧野町附近にある。新興の西脇町は播州織・播州縞として知られる綿織物の産地で、年産額數千萬圓に及びその大部が輸出せられる。附近の山地は凍豆腐の製造で名高い。



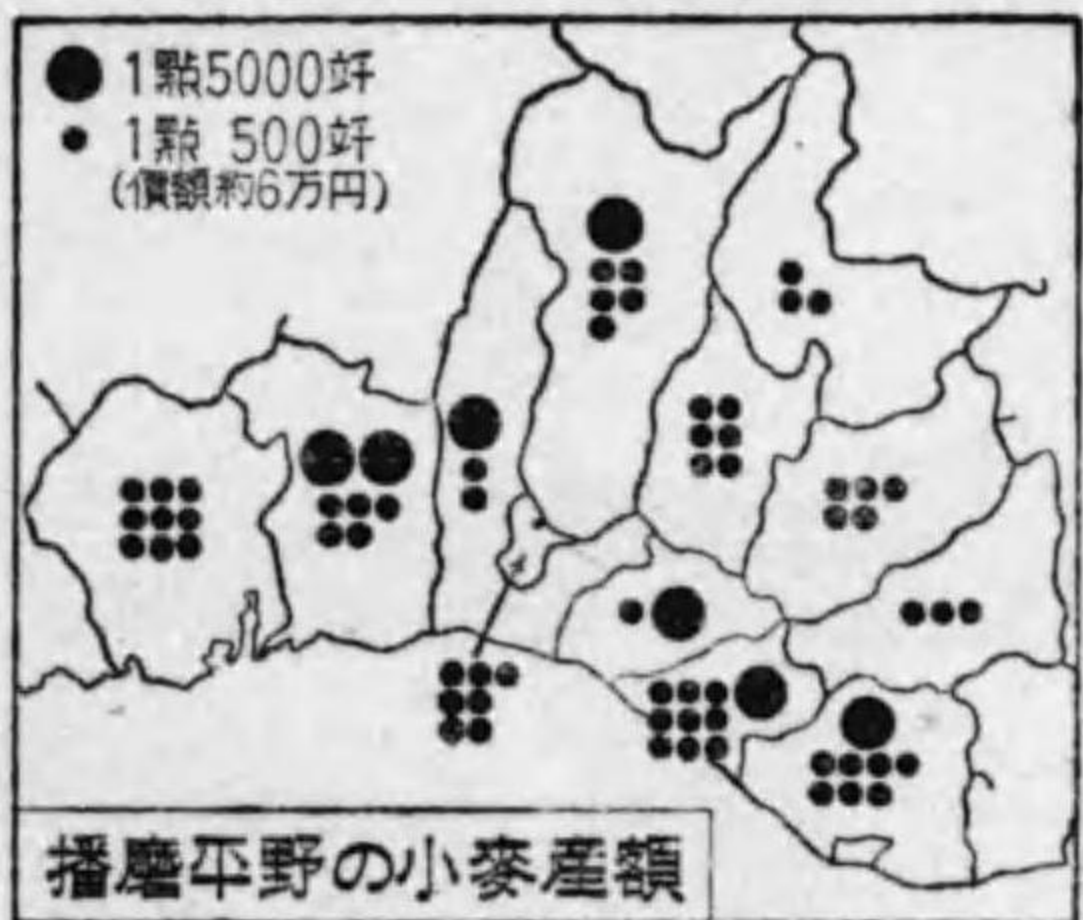
別府港

は凍豆腐の製造で名高い。
(二) 中部播磨 市川・揖保川の兩流域で姫路市を中心とする地方である。この地方は瀬戸内海方面から入った文化と、出雲・但馬方面から来た文化とが融合して早くから開けた處で、有名な播磨風土記もこの地方の記事を主とする。姫路市は市川の右岸に位し、室町時代、播磨守護赤松則村の子貞範の築城以來、城下町として發達して來た。その後この城は羽柴秀吉・池田輝政等によつて修築されたが、その白鷺城は天下の名城として謳はれ、國寶として保存されてゐる。又その城下は工業都市として發達し、日本毛織・東洋紡織・日出紡績片倉製紙等の大工場が林立するに至つた。市川川口に近い飾磨は市の外港であるが

最近市制を施行するに至った。近時その西方の廣村廣畑に日鐵廣畑製鐵所が創業し、一千噸熔鑄爐の偉容は四隣を壓してゐる。人口十餘萬の工業都市の出現も遠くはあるまい。揖保川川口には漁業及び製塩業の中心地網干港があり、中流に

迦れば醬油の産地龍野町がある。斑鳩寺はその稍東南にあり、揖保川流域は素麵の産で名高い。

(三) 西播地方 西播は東播中播と異り山勝ちで千種川流域に僅かな平地を見る。この川の口にある赤穂町は有名な塩の産地で、花崗岩や石英面岩より成る砂地と瀬戸内式氣候とは製塩業の發達を助け、また義士の舊跡があるので名高い。山陽線が赤穂町廻船問屋旅館業者等の反對のために現在この地を避けてゐることは、町の發展のために惜



しむべきである。附近には坂越相生室津等の天然の良港がある。千種川を遡れば流域に上郡佐用等の聚落がある。

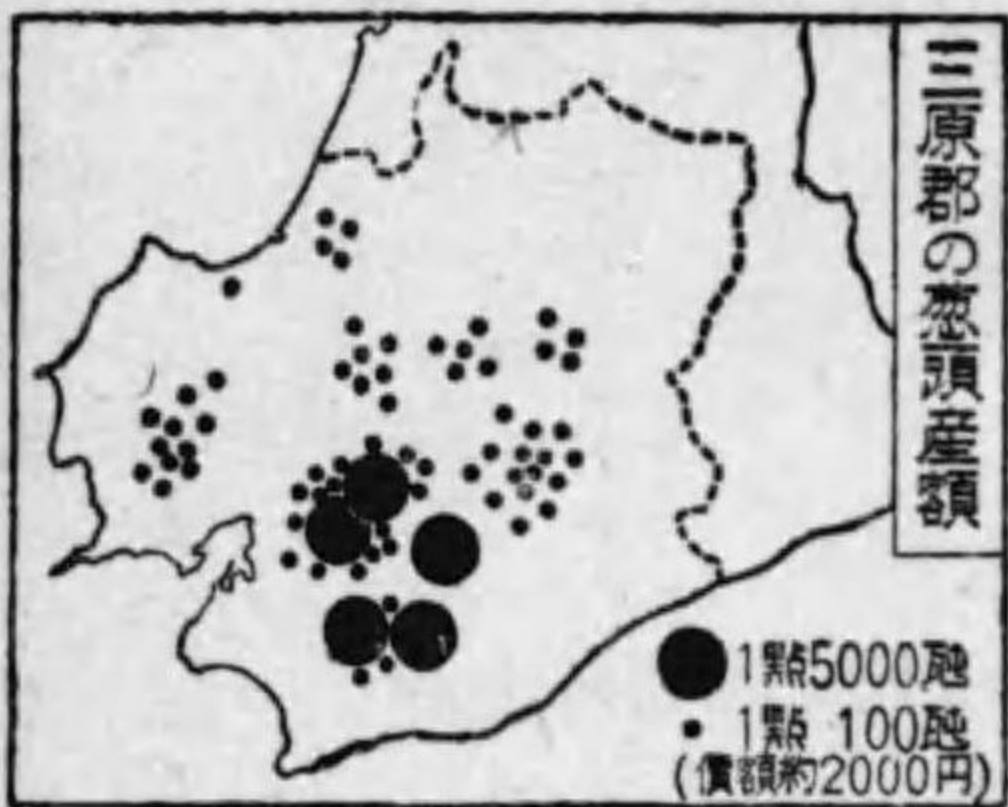
播磨平野の將來 從來農産を主とした播磨平野は、近時阪神工業地帯の延長と

して重要性を増すに至り、殊にその地理的位置及原料の需給や消費地勞力等の關係より軍需工業に適し將來農産を増加すると共に、この方面にも一大飛躍をなすべきである。

十二、日本の縮圖 淡路島

淡路島は洲本地溝以外には平野は少いが、氣候に恵れ且つ阪神の大消費地を控へる關係上古來農業發達し、水田は階段狀に開拓されてゐる。米麥の他葱頭の産が多い。農家は概ね牛或は馬を飼育し、南部では乳牛も飼はれる。紀伊水道に面

する灘地方は淡路の南端をなす斷層崖で、殆んど平地の無い處であるが、黒潮の影響著しく、野生の水仙も十二月の頃開花すると云ふ暖かさである。本島は水産業に於ても地の利を占めるため、漁船隻數及び水産總價額共に兵庫縣下の三分之一を有する。而して阪神の大消費地を控えるため、各種の生産物は有利に取引され島民の收入が多い。田代海岸の花崗岩の如きも船で運ばれて、大阪築港や神戸築港に使用され、松



帆燈臺附近の海岸段丘では、礫や粘土を採取して阪神兩市へ搬出されてゐる。

工業方面では洲本は大阪灣工業地帯に入り紡績工場がある。其他の工業では淡路焼煉乳バター等を産し、婦女子の副業である蠶糸の産も多く、北部には燐寸工場もある。近年阪神地方との交通時間が短縮されるにつれて遊覽者が激増し、阪神の休養地となるに至つた。

第三章 阪神地方の工業

阪神地方は我が國の中央部に位し、瀬戸内海水運の終點に當り、近畿の鐵道網と接續し、帝國の交通上の一大中心をなし、また我が國第一の工業地帯をなしてゐる。大阪市を中心として尼崎市・西宮市・伊丹町・御影町・神戸市に至り、南は堺市から岸和田市及び附近に至る沿岸の地域を總稱し、明石市及び其の附近もその延長と見るべく、港灣と工場との連絡の便利なことが此の地帯の生命で、工業生産總價額は全國の半に達し、纖維工業や機械器具工

業の盛なのが特色である。

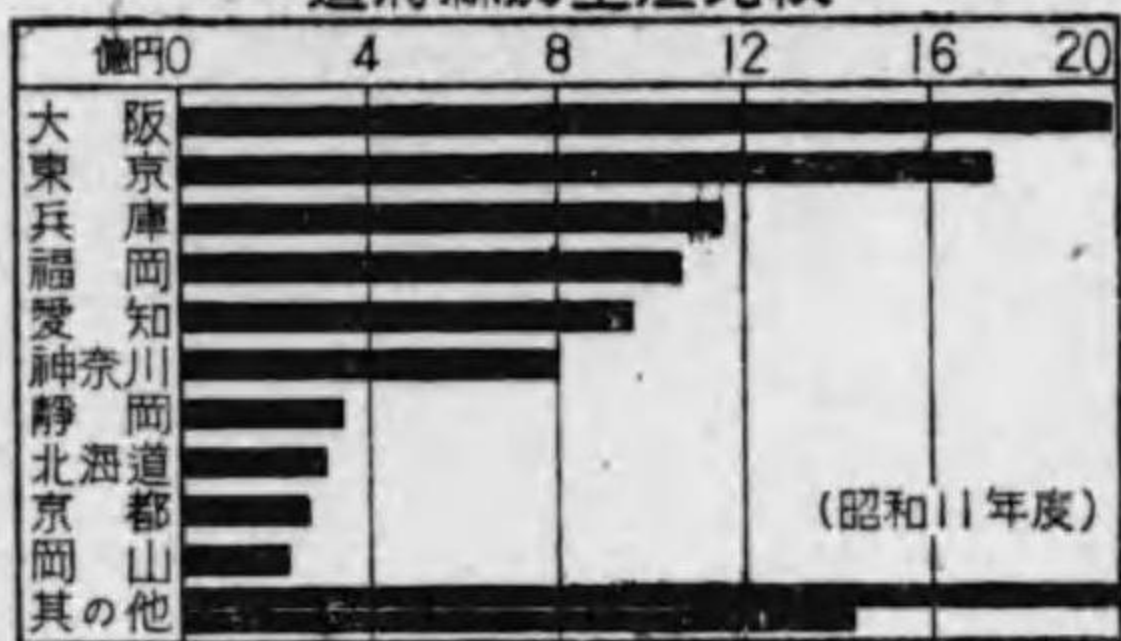
一、輕工業

綿工業は輕工業中の主要なもので全國中の王座を占め、大阪市を中心として西は尼崎市・神戸市・明石市に及び南は堺市・岸和田市及び泉南郡方面に至る。綿絲紡績に於ては全國總鍾數の六〇%を有し、更に綿織物に於ては全國の三五%の生産を出す。

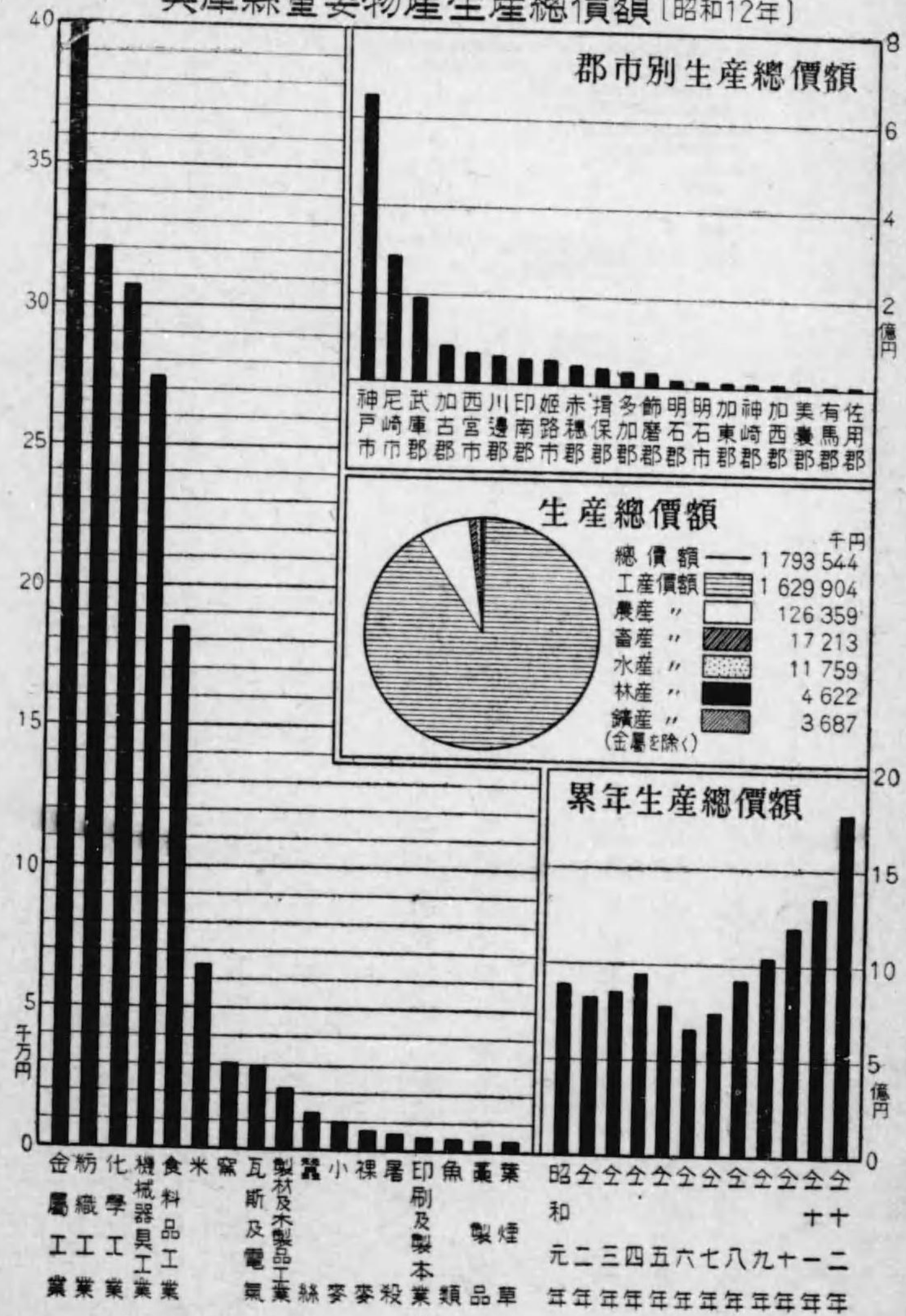
次いでメリヤス製品に於ても全國總産額の四〇%を産し、大阪府を主とする。足袋は堺の福助足袋が最も著はれ産額も多い。

本邦の綿工業は近年技術の進歩と製品の安價とにより世界各地に躍進し、支那・滿洲・印度・南洋は勿論、アフリカ・南米・中米等に及びランカシャ品を壓倒するに至つた。原料の棉花は合衆國・印度等から輸入されるものが多く、又エヂプト・東アフリカ等より少量輸入される。是等の棉花は從來主として神戸港に輸入されて解船で大

道府縣別工業比較



兵庫縣重要物産生産總價額〔昭和12年〕



阪神沿岸の工場に運搬されたものであるが、今は直接大阪港に輸入されるものも漸次増加して來た。

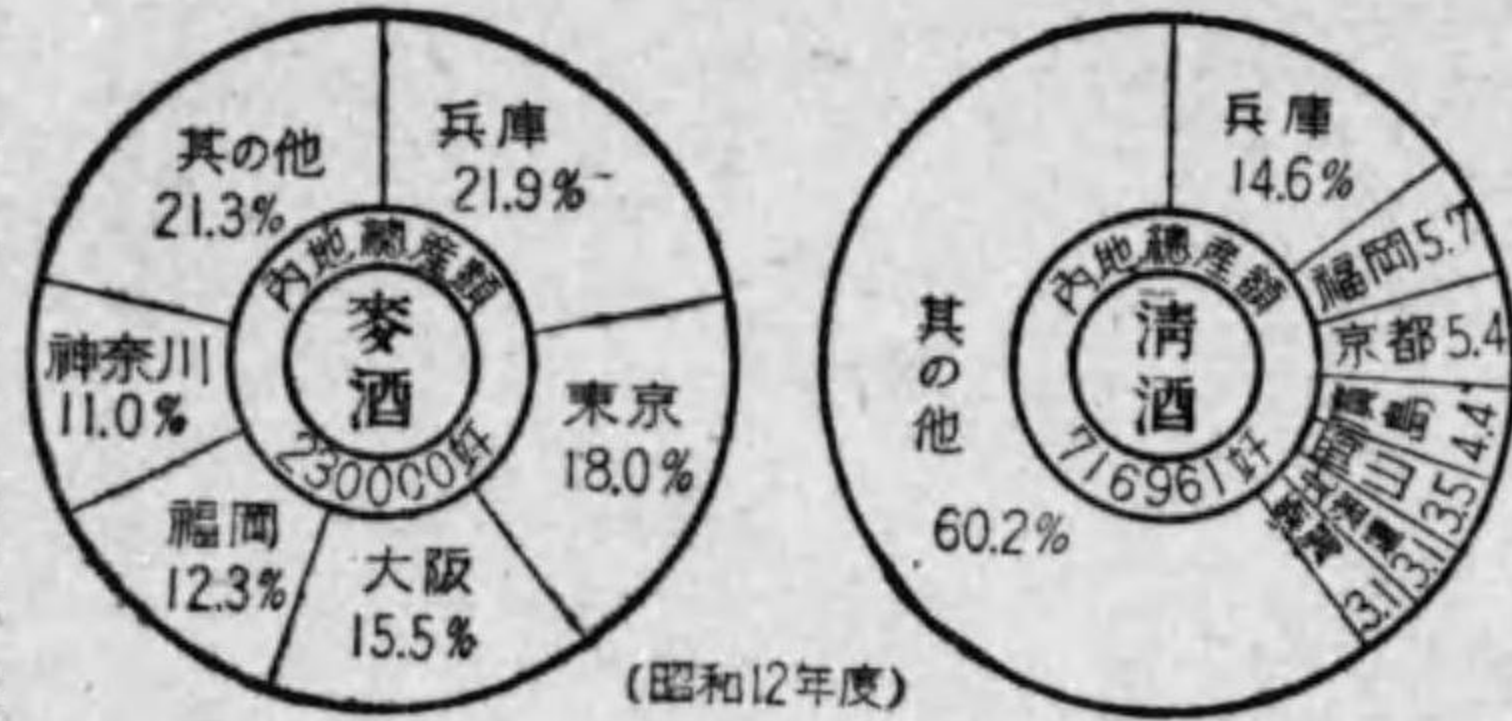


毛織工場

染色工業は大阪市堺市等を始め前記の綿工業地域と大體一致する。綿布の漂白・染色・捺染等をなすもので年額數千萬圓に達する。大阪市にある鐘紡・淀川工場の如きは此の種工業の先驅をなしたものである。是等の工場が淀川・神崎川・武庫川・大和川等の河岸に多いのは用水の便利を考へたものである。神戸市・阪神地方・大阪府・泉北郡にも小工場が多數ある。

毛織物 近年我が國の毛織物は急速に進歩し殆んど輸入品を必要としない状況になつた。製品の種類はモスリン・着尺セル地・洋服用地等殆んど毛織物全般に亘つてゐる。原料の羊毛は主としてオーストラリアより輸入されるが毎年

伊丹では近年醸酒は衰へて他の工業が是に代った。原料米の産地である播磨平野には、江井ヶ島(明石市外)附近に清酒の産が多い。



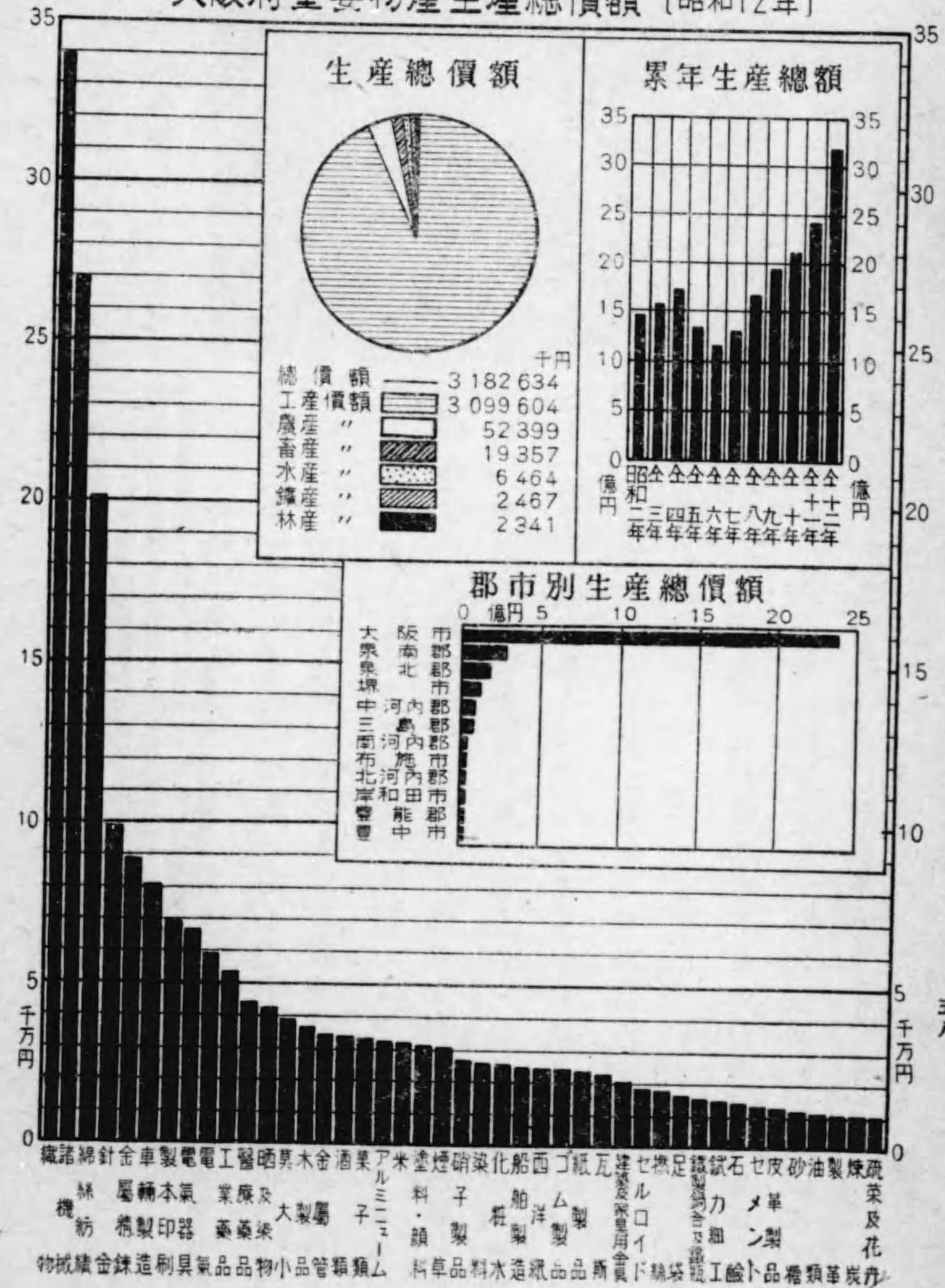
醸造業 灘地方の銘酒を主とするもので、灘の五郷とは今津、郷西宮、郷東郷、中郷、西郷で現在の西宮市住吉村御影町に含まれる。播磨、播磨の良米を原料として、西宮市に湧出する宮水と稱する硬水を用ひ、樽材としての吉野杉の香と、此の地方の冬の氣候と相俟つて、獨特の芳醇味を生ずるのである。酒の生命は水にある。池田、伊丹等の清酒醸造もまた水の關係で發達したが、

灘五郷及其他縣下の銘酒醸造高(昭和12年)

	0万円	5	10	15	20	25	30
西宮市							
御影(中郷)							
御影町							
魚崎(東郷)							
西郷							
其他縣下							

兵庫縣は愛知縣に次いで全國中第二位の産額を有し、大阪府の生産額は第四位である。明石市、加古川、姫路市等に大規模の工場があり、大阪市、伊丹等でも行はれる。

大阪府重要物産生産總價額(昭和12年)



西宮市のユニオン麥酒工場の設立も水質と關係あるもので、其他神崎(尼崎市)のキリン麥酒工場吹田の日本麥酒工場等がある。是等の工場が鐵道停車場の構内



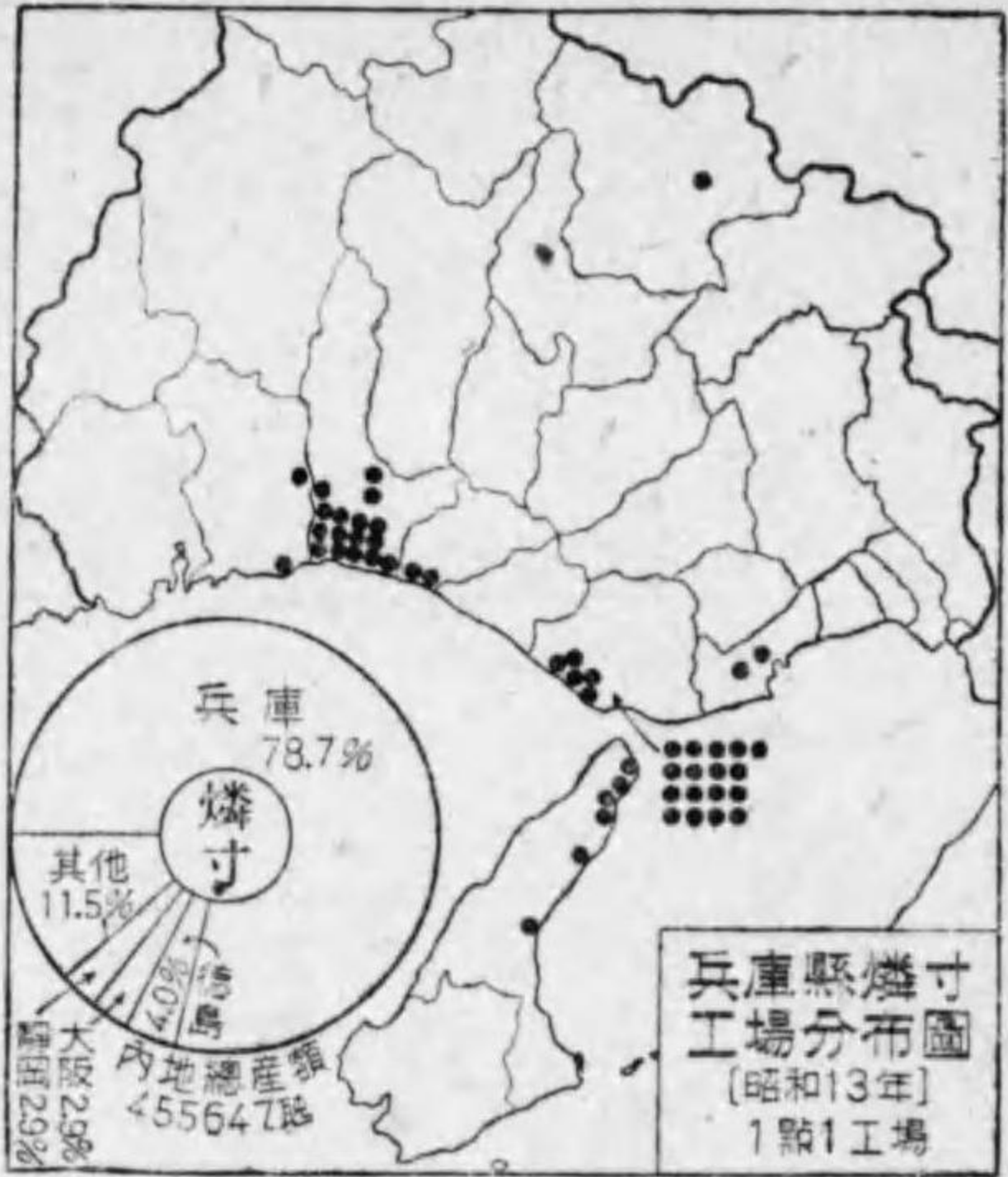
野田醬油工場

と相接してゐるのは製品輸送の便を考へたものであるが、また大消費地の阪神兩市への供給に便利のためでもある。用水は構内にある井水を使用する。從來麥酒の醸造は内地の消費を目的として専ら内地人の趣向に適する様に製造されたものであるが、近年は支那滿洲國及び印度等へも輸出されるに至つた。

醬油醸造は古來播州龍野が知られてゐるが、近年荒井(高砂附近)に建設された新工場は規模大きく機械化された最新式の工場である。

其他製本印刷(全國中二四%)菓子類、煙草製造等の工業は大阪市に於て盛に行はれる。

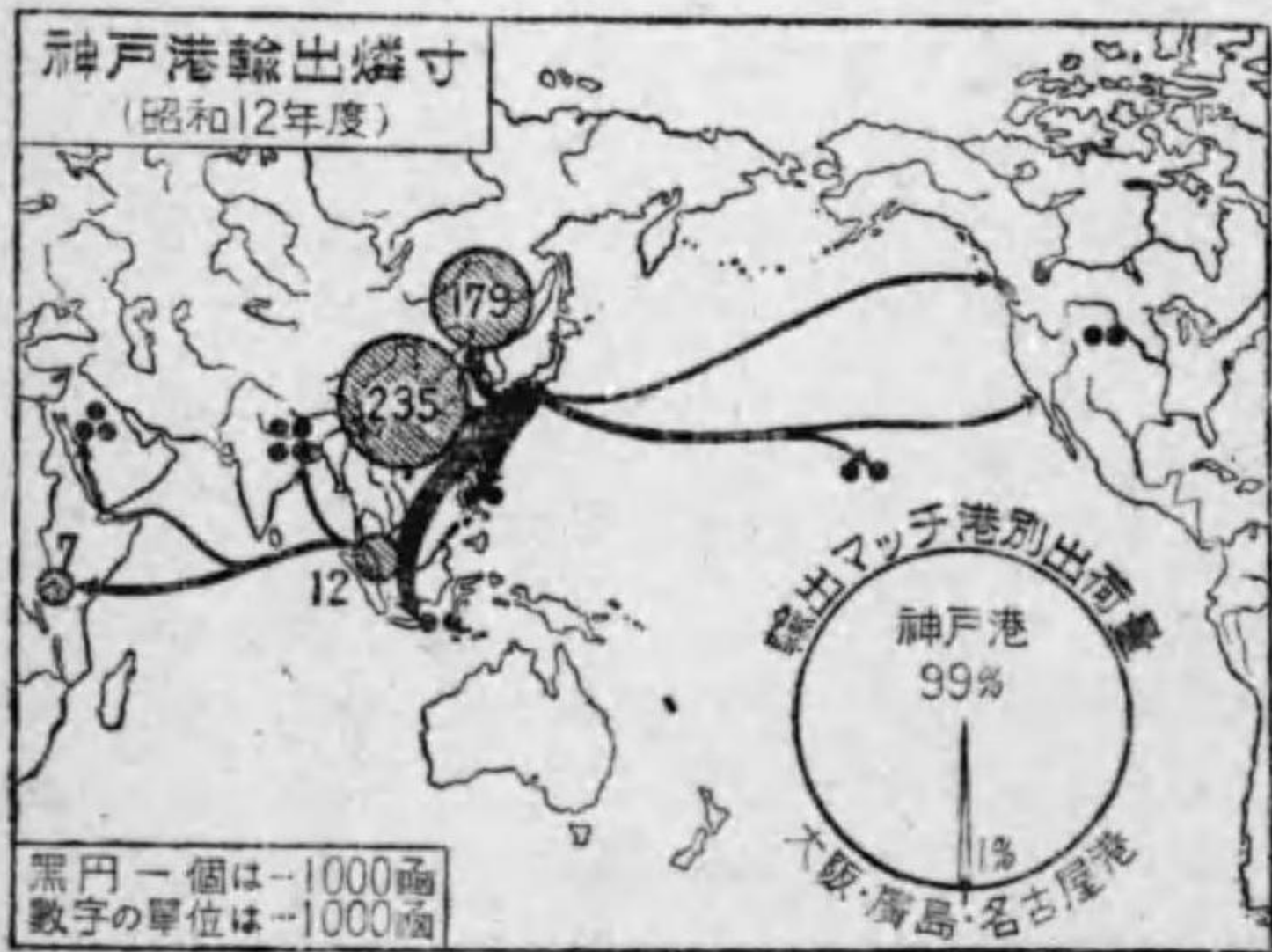
二、重工業



製鐵・製鋼・製鋸・製鎖・製管・製罐・造船・車輛・機械・鐵工・セメント・硝子・金屬精鍊等の工業は大阪市、尼崎市及び神戸方面の沿岸或は河畔に工場がある。原料・燃料・製品の輸送上便利な地點が選定された。中でも

神戸市の機械器具、大阪市の金屬製品、機械器具、尼崎市の金屬製品

機械製作硝子及びセメント製造等はいづれも其の生産額が多い。三菱・川崎兩造船所(神戸)東洋製罐(住友伸銅所)汽車會社(大阪)等は此の種工場の模範たるもので旭ガラス工場(尼崎市)は最新式の製法によつて板硝子の製造をなし、内地は勿論海外へも供給し



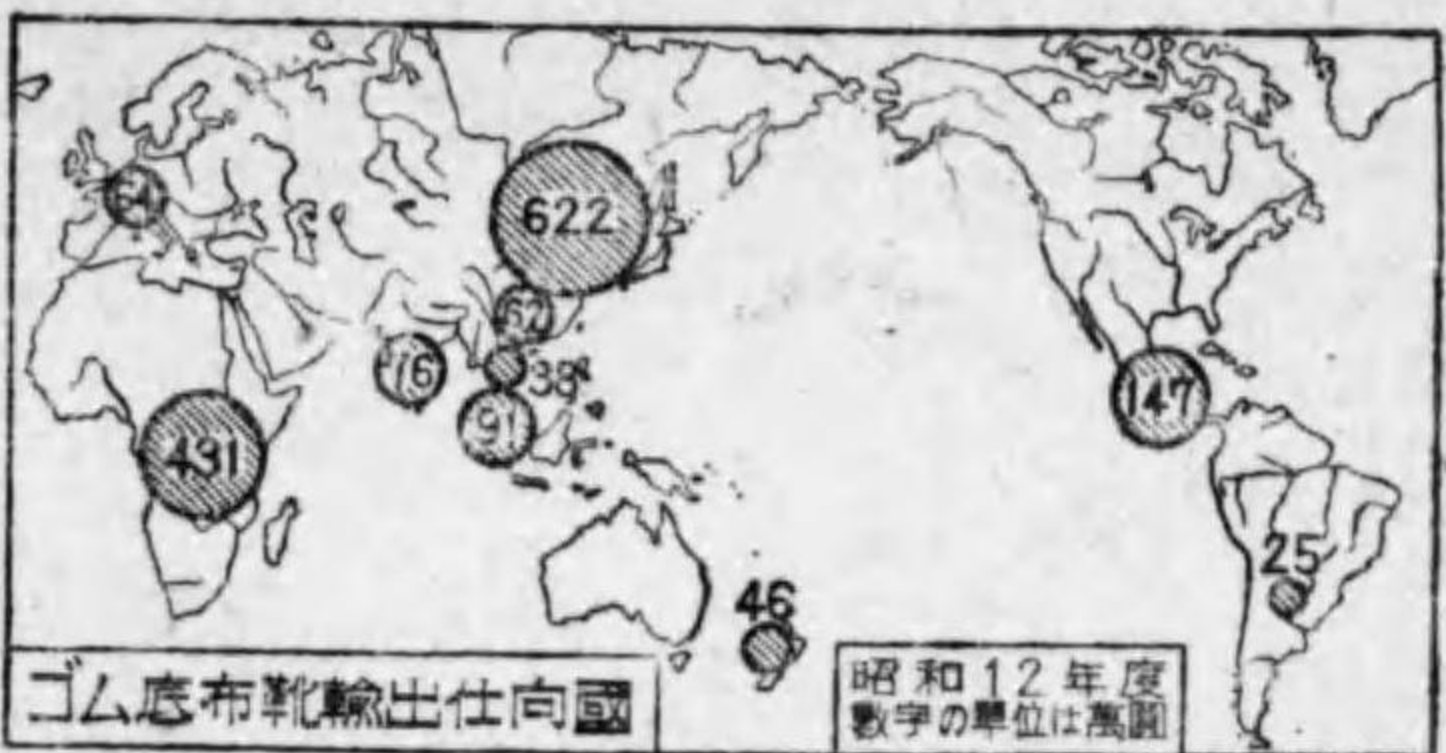
てゐる。其他大阪府下の兵器廠・兵庫縣下の飛行機工場等の特殊工場がある。

三、化學工業及び其他の工業

燐寸工場は神戸市を主とし、明石市・淡路・網干・飾磨等に分布し、大阪市にも數工場を有し、その産額は内地の八〇%を占める。販路は内地・朝鮮を主とし、支那・滿洲國・フィリッピン等にも輸出される。原料の軸木は遠く沿海洲より、小箱の材料は中國地方の松材が利用される。

ゴム工業は新興工業として近年急に名聲を擧げ、内地生産總額の三〇%は神戸市に産出し、大阪市の産額もまた一五%を占めてゐる。原料の生ゴムは主として海峽植民地より輸入され、タイヤ・ゴム靴等の生産が多く、これ等は英領印度・支那・蘭領印度等を始めアフリカ方面へも輸出される。

尙其他の化學工業では、染料・塗料・セルロイド・人造肥料・油脂等の大工場は大阪市・堺市・尼崎市・播磨平野等の濱海地方にある。其他瓦斯製造は大阪市・尼崎市・神戸市



火力發電所は大阪市・尼崎市等に大工場がある。

第四章 交通

近畿地方の中央部は廣い伊勢海・大阪灣・若狹灣の三大灣入によつて本州



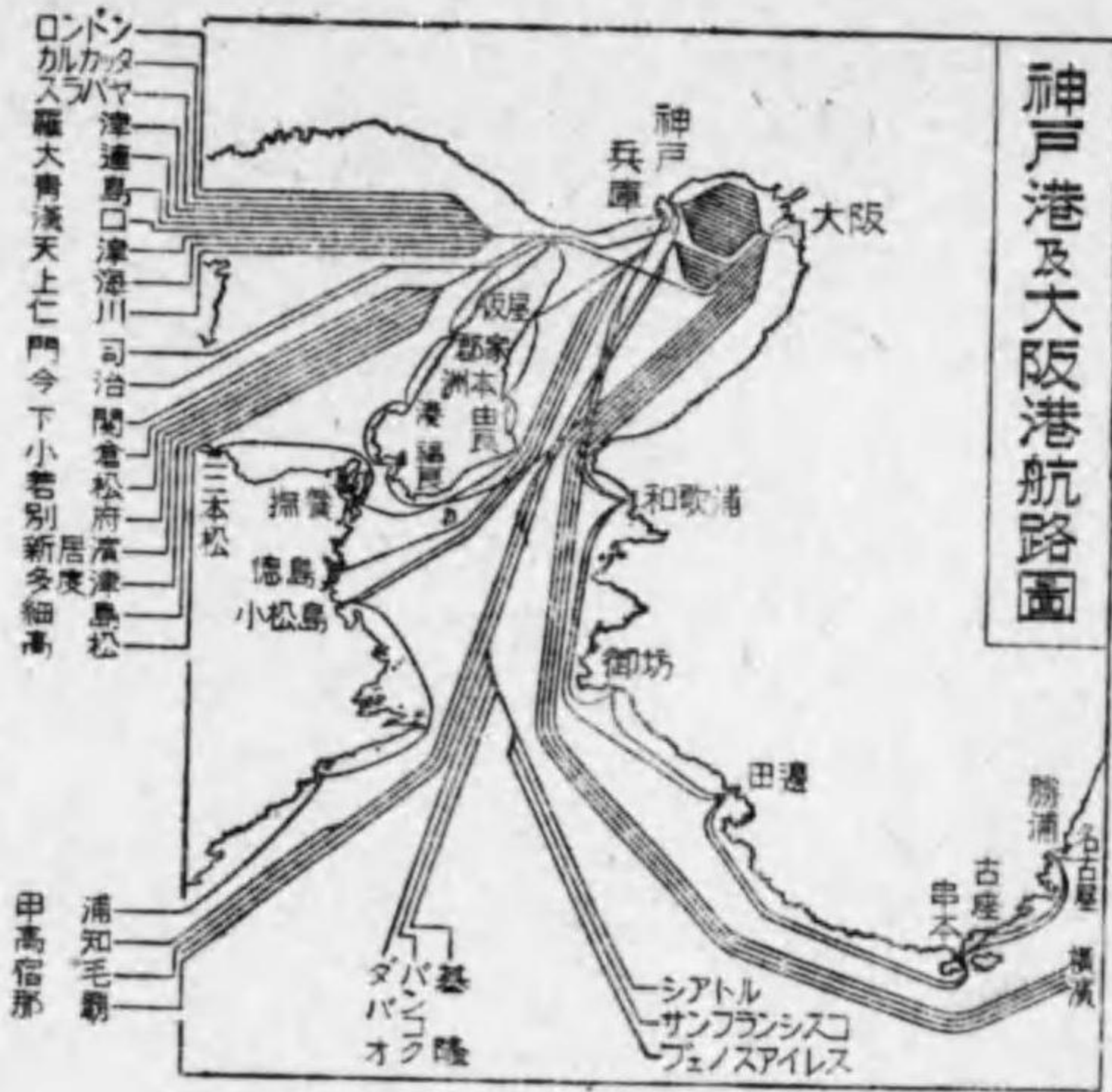
地峽を成すので、東海・東山・北陸・山陽・山陰よりの交通路はこの低地に集合し、大阪市を中樞とする**交通網**が發達してゐる。殊に阪神間は兩端に二大市を有し、且つ帝國交通の幹通に當るため、省線の複々線を初め、三線の郊外電車並びに乗合自動車交通もあり、海上の交通と相俟つて、文字通り織るが如き觀を呈してゐる。

海上交通に於ては神戸港と大阪港が内外航路の二大中心となり、殊に東

亞諸國に至る航路の基點となつてゐる。

大阪市は東京市と共に定期航空及び對外無線電信電話の一中心であつ

神戸港及大阪港航路圖



て、第一飛行場は木津川口に第二飛行場は豊中市附近にある。また大阪中央電信局は無線電信受信所を小野(兵庫縣)と明石市に置き、無線電信送信所を依佐美(愛知縣)と深井(大阪府)に設け對外通信を行ふ。

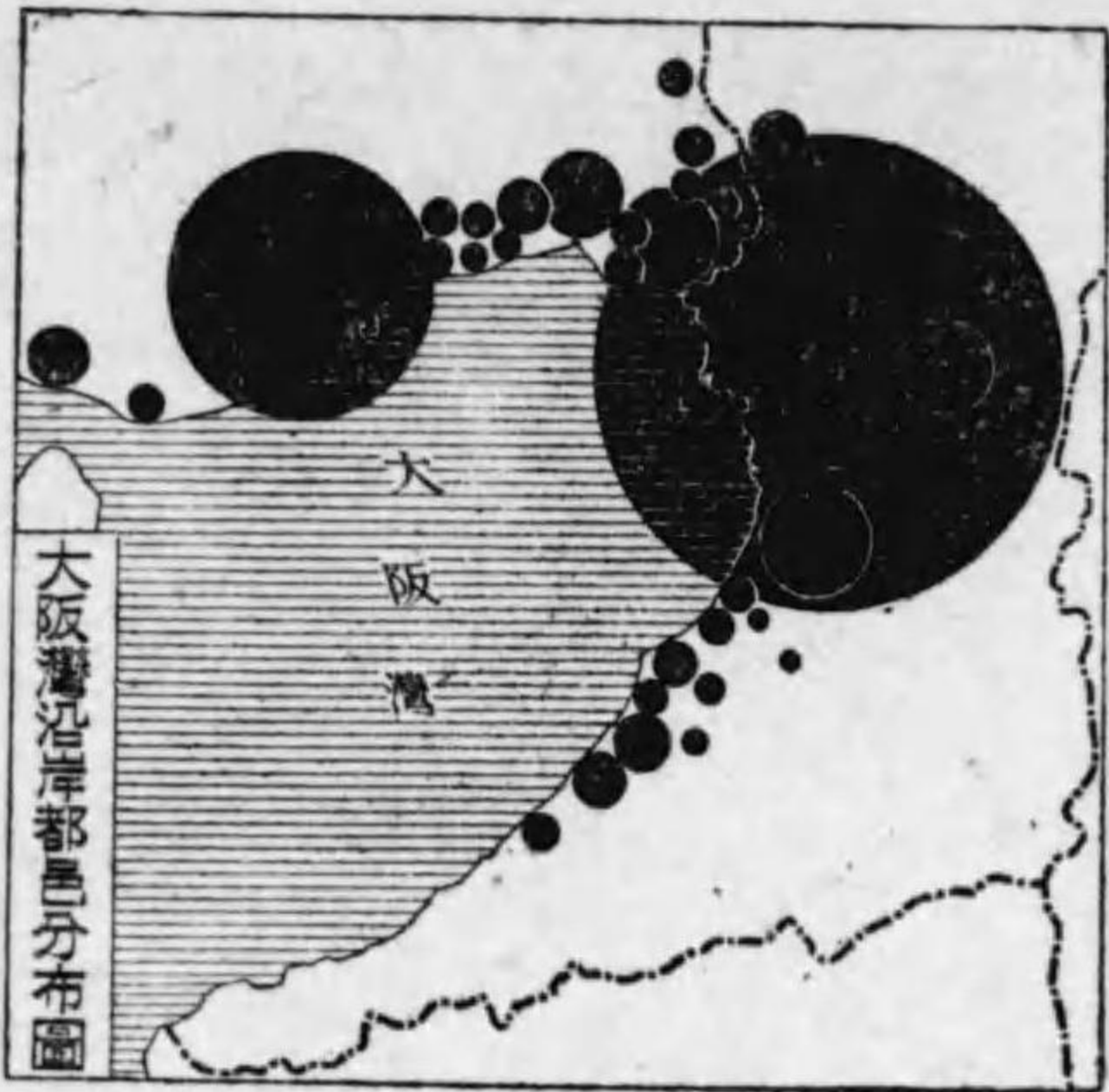
第五章 住 民

産業の最も繁盛を極める阪神の地域は、京濱地方と共にまた我が國で人口の最も稠密な地で、大阪市を中心に大阪灣沿岸に並ぶ都市は七市に及び、また布

施市・豊中市・池田市・明石市・吹田市も是れに接續し、此の地域の人口は内地總人口の約一〇%を占める。人口密度の最大は大阪市の一方料一萬五千九

百五十七人で、是れに次いで神戸市の一萬一千百二十二人もまた大きい。

右の諸市中大阪府神戸市・尼崎市・堺市・布施市及び中河内郡(大阪府)・明石郡(兵庫縣)は男の數が女に優り、他は女の數が多數である。殊に機業地の泉南郡(大阪府)は男百人に對して女百二十人の多數である。また出生地別人口を見ると自然増加人口よりも移住による人口増加が著しく、他地方からの移住が盛に



大阪灣沿岸都市分布圖

行はれてゐる地域である。養鶏業に於ては愛知縣人、綿布商に於ては近江商人、牛乳商に於ては岡山・廣島兩縣人、貝釦製造と貝釦商に於ける奈良縣人、

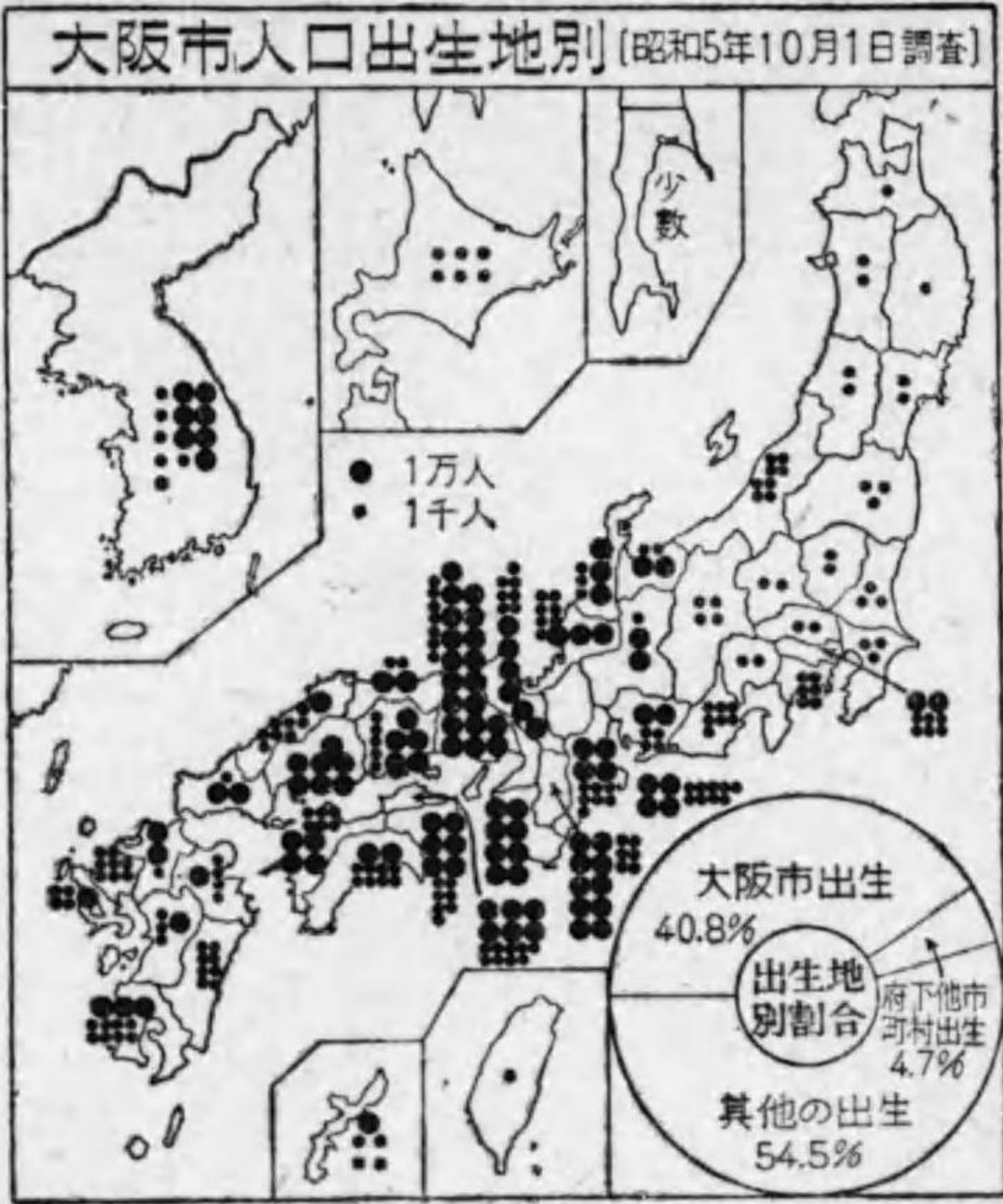
漬物商に於ては三重縣人以上主として大阪市警察官吏に於ては岡山・鹿兒島

兩縣人が多數を占め且つ勢力を有するといはれる。

住民は一般に實利を重んじ商機に長ずるも、稍輕薄なる譏を免れない。

結論

阪神地域は我が國の經濟及び交通上の中心で、且つ將來は東亞諸國との連絡基地として、愈々重



要な使命を有するに至る。

神戸港及び大阪港の擴張とその機能の發揮、阪神運河の完成、陸上に於て

は目下計畫中である標準軌道による新幹線鐵道の敷設、並びに自動車専用道路の建設を圖り、且つ大阪市を中心とした衛星都市の計畫、交通の調整、緑地公園地帯の擴張等を完成し、以て重大使命の達成を圖るべきである。

(終り)

附 録

帝國・兵庫縣・大阪府及び阪神地方主要都市面積人口密度

	面積	人口(昭和10年國勢調査)			密度 ^{昭和14年10月1日推計人口}	
		總數	男	女	人	人
帝國	681274.7 ^{平方}	9945.6 ^萬	4924.2 ^萬	4845.4 ^萬	146	
內地	382545.4	6925.4	3473.4	3452.0	181	7287.5 ^萬
兵庫縣	8322.8	292.3	146.6	145.6	351	313.2
神戸市	82.0	91.2	46.7	44.4	11122	100.6
姫路市	51.5	9.1	4.4	4.7	1767	10.7
西宮市	22.2(27.1)	8.9	4.3	4.6	4009	10.3
尼崎市	15.8(34.9)	7.1	3.7	3.3	4493	15.2
明石市	7.7	4.2	2.0	2.2	5455	4.5
飾磨市						4.0
洲本市						3.1
大阪府	1818.6	429.7	224.1	205.5	2369	486.8
大阪市	187.3	298.9	159.4	139.5	15957	339.4
堺市	15.7	14.1	7.2	6.8	8971	17.9
岸和田市	4.0	3.9	1.8	2.0	90	4.5
豐中市	18.1					4.6
布施市	20.4					12.0
池田市						3.6
吹田市	20.5					6.3

(括弧内の數字は新市編入後の面積)

昭和十五年六月一日 印刷
昭和十五年六月五日 發行

阪神郷土地理
定價 五拾錢

著 者
所 有 權 作

編 者 阪神地理研究會

發行者 富士原信治

印刷所 木村工研社

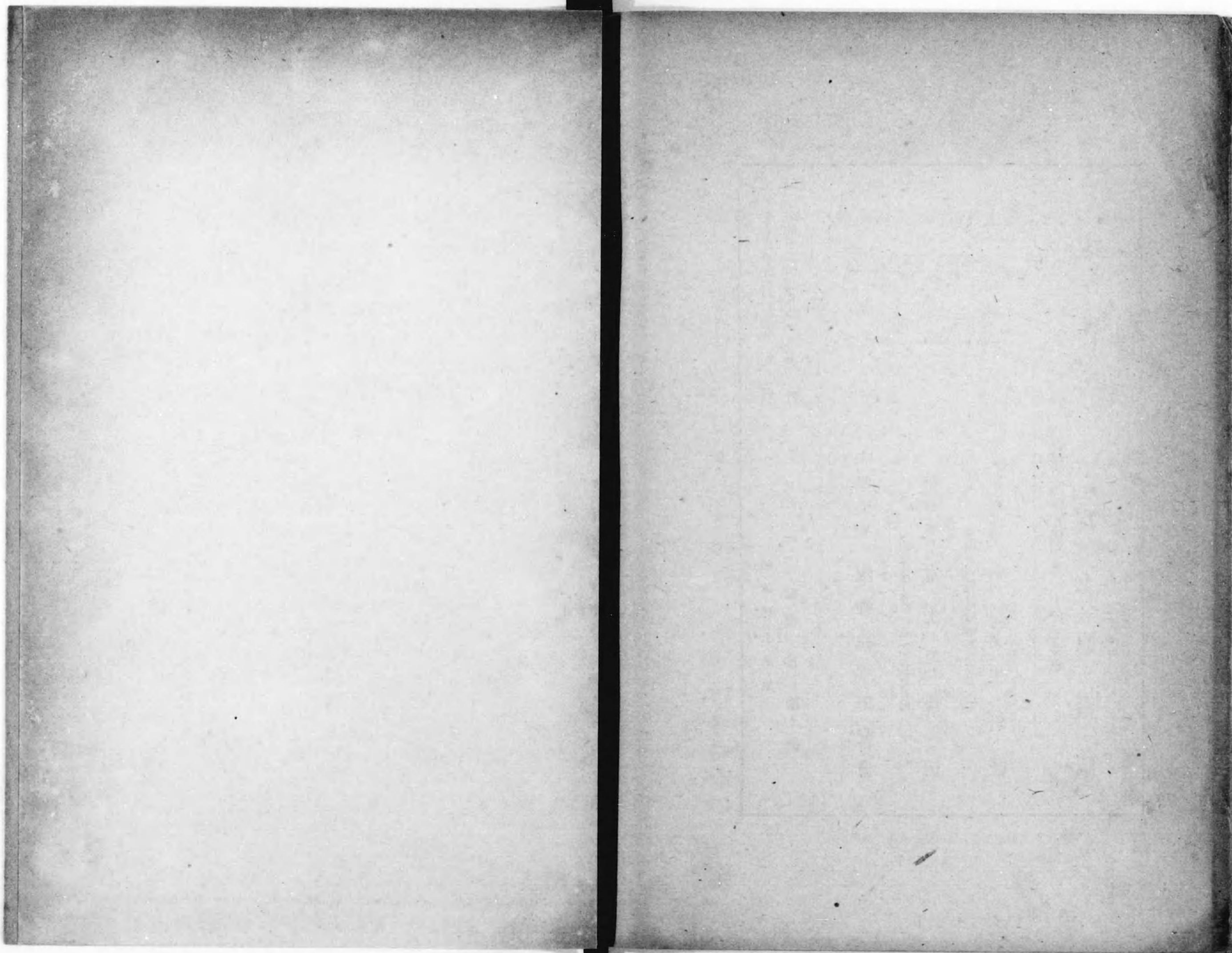
大阪市西區阿波座中通二丁目十二

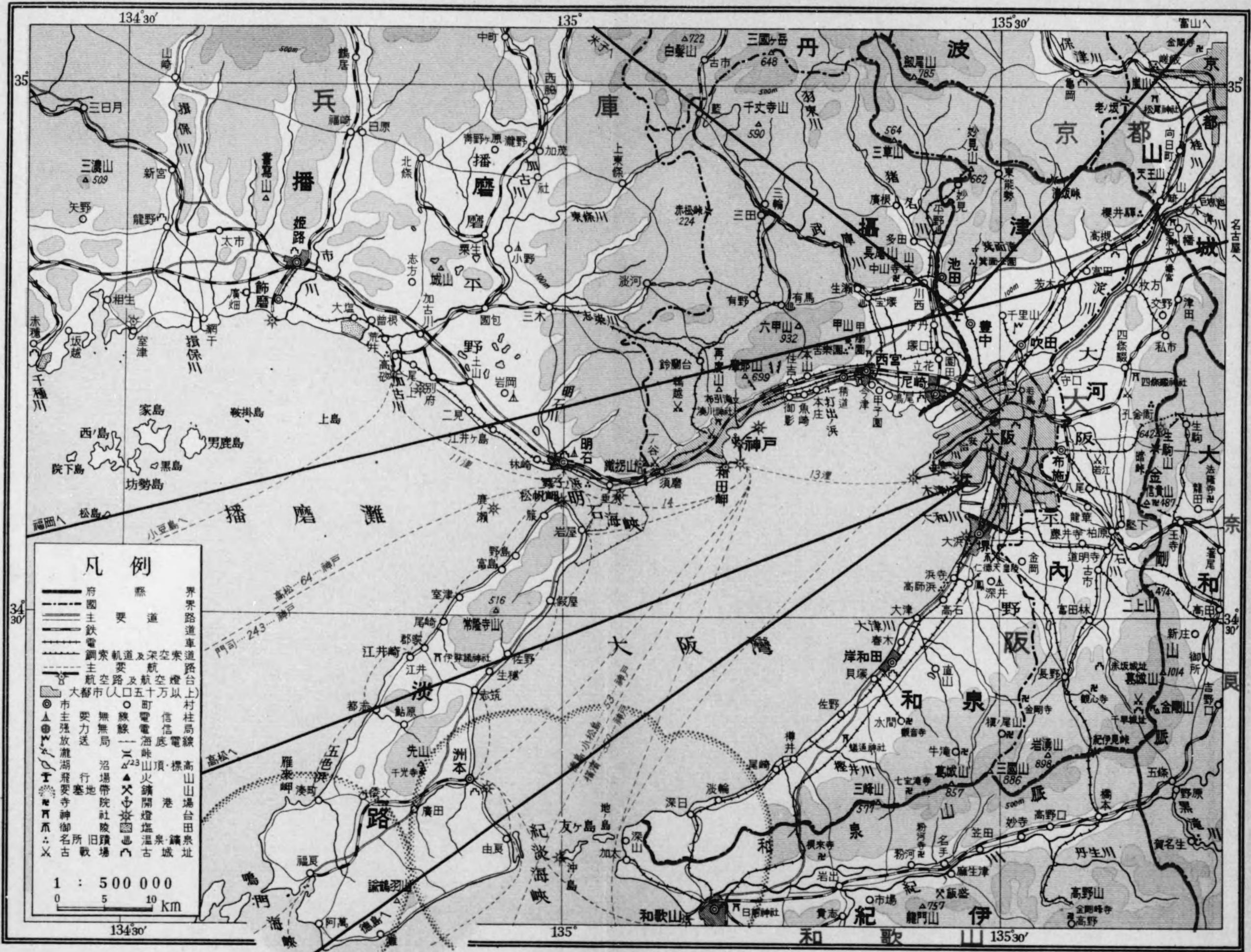
大阪市西區北堀江通一丁目三番地

發行所

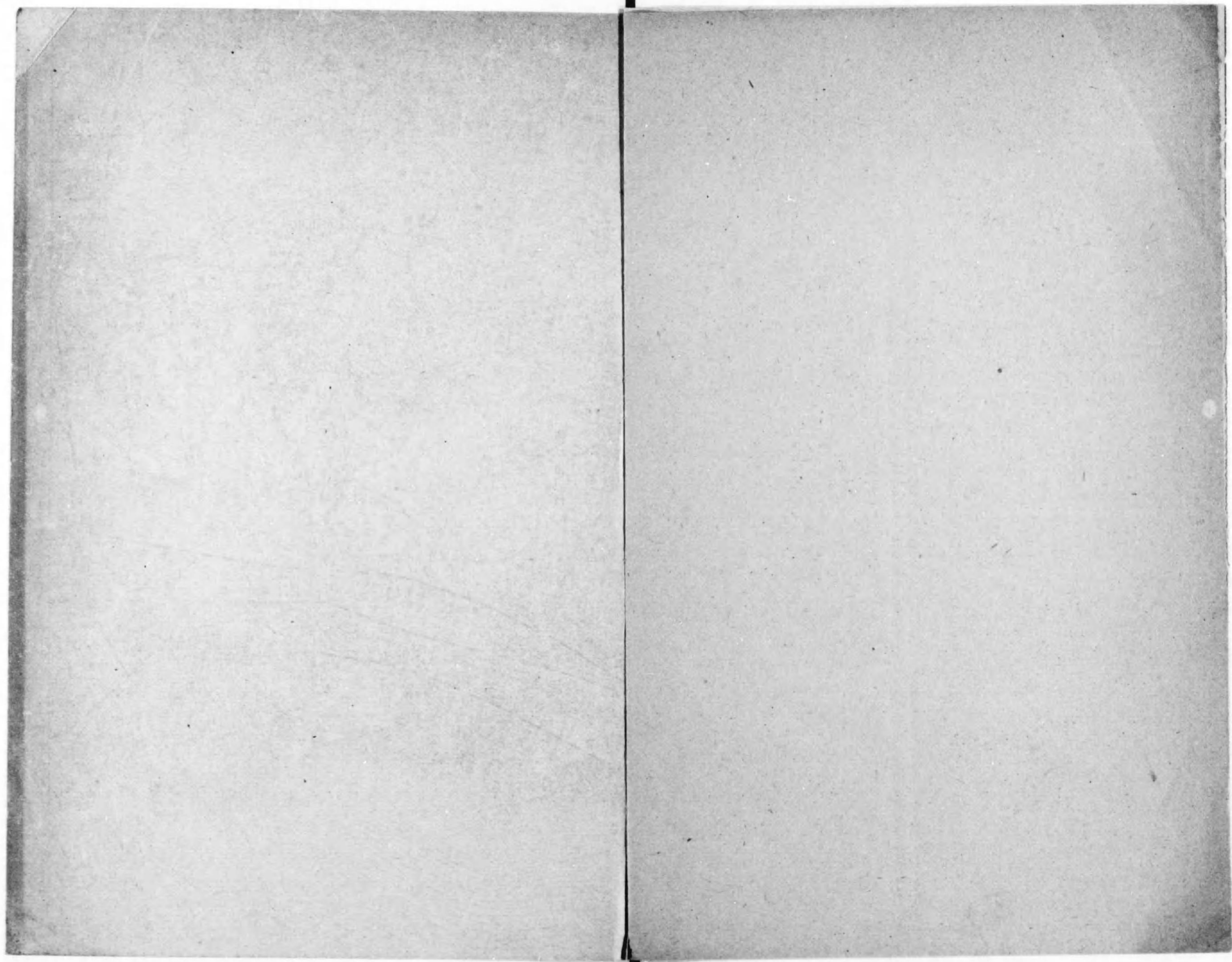
富士原書店

電話新町(53)二二六一番
振替口座大阪六一〇六六番





由夏要基司令部檢閱
昭和十五年四月十七日



403
107



至京都

至うめだ 至おほさか

至大阪 至うめだ

終

